

平安京左京五条三坊十六町跡・  
烏丸綾小路遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一二―二二

平安京左京五条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人  
京都市埋蔵文化財研究所



平安京左京五条三坊十六町跡・  
烏丸綾小路遺跡

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様幅広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物建築に伴う平安京跡・烏丸綾小路遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

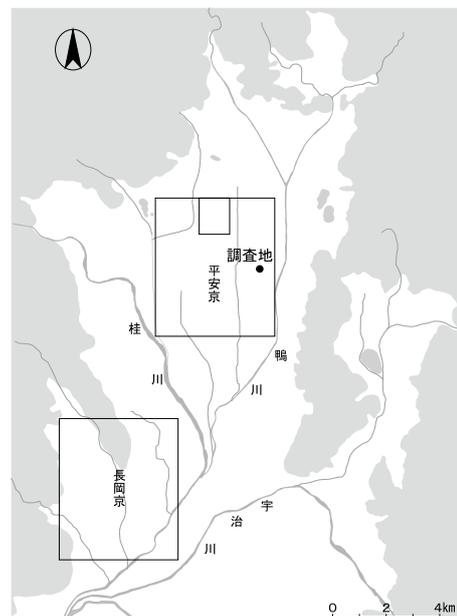
平成25年5月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京五条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡  
(文化財保護課番号 11H513)
- 2 調査所在地 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町7番、30番、東洞院通四条下る元悪王子町40番、44番、45番ほか
- 3 委 託 者 外市株式会社
- 4 調査期間 2012年10月1日～2012年12月25日
- 5 調査面積 280㎡
- 6 調査担当者 高橋 潔
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図(縮尺1:2,500)「壬生」、「三条大橋」を参考に作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ(ただし、単位(m)を省略した)
- 9 使用標高 T.P.:東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 1番から通し番号とし、番号の前に遺構の種類を付した。
- 12 遺構規模 特に断らない限り、遺構検出面での規模を記載する。深さも検出面からの深度を示した。
- 13 遺物番号 遺物の種類に関わらず、掲載順に1番から通し番号とした。写真番号も同一とした。
- 14 本書作成 高橋 潔
- 15 執筆分担 第3章(1)「試掘調査の成果」を鈴木久史(京都市文化財保護課)、第4章(3)「瓦類」を上村和直、その他を高橋 潔が執筆した。
- 16 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。

(調査地点図)



# 目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2. 遺跡の概要	4
(1) 遺跡の位置と概要	4
(2) 周辺の調査	5
3. 調査の概要	9
(1) 試掘調査の成果	9
(2) 発掘調査の成果	11
1) 発掘調査の概要	11
2) 層位	11
3) 第4面の遺構	14
4) 第3面の遺構	16
5) 第2面の遺構	19
6) 第1面の遺構	22
4. 遺物	26
(1) 遺物の概要	26
(2) 土器類	27
(3) 瓦類	35
(4) その他の遺物	38
1) 金属製品	38
2) 土製品	41
3) 石製品	41
5. ま と め	43

# 図 版 目 次

- 図版 1 遺構 第 4 面遺構平面図 (1 : 100)
- 図版 2 遺構 第 3 面遺構平面図 (1 : 100)
- 図版 3 遺構 第 2 面遺構平面図 (1 : 100)
- 図版 4 遺構 第 1 面遺構平面図 (1 : 100)
- 図版 5 遺構 1 1 区全景 (北から)  
2 2 区第 3・4 面全景 (北から)
- 図版 6 遺構 1 2 区第 2 面全景 (北から)  
2 2 区第 1 面全景 (北から)
- 図版 7 遺構 1 3 区第 2・3 面全景 (北西から)  
2 3 区第 1 面全景 (北西から)
- 図版 8 遺構 1 2 区第 4 面 土坑 317 北半掘り下げおよび東西断面 (北西から)  
2 2 区第 3 面 井戸 130B 掘り下げ状況 (南から)  
3 2 区第 3 面 土壙墓 227 埋納土器検出状況 (東から)
- 図版 9 遺構 1 2 区第 3 面 土壙墓 157 埋納土器検出状況 (西から)  
2 同左 完掘状況 (西から)  
3 2 区第 2 面 井戸 130A 掘り下げ状況 (西から)
- 図版 10 遺構 1 2 区第 2 面 埋甕 218 上面埋納土器検出状況 (西から)  
2 2 区第 2 面 土坑 190 検出状況 (北西から)  
3 2 区第 2 面 土坑 17 礫群検出状況 (北東から)
- 図版 11 遺構 1 2 区第 2 面 柱穴列 189・281 礎石検出状況 (東から)  
2 2 区第 2 面 柱穴列 465 検出状況 (北から)  
3 3 区第 1 面 土坑 351 土器検出状況 (西から)
- 図版 12 遺構 1 2 区第 1 面 土坑 115 上面礫群検出状況 (北から)  
2 同左 下層銅銭検出状況 (東から)  
3 2 区第 1 面 井戸 107 掘り下げ状況 (北から)
- 図版 13 遺物 出土土器 1
- 図版 14 遺物 出土土器 2
- 図版 15 遺物 出土土器 3
- 図版 16 遺物 出土土器 4
- 図版 17 遺物 出土瓦類
- 図版 18 遺物 土坑 115 出土銭貨
- 図版 19 遺物 金属製品・土製品・石製品

# 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：500）	2
図3	調査前全景（南東から）	3
図4	2次掘削状況（2区、南から）	3
図5	作業風景（3区、南東から）	3
図6	現地公開風景（西から）	3
図7	平安京における位置図	4
図8	周辺調査地点図（1：2,500）	6
図9	試掘調査3トレンチ実測図（1：100）	10
図10	調査区西壁断面図（1：100）	12
図11	調査区南壁断面図（1：100）	13
図12	土坑317実測図（1：50）	14
図13	土坑288平面図（1：50）	15
図14	土坑288検出状況（南東から）	15
図15	柱穴147埋納土器検出状況（北から）	15
図16	井戸130B実測図（1：50）	16
図17	土壙墓157実測図（1：20）	17
図18	土壙墓157土器検出状況（北から）	18
図19	土壙墓227平面図（1：20）	18
図20	井戸130A実測図（1：50）	19
図21	埋甕218実測図（1：20）	20
図22	埋甕218完掘状況（北から）	20
図23	土坑190実測図（1：50）	20
図24	柱穴列189・281実測図（1：50）	21
図25	柱穴列465実測図（1：50）	22
図26	土坑115実測図（1：20）	23
図27	土坑351実測図（1：20）	24
図28	土坑353遺物検出状況（東から）	25
図29	土坑378遺物検出状況（西から）	25
図30	井戸107実測図（1：50）	25
図31	土器実測図1（1：4）	28
図32	土器実測図2（1：4）	29

図33	土器実測図3 (1 : 4)	30
図34	土器実測図4 (1 : 4)	32
図35	土器実測図5 (1 : 4)	33
図36	土器実測図6 (1 : 4)	34
図37	軒瓦拓影・実測図 (1 : 4)	36
図38	文字線刻瓦拓影・実測図 (1 : 4)	38
図39	有孔埴拓影・実測図 (1 : 4)	38
図40	土坑115出土銭貨拓影 (1 : 1)	39
図41	土壙墓157出土鉄製刀類実測図 (1 : 2)	40
図42	土製品実測図 (1 : 2)	41
図43	石製品実測図 (1 : 2、416のみ1 : 6)	42

## 表 目 次

表1	周辺発掘調査一覧表	7
表2	遺構概要表	11
表3	土坑115出土銭貨一覧表	24
表4	遺物概要表	26

## 付 表 目 次

附表1	掲載土器観察表	45
附表2	掲載銭貨一覧表	57

# 平安京左京五条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡

## 1. 調査経過

### (1) 調査に至る経緯 (図1)

本調査は平安京左京五条三坊十六町および烏丸綾小路遺跡を対象とした発掘調査である。現在では京都市内でも最も繁華な烏丸四条地域にあたり、調査地は四条通から東洞院通を約30m南に下がった西側である。当地において既存建物を解体し新たな建物建築の計画がなされたため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）が、2012年9月に試掘調査を行った。敷地は「L」字状を呈し、北側は四条通に面し、東へ折れて東洞院通に面する。敷地北半の既存建物には地下室が既存して遺構の残存が望めず、試掘調査では敷地の南半に3箇所の調査区を設け、遺構の残存状況の確認が行われた。その結果、敷地南西部の遺構残存状況が比較的良好であることがわかり、約300㎡について発掘調査の実施が必要との指導がなされた。これを受けて財団法人京都市埋蔵文化財研究所が2012年10月1日より本調査を実施した。

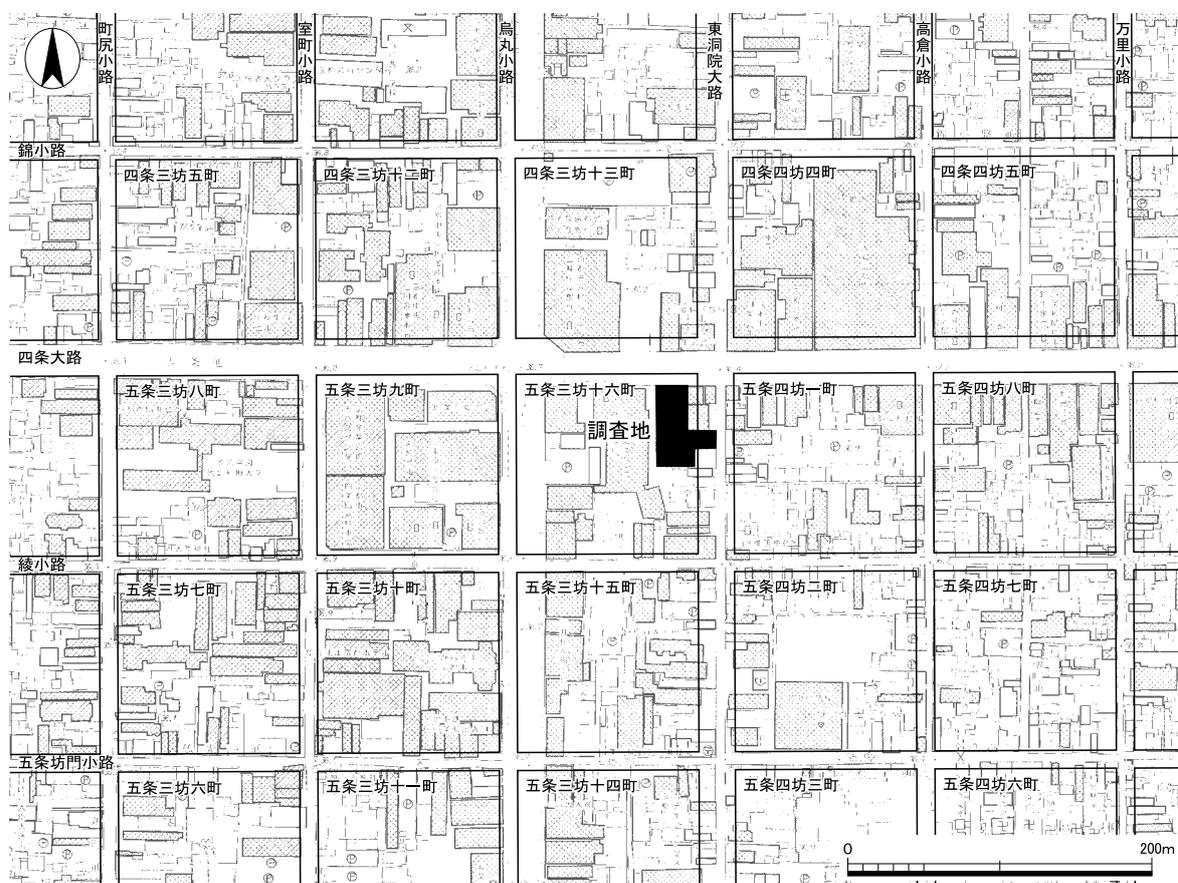


図1 調査位置図 (1 : 5,000)

(2) 調査の経過 (図2～6)

**試掘調査** 開発の申請を受け、遺構の残存状況を確認するため、試掘調査が文化財保護課によって2012年9月5日から7日の3日間実施された。試掘調査区は、計画された建物に沿って3箇所(1～3トレンチ)が設定された。1・2トレンチは十六町の町内に南北方向と東西方向に、3トレンチは東洞院大路および西側溝の推定箇所(東西方向)に設定した。各トレンチで鎌倉時代から室町時代を中心とする遺構群が検出され、当該地には平安時代後期から近世にかけての遺構面が良好に残っていることが推測された。

**調査区の設定** 発掘調査の調査区は試掘調査の結果、遺構の残存状況が比較的良好と判断され

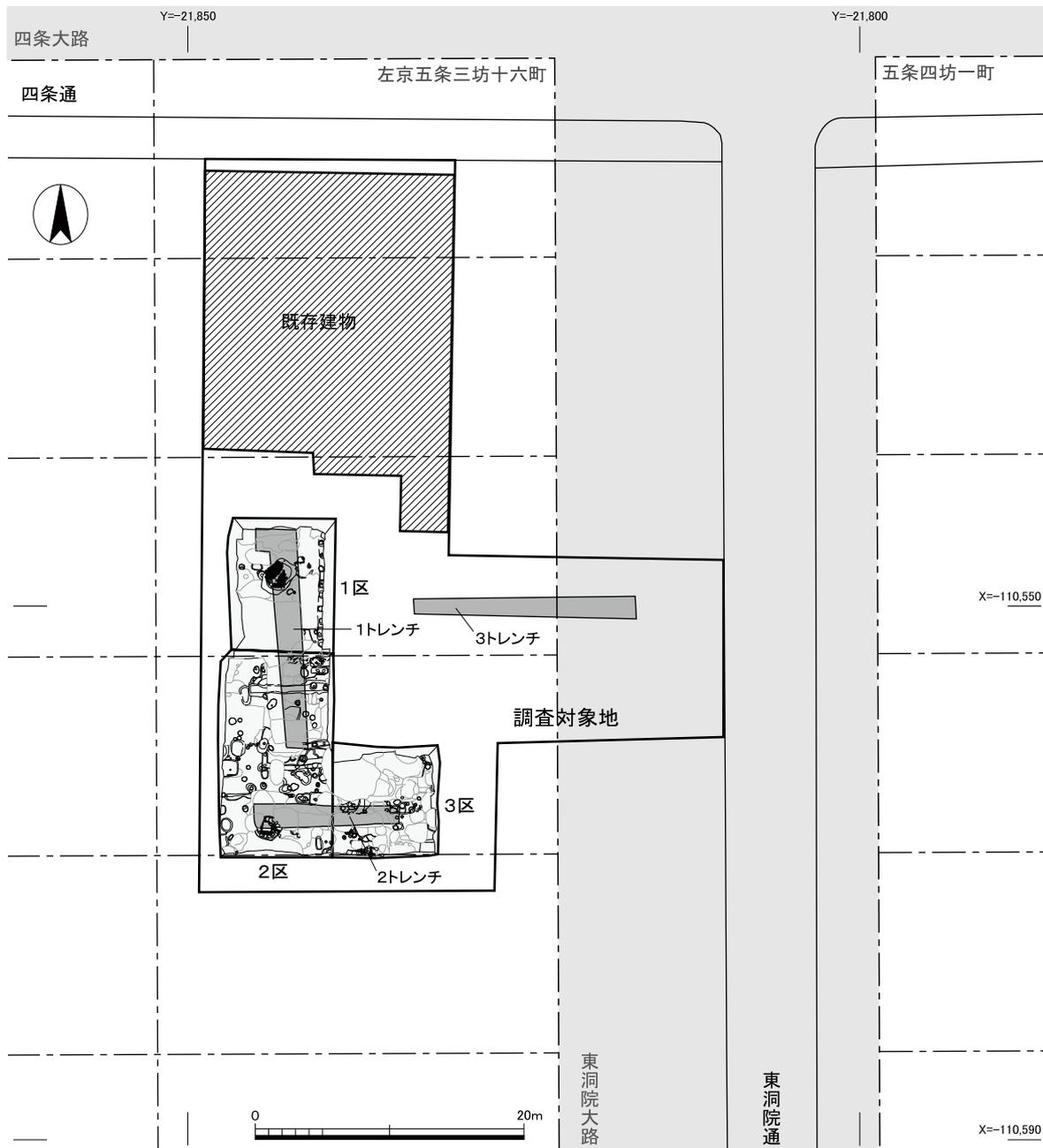


図2 調査区配置図 (1:500)

た敷地南西部に「L」字状の約300㎡の調査区が文化財保護課によって設定された。

調査を敷地北半部の既存ビルの解体工事と並行して行ったため、工事の都合や安全上の諸条件により、文化財保護課と協議の上、計画された調査区の北端を3mほど縮小せざるを得ず、実際の調査面積は280㎡となった。

**調査経過** 調査に先立って、調査中の排土置き場を確保するため、工事業者による1次掘削が行われた。試掘調査の成果に従い、1次掘削として、調査範囲の地表面から約0.7mまでの近世以降の盛土層を重機掘削し、敷地外へ搬出・処分を行った。

調査区は調査中の排土置き場確保のため、北から1～3区の3つに分け、調査は1区、2区、3区の順に進めた。各調査区とも、調査着手時に重機を搬入して2次掘削を行った。2次掘削としては、1次掘削で掘り残った近世以降の層位の掘削を行った。以下の遺構掘削は人力によって行った。遺構の記録は、随時平面図・断面図および立面図を作成し、適宜写真撮影により行った。

調査中の排土は場内に仮置きし、各調査区の2次掘削時に排土の移動や埋め戻しを行った。各調査区は調査終了後、速やかに工事業者へ引渡した。1区および2区北半については平坦に埋め戻しを行ったが、2区南半と3区は埋め戻しを行わずに引き渡した。

調査中は適宜、文化財保護課の臨検・指導を受けた。11月10日、地元向けに現地公開を行い、約30名の参加者があった。調査中の2区を実際に見学して頂き、遺構・遺物などについて説明を行った。



図3 調査前全景（南東から）



図4 2次掘削状況（2区、南から）



図5 作業風景（3区、南東から）



図6 現地公開風景（西から）

## 2. 遺跡の概要

### (1) 遺跡の位置と概要 (図7)

調査地は弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡、烏丸綾小路遺跡の北東部にあたる。平安時代には平安京左京五条三坊十六町の北東部、その後、中・近世を通して京都・下京の中心地として発展した。

当地周辺は京都盆地の底、鴨川右岸に形成された鴨川扇状地の上にあたる。この扇状地は縄文時代以前に形成されたもので、主として砂礫・粗砂・中砂・細砂・微砂・シルトなどから成る北東から南西方向への河川堆積である。巨視的には北東から南西への緩傾斜地であるが、その後も鴨川の氾濫や堆積などの河川活動にさらされ、自然堤防や谷筋が形成されて、微視的には地形の凹凸が見られる。縄文時代以降は比較的安定した状況となり、縄文時代晩期から弥生時代前期のころには集落が形成されるようになる。当地が含まれる烏丸綾小路遺跡もそのような集落群の一つで、これまでの調査成果によれば、特に弥生時代中期から後期には環濠を伴う大規模な集落が形成されていたことが明らかになりつつある。

当地は、延暦13年(794)10月の長岡京からの遷都によって、平安京内に取り込まれて左京五条三坊十六町となる(図7)。十六町は北を四条大路、南を綾小路、東を東洞院大路、西を烏丸小路に囲まれており、調査対象地はこの十六町内の北東部にあたる。十六町は文献史料によると、平安時代中期(10世紀ごろ)には関白・藤原忠平の「西五条第」(『貞信公記』延喜十三年四月条)、平安時代末期(12世紀前半)には尾張守・藤原顕盛の邸宅、長承元年(1132)には鳥羽天皇皇女である

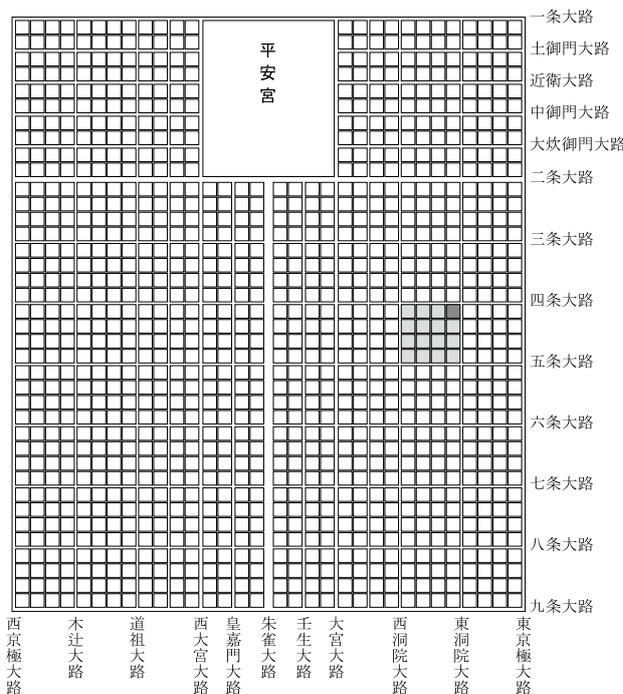


図7 平安京における位置図

る斎院禧子内親王の卜定所(『中右記』長承元年十一月二十五日条)であったことなどが記載されている。このほか12世紀後半、長寛2年(1164)には町の西半分が焼亡し(『清辨眼抄』)、その後に蔵人右衛門権佐・藤原経房の邸宅が建てられた(『山槐記』仁安二年二月十四日条)という。

現在平安時代の十六町にあたる範囲は、北を四条通、南を綾小路通、東を東洞院通、西を烏丸通に囲まれて、道路の位置と規模に変化があるものの、ほぼ平安時代の区画を踏襲した形となっている。この範囲は現在では北が長刀鉾町、南が竹屋之町、東が元悪王子町、西が水銀屋町に分

割されている。このような町割は中世以降、江戸時代を通じて形成され現代に至っているという。長刀鉾町は祇園会の一番・長刀鉾を出す町で、現在は四条通の北側に会所が設けられている。以前は祇園会に、元悪王子町が「はねつるべ山」、水銀屋町が「花見中将山」を出したという記録が残る。また「悪王子」の町名の由来は、慶長年間に豊臣秀吉によって現在の烏丸五条付近へ移転されるまで町内に「悪王子社」があったことによる。悪王子社は天延2年(974)に創建されたとする素盞鳴尊の荒御魂を祀った神社で、東洞院通四条下る西側に建立されたと伝えられ、当地周辺にあったものとみられる。

江戸時代には、後期に松平安芸守の武家屋敷が存在したことが知られるほか、周辺には画家などの文化人や医師、大仏師などが住したようである。

## (2) 周辺の調査(図8、表1)

本調査地の含まれる左京五条三坊十六町を中心とした周辺地域の既往調査の地点を図8に示した。この範囲ではこれまでに本調査を含めて17件の発掘調査が実施されている。古くは現在の京都市地下鉄烏丸線の敷設工事に先立って、1974～1976年に烏丸通で行われている(調査9～11)。これら発掘調査以外に「▲」印で示した地点もこれまでにビルの建設など何らかの開発行為が行われ、「試掘調査」や「立会調査」が行われた地点である。

全体として、鎌倉時代から室町時代の遺構・遺物が主体的であり、江戸時代以降の遺構には大型で深いものが目立つ。このようなことから、平安時代以前の遺構は後世の遺構に壊されなかったものが部分的に検出されるという状況で、遺物も後世の遺構に混入して出土するものが多い。

当地周辺は、弥生時代から古墳時代に中心を持つ集落遺跡・烏丸綾小路遺跡の北東部にあたる。これまでの調査では弥生時代前期以降、飛鳥時代に至る遺構・遺物の分布が知られている。特に、現烏丸四条の交差点を中心として弥生時代中期から後期の竪穴住居や土坑・方形周溝墓および環濠と考えられる溝などが検出されており、土器類も多量に出土している(調査1～3・6・14)。古墳時代の遺構・遺物は南部に散見され、竪穴住居や溝・土坑などが検出されている(調査7・8・17)。

平安時代の遺構は、前期の土坑・整地層(調査1・3・17)、中期の井戸・掘立柱建物・土坑(調査1・3・4・6・11・12・17)、後期の土坑・井戸・柱穴・掘立柱建物(調査2・5・6・12・13・14)などが検出されている。それぞれの宅地内で散見される程度であり、条坊側溝や内溝などに相当する溝などは検出されていない。

鎌倉時代から室町時代の遺構・遺物は各調査で多く検出されている。遺構は土坑・柱穴・井戸・掘立柱建物・土墳墓・室など多岐にわたる。条坊側溝は調査4で四条大路北側溝、調査5で東洞院大路東側溝、調査13で同大路西側溝を検出している。また、調査6では常滑産大甕を整然と並べた埋甕群や麴室の可能性のある地下式倉庫などが検出され、酒屋があったと推定される。また、調査17では南北方向に延びる幅7m、深さ2mの大型の溝(堀)が検出され、中世下京の惣構に関連するものと考えられている。

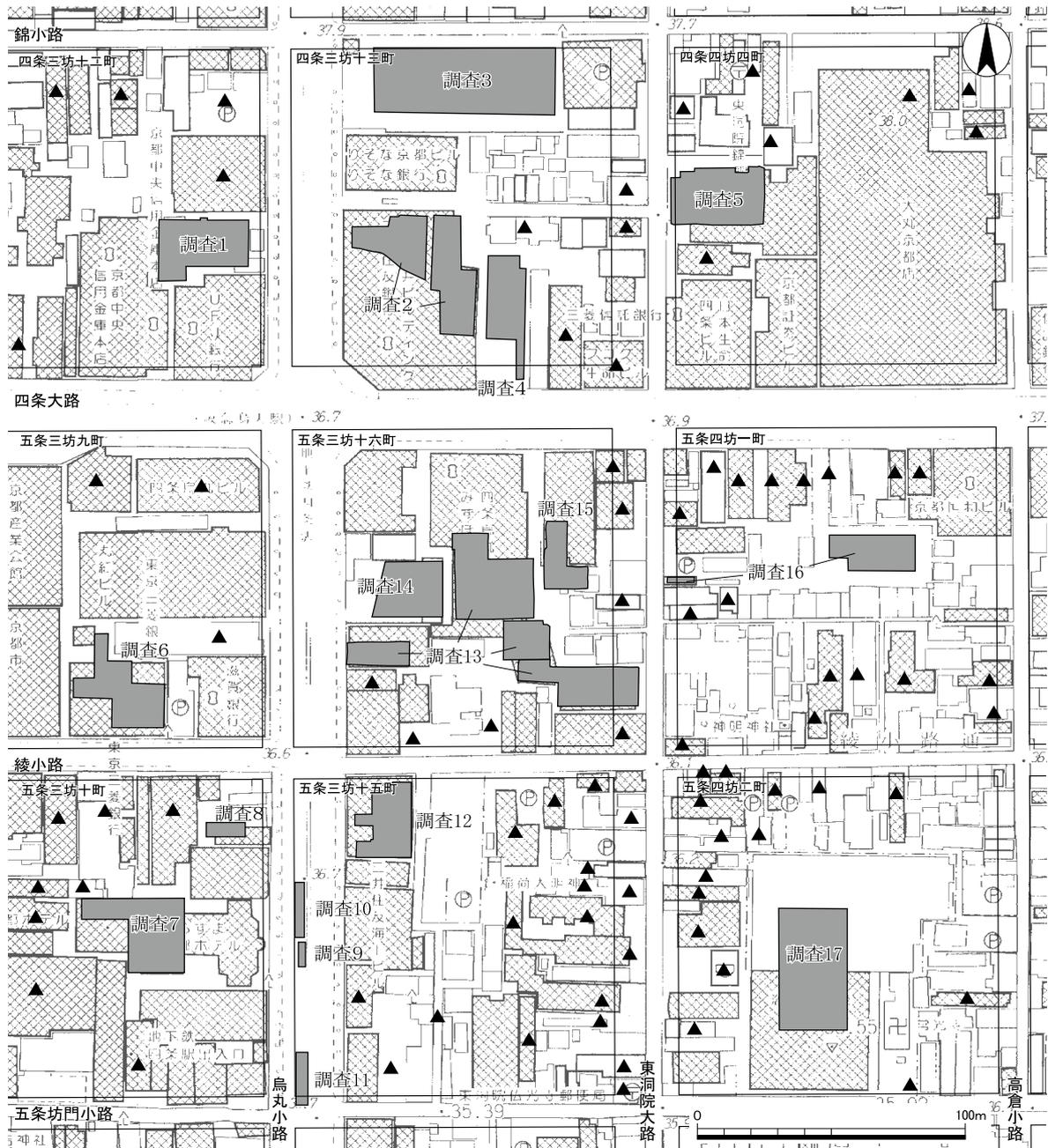


図8 周辺調査地点図 (1:2,500) ▲は試掘・立会調査地点

江戸時代の遺構・遺物も多く検出されている。特記されるのは調査5で検出された前期の土坑および炉などからなる鏡铸造関連遺構群である。埴塙や轆の羽口などの破片、鏡の鑄型破片などが多量に出土し、当地に鏡の鑄造工房があったことが明らかになっている。

註

- 1) 文献史料の記述については、以下の文献を参考にした。  
『京都市の地名』日本歴史地名大系27、平凡社、1979年9月。  
山田邦和「左京全町の概要」『平安京提要』角川書店、1994年6月。

表1 周辺発掘調査一覧表

調査番号	条 坊	調査期間	面積	調査機関	調査地	主な調査成果	烏丸綾小路遺跡関連	文献番号
1	四条三坊十二町	2006.08.28～2007.01.30	690㎡	京市研	下京区四条通室町東入函谷鉾町ほか地内	平安前期:土坑、平安中～後期:土坑・柱穴、鎌倉～江戸各期:土坑・柱穴・井戸など	弥生中～後期:方形周溝墓・堅穴住居、古墳期:土坑。	13
2	四条三坊十三町	1982.04.09～08.31	1700㎡	古学協	中京区烏丸通四条上る箒町695、下京区四条通烏丸東入長刀鉾町8・19	平安後期:土坑・井戸・柱穴・掘立柱建物、平安後期～鎌倉期:土坑・井戸・柱穴・掘立柱建物、室町期:井戸・土坑・柱穴など	弥生前期:土坑、弥生中～後期:土坑・溝・堅穴住居。	7
3		1989.05.18～1990.03.03	1755㎡	京市研	中京区錦小路通烏丸東入元法然寺町684ほか	平安前・中期:井戸・整地層、平安後期:柱穴・井戸・土坑・溝、鎌倉～室町前半:柱穴・井戸・土坑、室町後半:柱穴・井戸・土坑・溝、江戸期:井戸・石室・土坑	弥生中期:土坑・溝	9
4		2004.01.16～03.19	520㎡	古文調	下京区四条通烏丸東入長刀鉾町	平安中期:土坑、平安末～鎌倉期:井戸、室町期:溝(四条大路北側溝)・井戸		未報告
5	四条四坊四町	1991.04.01～10.12	720㎡	京文博	中京区東洞院通錦小路下る阪東屋町	平安後期～鎌倉期:井戸・土坑、室町期:土探坑・土壇墓・溝・埋甕・土坑・柱穴群、江戸前期:鏡鋳造関係遺構群(土坑・炉)・井戸	弥生中～後期:流路・溝	8
6	五条三坊九町	2008.05.07～09.25	585㎡	京市研	下京区童侍町159-1	平安中・後期:掘立柱建物・土坑・井戸・溝、鎌倉～室町:柱穴・礎石列・埋甕群・井戸・地下式倉庫・土坑、江戸期:礎石列・竈・埋甕・溝・石室・井戸・土坑	弥生中期:溝・土坑	15
7	五条三坊十町	1981.04.08～07.31	770㎡	京市研	下京区烏丸通綾小路下る二帖半敷町652	平安・鎌倉～室町前半:井戸・土坑・柱穴、室町後半・桃山:土坑・井戸・溝・柱穴・石室・墓など	古墳期:堅穴住居	6
8		1979.11.29～1980.01.14	77.5㎡	烏線調	下京区烏丸通綾小路下る西入二帖半敷町	平安後期～江戸各期:土坑・柱穴	古墳期:堅穴住居・溝	5
9	五条三坊十五町	1974.06.01～06.27	24㎡	烏線調	下京区烏丸通仏光寺上る二帖半敷町	室町末期:柱穴、江戸後期:井戸	弥生末期:柱穴・土坑	1
10		1976.07.29～09.10	80㎡	烏線調	下京区烏丸通綾小路下る二帖半敷町	平安後期～鎌倉期:土坑・柱穴群、室町期:埋甕・土坑・柱穴、室町末期～江戸期:土坑・井戸・石組遺構	弥生末期:溝	2
11		1976.07.29～09.10	80㎡	烏線調	下京区烏丸通仏光寺上る二帖半敷町	平安中期:井戸、平安後期:土坑・柱穴、鎌倉期:土坑、室町期:土坑・石組遺構。		3
12		1979.06.11～09.29	722㎡	古学協	下京区烏丸通綾小路下る竹屋之町	平安中・後期:井戸・土坑、鎌倉期:柱穴・土坑・土壇墓、室町期:柱穴・土坑・土壇墓・井戸など		4
13	五条三坊十六町	1991.10.14～1992.10.26	980㎡	関文調	下京区四条通東洞院西入元悪王子町、竹屋町、水銀屋町	平安後期:井戸・遺物包含層、鎌倉～室町期:井戸・土坑・溝、桃山～江戸期:井戸・土坑・溝・柱穴・礎石建物		11
14		2005.07.04～12.07	540㎡	古学協	下京区四条通烏丸東入長刀鉾町10	平安後期:柱穴・溝・土坑、鎌倉～室町期:柱穴・溝・土坑・室・井戸、江戸期:井戸・土坑	弥生～古墳期:溝・方形周溝墓	14
15		2012.10.01～12.21	280㎡	京市研(本調査)	下京区四条通東洞院西入長刀鉾町、元悪王子町	平安中期:井戸、平安後期～鎌倉期:土坑・柱穴、室町期:土坑・溝・井戸・柱穴・柱穴列、江戸期:土坑・井戸・柱穴など		本報告
16	五条四坊一町	2005.01.31～04.26	450㎡	古文調	下京区東洞院通四条下る元悪王子町42	平安～鎌倉期:土坑・溝・柱穴、室町期:柱穴・土坑・井戸・溝	弥生末～古墳初期:流れ堆積	12
17	五条四坊二町	1992.07.01～1993.01.13	1272㎡	京市研	下京区仏光寺通高倉西入西前町358 洛央小学校	平安前～中期:土坑・礫群・整地層、平安後期:井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町期:井戸・土坑・堀	古墳初期:堅穴住居、飛鳥期:土坑・溝	10

京市研:財団法人京都市埋蔵文化財研究所、古学協:財団法人古代学協会、古文調:古代文化調査会、京文博:京都府京都文化博物館、烏線調:京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、関文調:関西文化財調査会

文献一覧（表1の文献番号に一致する）

- 1 大矢義明「No.6」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ 1974, 75年度』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、1980年3月。
- 2 「No.47」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ（本文編）1976年度』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、1981年3月。
- 3 「No.48」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ（本文編）1976年度』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、1981年3月。
- 4 佐々木英夫ほか『平安京左京五条三坊十五町』平安京跡研究調査報告第5輯、財団法人古代学協会、1981年7月。
- 5 「No.80」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ（本文編）1977～1981年度』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、1982年3月。
- 6 平尾政幸・中村敦「左京五条三坊（1）」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1983年3月。
- 7 寺島孝一ほか『長刀鉾町遺跡 —平安京左京四条三坊十三町—』平安京跡研究調査報告第11輯、財団法人古代学協会、1984年3月。
- 8 植山茂ほか『平安京左京四条四坊四町 京都市中京区阪東屋町』京都文化博物館調査研究報告 第9集、京都府京都文化博物館、1993年3月。
- 9 小森俊寛・上村憲章「平安京左京四条三坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1994年9月。
- 10 長戸満男ほか「平安京左京五条四坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1995年9月。
- 11 吉川義彦『平安京左京五条三坊発掘調査報告』関西文化財調査会 1998年3月。
- 12 家崎孝治ほか『平安京左京五条四坊一町 —四条高倉マンション新築に伴う調査—』古代文化調査会、2006年3月。
- 13 平尾政幸『平安京左京四条三坊十二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-26、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2007年3月。
- 14 堀内明博・江谷寛「平安京左京五条三坊十六町跡 三菱東京UFJ銀行新築工事に伴う調査」『平安京跡研究調査報告 第22輯』財団法人古代学協会、2008年11月。
- 15 網伸也・柏田有香『平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-10、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2008年12月。

### 3. 調査の概要

#### (1) 試掘調査の成果 (図9)

試掘調査では図2に示したように、3箇所の調査区(1～3トレンチ)を設けた。各トレンチとも鎌倉時代から室町時代を中心とする遺構群が検出され、平安時代以降、江戸時代に及ぶ遺構・遺物が遺存していることが判明した。特に3トレンチでは大半が江戸時代以降の遺構群に壊されていたものの、東端部では東洞院大路西側溝・路面に相当する溝や礫敷などが検出された。

1・2トレンチは発掘調査区と重複しているが、3トレンチの部分は遺構の遺存状況があまり良くないことに加え、工事進行など諸条件の調整が難しく、発掘調査を実施することができなかった。このため、ここに項を設けて3トレンチで検出した主要遺構について報告しておく。3トレンチは現在の東洞院通に近接しており、現代盛土直下には江戸時代の整地層(厚さ0.5m)がある。これを除去すると、鎌倉から室町時代整地層、平安時代後期整地層があり、基盤層(いわゆる「地山」)となる。検出した主な遺構は、鎌倉時代から室町時代および平安時代後期の土坑・東洞院大路西側溝・路面などである。

**溝2**(図9断面図第34層) 溝2は幅約2.2m、深さ約1mを測り、断面は逆台形を呈する。側溝の肩口には護岸を施した痕跡は認められなかったが、西肩の地山に礎石が据えられている。また、側溝埋土中に据え付け痕跡を確認することができなかったが、平坦面を上面にした人頭大石を検出した。溝埋土からは、13世紀後半から14世紀前半に属する土師器が出土した。

**溝3**(図9断面図第48層) 溝3は溝2の下層、東肩で検出した。幅0.5m以上の南北方向の溝である。埋土から12世紀に属する土師器が出土した。

**路面4**(図9断面図第37～41層) 溝2の東肩で検出した。平安時代の東洞院大路側溝(溝3)と路面(路面5)を砂泥層と砂礫層で覆い、その後、砂泥と砂礫の互層で突き固めている。したがって、路面は石を敷いたものと推測することができる。路面には遺物が含まれていなかったが、東洞院大路西側溝(溝2)とほぼ同時期に成立したものと考えられる。

**路面5**(図9断面図第47層) 地山直上に砂礫層が突き固められている。遺物が出土しなかったことから正確な構築年代は明らかではないが、溝3に対応するものと考えられる。

溝2は鎌倉時代後期から室町時代初期、溝3は平安時代末期の東洞院大路の西側溝に相当し、それぞれ対応する路面を検出した。溝はいずれも東洞院大路の西築地推定基準ラインより東で検出され、宅地の東端が2mほど路面側へ張り出していたことがわかる。なお、本調査地の南側の調査(調査13)では本調査の溝2の南延長上に溝(SD1330)が検出されている。SD1330は室町時代末期から桃山時代に掘られ、江戸時代初期に埋められた南北方向の溝で、幅5.5m以上の濠として報告されている。しかし年代的に齟齬があり、同一の溝(濠)と断定できない。

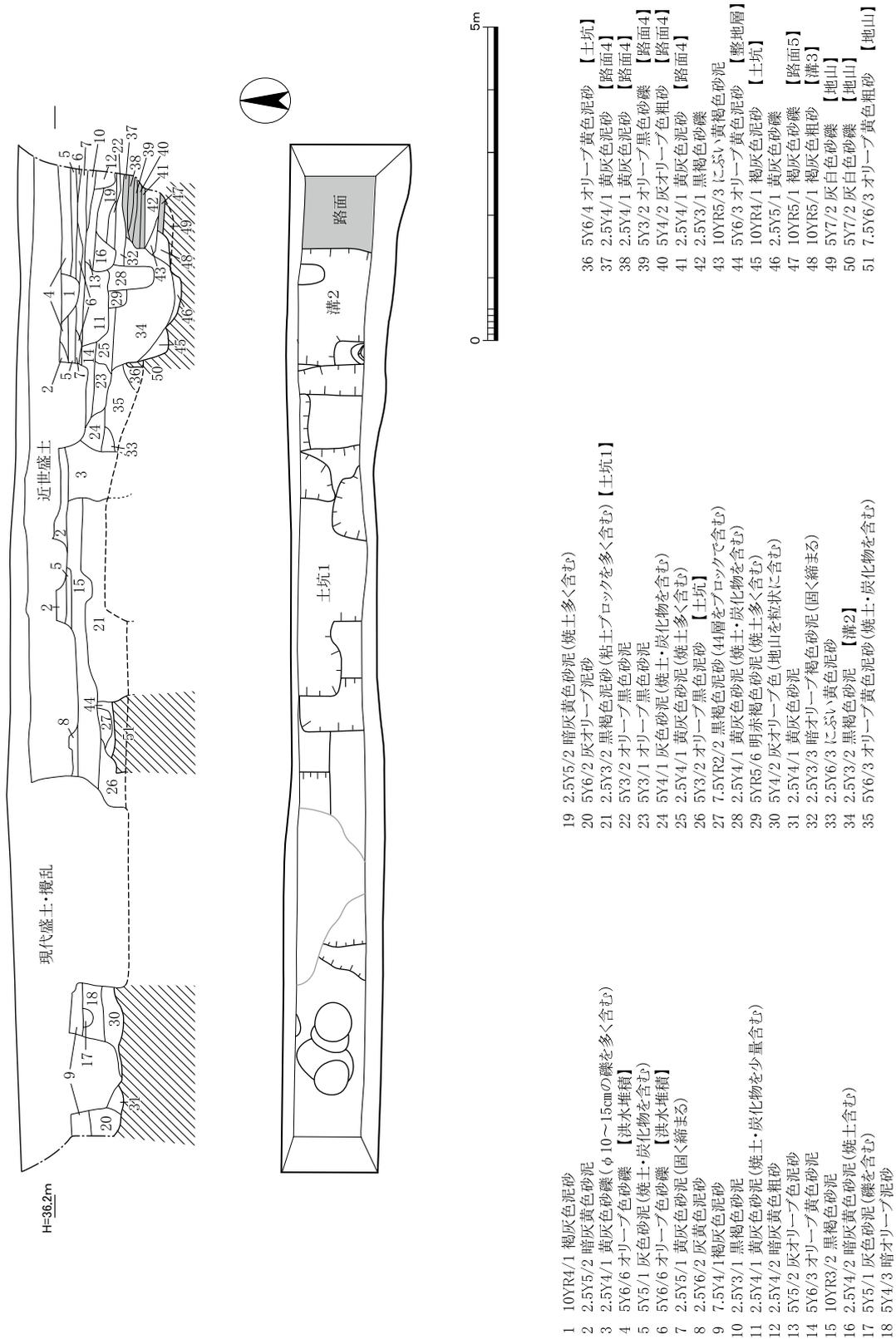


図9 試掘調査3トレンチ実測図 (1:100)

## (2) 発掘調査の成果

### 1) 発掘調査の概要 (表2)

発掘調査は、先述したように北側の既存建物の解体工事と並行して行い、排土置場や解体工事の進行状況との兼ね合いなどのため、小面積ながら1～3区の3つの調査区に分けて調査を行った。試掘調査の成果に従い、現代盛土および江戸時代の整地層など地表下0.7m前後までの土層を重機(1次掘削・2次掘削)によって除去し、以下の作業は人力によって進めた。江戸時代以降の遺構・遺物は対象外としたが、重機掘削面以下に検出された遺構については江戸時代以降の遺構・遺物についても人力によって掘り下げを行った。今回の調査では、平安時代から江戸時代の各遺構・遺物を検出した。検出した遺構の大半は室町時代のもので、複雑に重複して調査区全体として同時的な生活面の検出は難しく、調査では、ある程度の時間幅のある遺構面の認定とならざるを得なかった。

各遺構から出土した遺物を検討した結果、おおよそ平安時代中期から後期、平安時代末期から鎌倉時代前半(第4面)、鎌倉時代末期から室町時代初期(第3面)、室町時代前期から後期(第2面)、室町時代末期から江戸時代前期(第1面)に分けて捉えることができた。検出した遺構は室町時代前期から後期のものが多く、ついで室町時代末期から江戸時代前期のものが多い。鎌倉時代以前の遺構・遺物は圧倒的に少ない。1基のみであるが、平安時代中期にさかのぼる井戸(土坑317)を検出したことは重要な成果と評価できる。

また、当地は平安京以前の烏丸綾小路遺跡の範囲内に含まれており、多少後世の遺構に混じって縄文時代の石器、弥生土器や古墳時代の土師器・須恵器などが出土するものの、遺構は全く検出できなかった。後述するように遺構面である地山面が比較的高い標高で検出され、後世の遺構に壊されたとも考えられるが、遺構分布の中心からはやや離れた位置にあたっているとみたほうが良いかもしれない。

### 2) 層位 (図10・11)

調査地は、現代盛土によって平坦に整地されており、地表面の標高は37.0m前後である。既存建

表2 遺構概要表

時代	遺構	遺構面
平安時代中期～後期	井戸	第4面
平安時代末期～鎌倉時代前半	柱穴、土坑	第4面
鎌倉時代末期～室町時代初期	井戸、土坑、土壙墓、柱穴	第3面
室町時代前期～後期	井戸、土坑、柱穴、埋甕、礎石柱列、溝	第2面
室町時代末期～江戸時代前期	井戸、土坑、柱穴、礎石柱列、溝	第1面

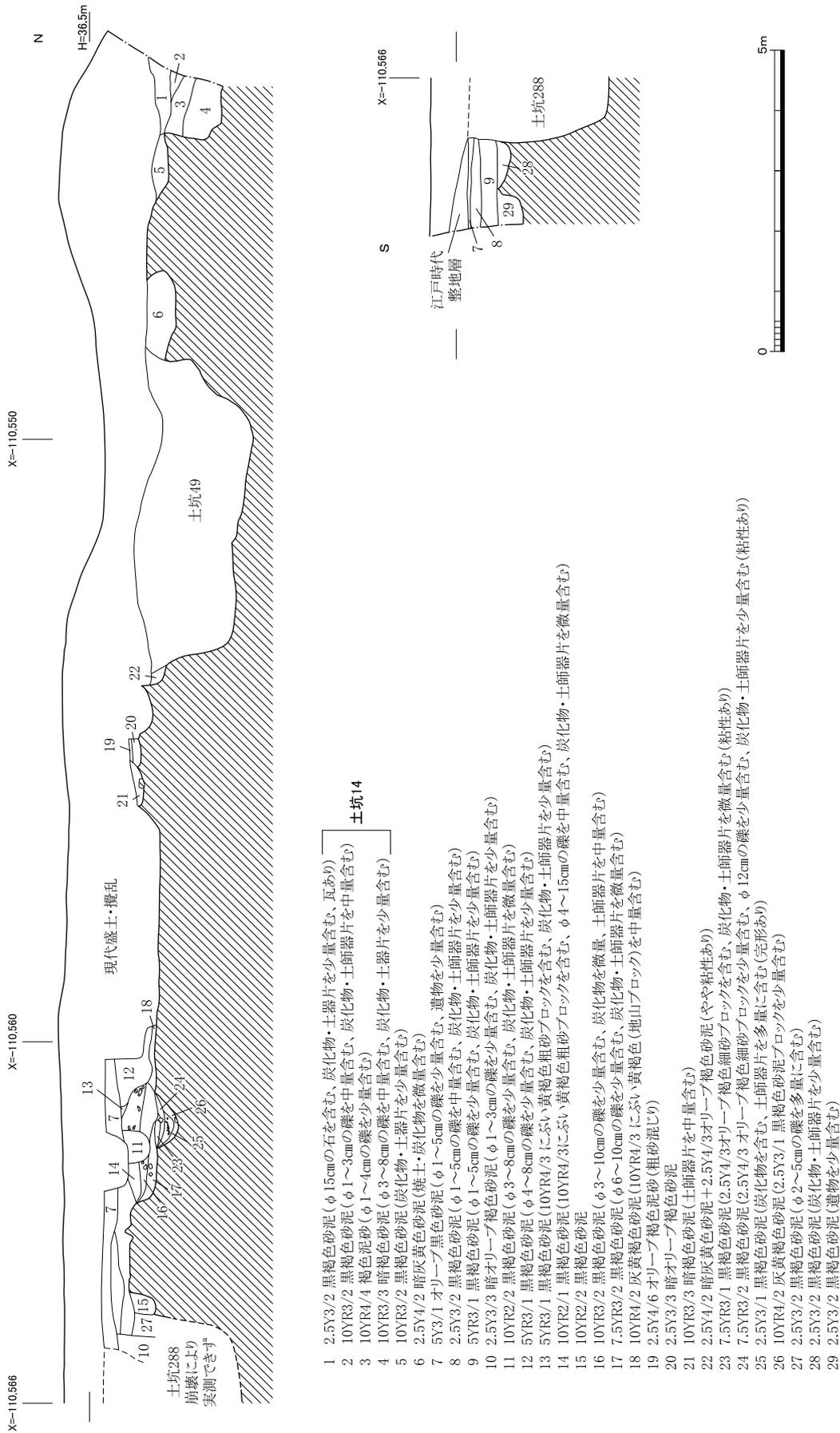


図10 調査区西壁断面図 (1 : 100)

- 1 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (φ 15cmの石を含む、炭化物・土器片を少量含む、瓦あり)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 (φ 1~3cmの礫を中量含む、炭化物・土師器片を少量含む)
- 3 10YR4/4 褐色泥砂 (φ 1~4cmの礫を少量含む)
- 4 10YR3/3 暗褐色砂泥 (φ 3~8cmの礫を中量含む、炭化物・土器片を少量含む)
- 5 10YR3/2 黒褐色砂泥 (炭化物・土器片を少量含む)
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 (粘土・炭化物を微量含む)
- 7 5Y3/1 オリーブ黒色砂泥 (φ 1~5cmの礫を少量含む、遺物を少量含む)
- 8 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (φ 1~5cmの礫を中量含む、炭化物・土師器片を少量含む)
- 9 5YR3/1 黒褐色砂泥 (φ 1~5cmの礫を少量含む、炭化物・土師器片を少量含む)
- 10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 (φ 1~3cmの礫を少量含む、炭化物・土師器片を少量含む)
- 11 10YR2/2 黒褐色砂泥 (φ 3~8cmの礫を少量含む、炭化物・土師器片を微量含む)
- 12 5YR3/1 黒褐色砂泥 (φ 4~8cmの礫を少量含む、炭化物・土師器片を少量含む)
- 13 5YR2/1 黒褐色砂泥 (10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂ブロックを含む、炭化物・土師器片を少量含む)
- 14 10YR2/1 黒褐色砂泥 (10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂ブロックを含む、φ 4~15cmの礫を中量含む、炭化物・土師器片を微量含む)
- 15 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 16 10YR3/2 黒褐色砂泥 (φ 3~10cmの礫を少量含む、炭化物を微量、土師器片を中量含む)
- 17 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 (φ 6~10cmの礫を少量含む、炭化物・土師器片を微量含む)
- 18 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (10YR4/3 にぶい、黄褐色 (地山ブロック) を中量含む)
- 19 2.5Y4/6 オリーブ褐色泥砂 (粗砂混じり)
- 20 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥
- 21 10YR3/3 暗褐色砂泥 (土師器片を中量含む)
- 22 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 + 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 (やや粘性あり)
- 23 7.5YR3/1 黒褐色砂泥 (2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂ブロックを含む、炭化物・土師器片を微量含む (粘性あり))
- 24 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 (2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂ブロックを少量含む、φ 12cmの礫を少量含む (粘性あり))
- 25 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 (炭化物を含む、土師器片を多量に含む (完形あり))
- 26 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (2.5Y3/1 黒褐色砂泥ブロックを少量含む)
- 27 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (φ 2~5cmの礫を多量に含む)
- 28 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (炭化物・土師器片を少量含む)
- 29 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (遺物を少量含む)

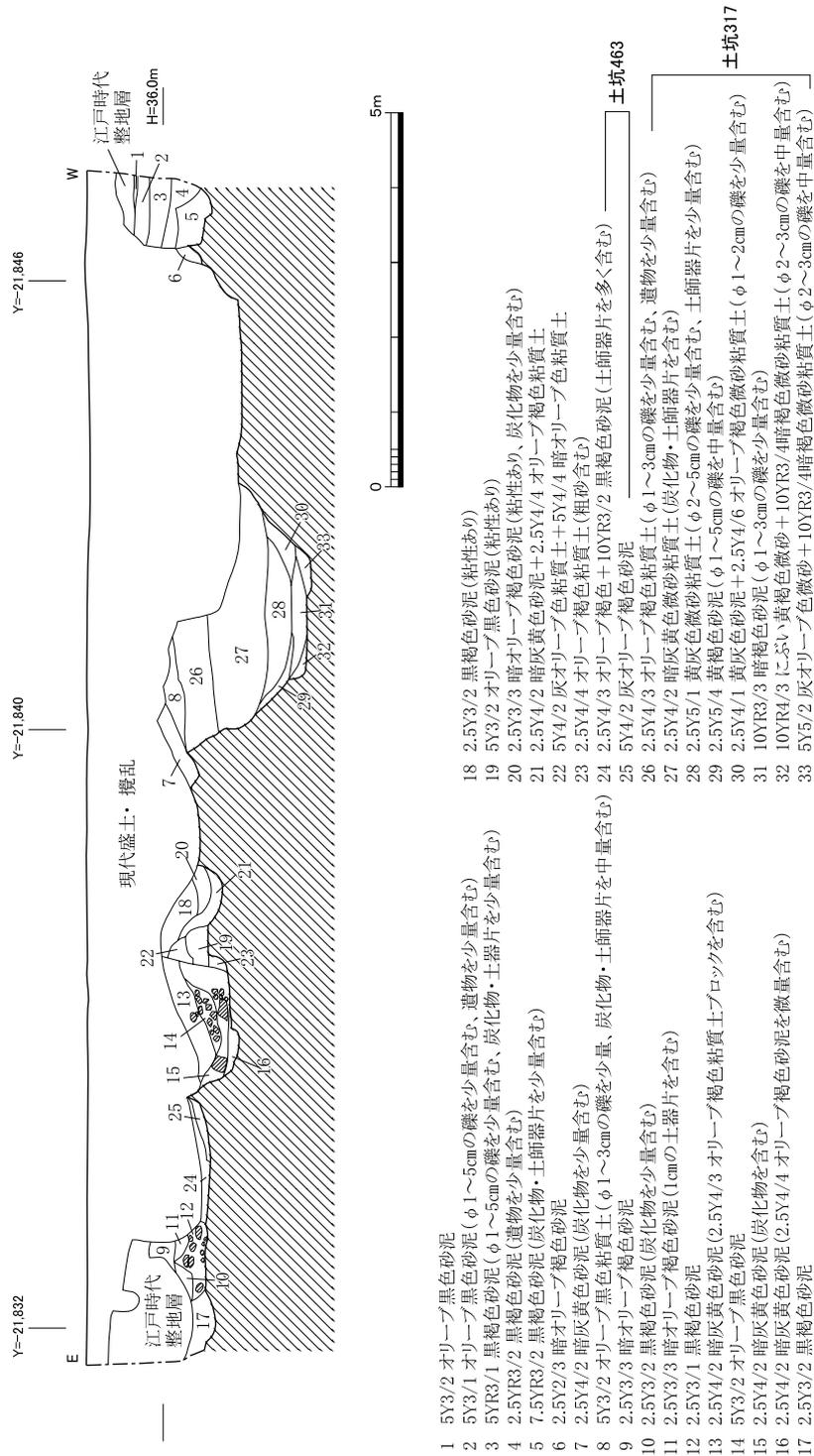


図11 調査区南壁断面図 (1:100)

物の基礎などによって、遺構の残存状況はあまり良好とは言えず、いわゆる地山に達する現代攪乱や江戸時代の大型の土坑などが多く検出された。このため、各時期の遺構面は分断され、全体を同時的な遺構面として捉えることは難しかった。

層序は比較的調査区の南西部の残存状況が良好で、現代盛土 (厚さ0.4m)、近代から江戸時代盛土 (厚さ0.3m)、室町時代から鎌倉時代の遺構や整地層があり、以下は平安時代以前の河川氾濫な

どによる自然堆積層（いわゆる地山）となる。地山層は地表面下1.4m（標高35.6m）前後と、平安京左京域としては比較的浅い深度で検出された。

### 3) 第4面の遺構（図版1）

平安時代中期から後期および平安時代末期から鎌倉時代前半の遺構を第4面とした。平安時代中期から後期の遺構は井戸と考えられる土坑1基（土坑317）、平安時代末期から鎌倉時代前半の遺構は土坑4基（土坑168・288・438・463）と柱穴1基（柱穴147・148）である。

土坑317（図12、図版8-1） 2区南東部で検出した、直径4.5m前後のほぼ円形の平面で、すり鉢状に下る大型の土坑である。深さは1.8m。埋土が全体にいわゆる「うぐいす色」であったため、検出当初は平安時代後期の頃に通有の整地層かと考えた。しかし、掘り下げた結果、中央部に一辺1.2mの方形の落込みを検出したこと、東西セクションの観察により中央部に井筒部分にあるとみられる土層を確認したことなどから、木枠などの施設は失われているものの、井戸と判断した。土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・青磁などの土器類、軒平瓦・軒丸瓦・平

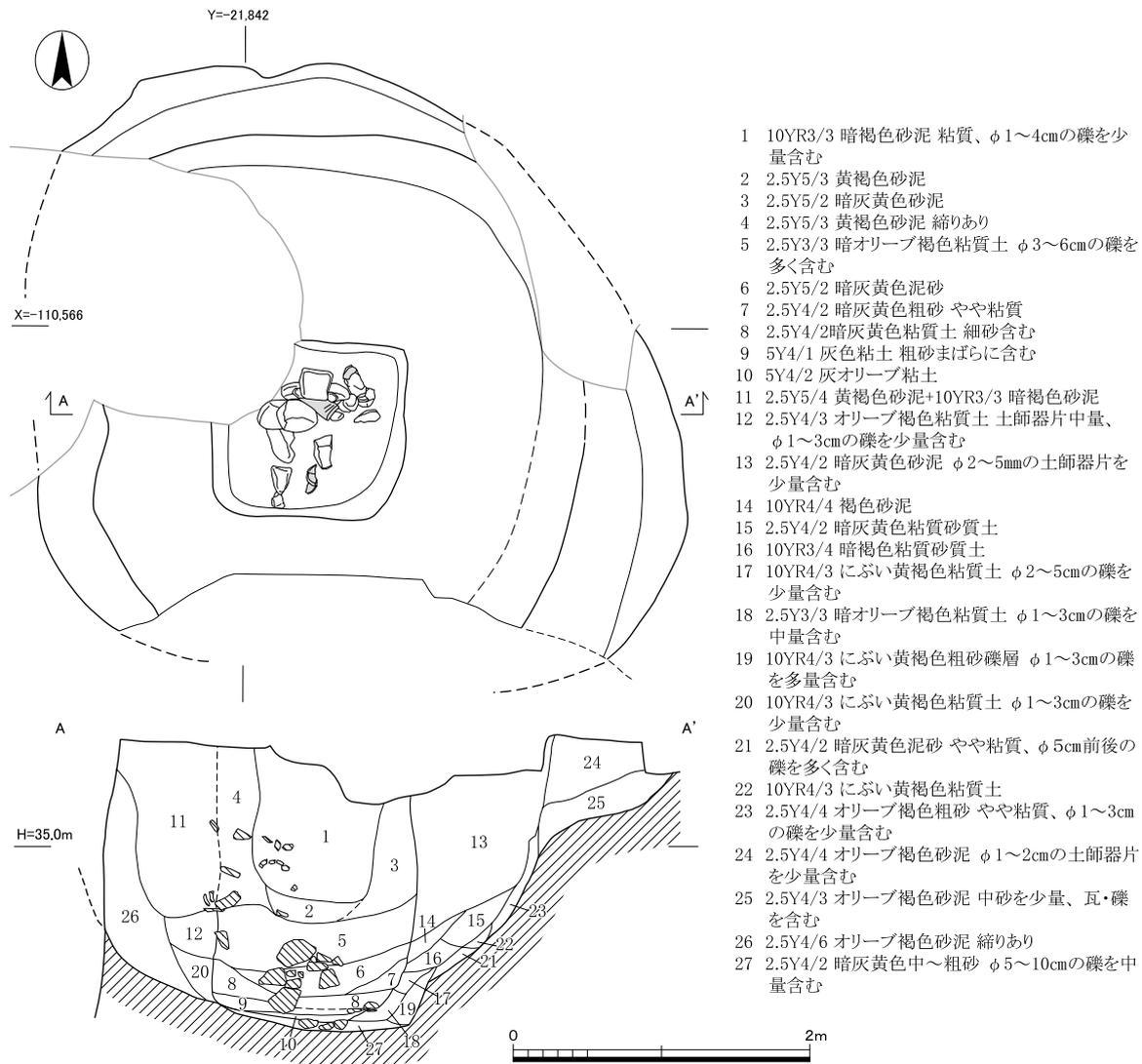


図12 土坑317実測図（1：50）

瓦・丸瓦などの瓦類のほか、鞆の羽口破片などが出土した。井筒相当部の底部で検出した遺物や掘形埋土にあたる部分から出土した遺物などから、10世紀後半に造られ、11世紀には埋められたとみられる。

**土坑438** (図版1) 3区南部東寄りで検出した。南北0.9m、西側が後世の遺構に切られ東西1m以上の平面楕円形の土坑である。深さは0.3mである。土師器・須恵器が出土した。12世紀前半、平安時代末期に属する。

**土坑463** (図版1) 3区南壁際の東寄りの現代攪乱の底部で検出した。遺構の大半は削平され、南調査区外へ延びるため、形状は確認できなかった。完形に近い土師器皿を中心とした土器群が出土した。12世紀前半、平安時代末期に属する。

**土坑168** (図版1) 2区中央西寄りで検出した、1m前後の不定形な土坑である。深さは0.25m。土師器皿のほか、焼成された壁土などが出土した。13世紀中頃、鎌倉時代前半に属する。

**土坑288** (図13・14) 2区南半西端で検出した。南北2.6m、東西は調査区外の西へ延び、約1m分を検出した。深さは1.6mあり、掘り下げた結果、調査区の西壁際に長径0.2~0.3mの垂角礫群が縦方向に積まれたような状態で検出した。観察の結果、南北幅0.5m、深さ約1mの内法の石室状施設の掘形・裏込め部分にあっていることがわかった。石室状施設の本体は調査区の西へ延びており、本遺構がどのような機能のものであったかは明らかにできなかった。また、調査中に西壁の当該土坑部分が崩

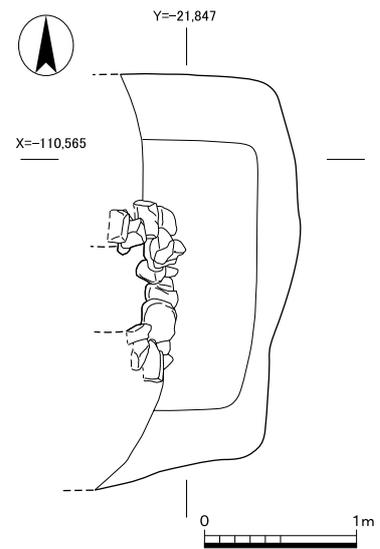


図13 土坑288平面図 (1:50)



図14 土坑288検出状況 (南東から)



図15 柱穴147埋納土器検出状況 (北から)

れたため、断面図を作成することができなかった。土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・青磁など土器類、平瓦・丸瓦、砥石・碁石などが出土した。13世紀前半、鎌倉時代前半に属する。

**柱穴147**（図版1、図15） 2区北西部で検出した。円形掘形、直径0.55mの柱穴で、上部はかなり削平され、深さは0.1mであった。柱痕跡は平面円形で直径0.2mである。掘形埋土に完形の土師器皿を埋納する。13世紀前半、鎌倉時代前半に属する。

**柱穴148**（図版1） 2区北西部、西壁際で検出した。円形掘形、直径0.65mの柱穴、柱穴147と同様に削平を受けたとみられ、深さは0.15mと浅い。柱痕跡は0.25mである。土師器皿などが出土した。13世紀前半、鎌倉時代前半に属する。

#### 4) 第3面の遺構（図版2）

鎌倉時代後半から室町時代前半の遺構群を第3面とした。土坑、柱穴・井戸などがあり、土坑のうち大型の土坑48・464は井戸と考えられ、多量に完形の土師器皿を埋納する157・227は土壇墓とみられる。

**井戸130B**（図16、図版8-2） 2区南部で検出した。南西半分を井戸130Aに切られるが、ほぼ同じ構造の円形石組み井戸である。掘形北東部も第1面の井戸107に切り込まれる。掘形は円形で直径約1.6m、底部の深さは1.8m、標高は32.9mである。底部には一辺0.6m、高さ0.25mの方形木枠が据えられ、その上に長径0.2~0.3mの河原石を小口積みで円形に積み上げる。石組みは最大で1.1m残存しており、内法は0.9mである。土師器、瓦器、磁器、焼締陶器、瓦、銅銭などが出土した。14世紀前半、鎌倉時代末期から室町時代前半に属する。

**土坑464**（図版2） 2区北東部で検出した。一辺2mの方形掘形の井戸と考えられる。東西方向の土層断面の観察より、井筒部分は一辺1m程度の方形であったとみられる。作業安全上の理由

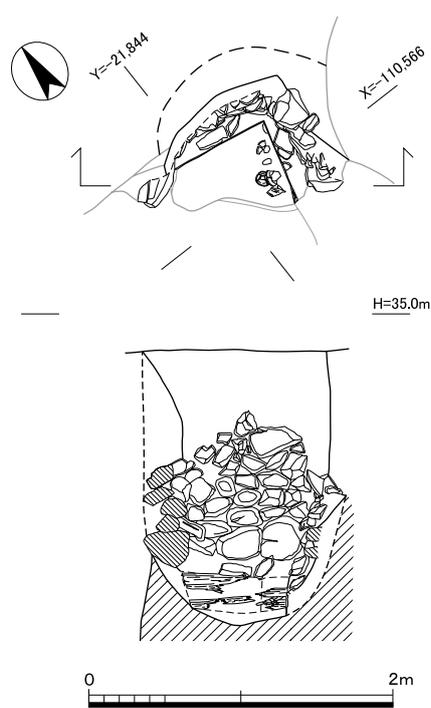
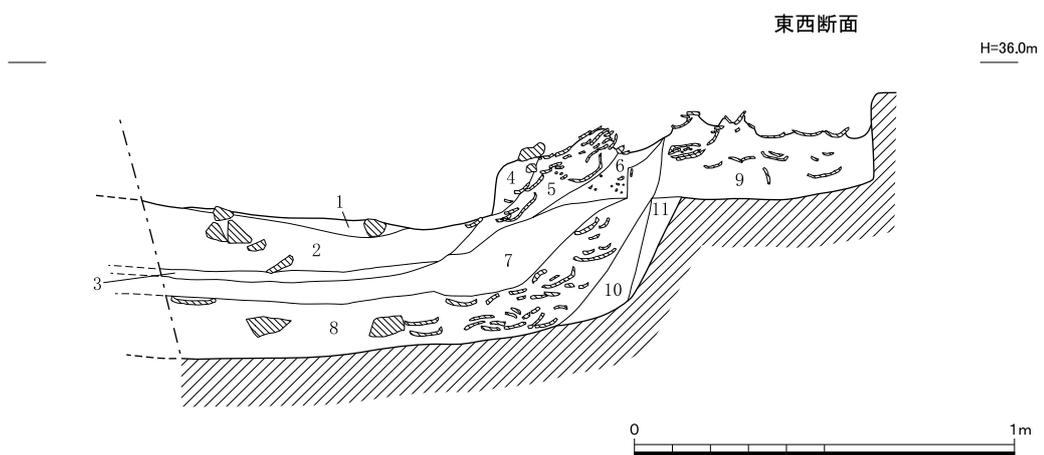
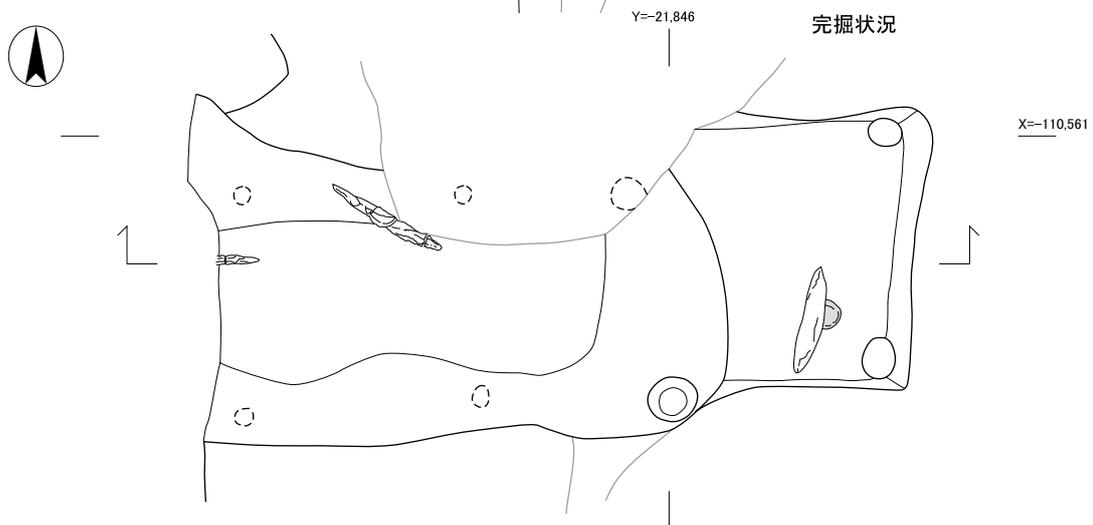


図16 井戸130B実測図（1：50）

から検出面より1.5mまでの掘り下げで止めたため、井戸の底部には届かなかった。井筒側面の木枠などは残存しておらず、構造についても不明である。土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器など土器類、平瓦・丸瓦など瓦類、釘などの鉄製品が出土した。

**土壇墓157**（図17・18、図版9-1・9-2） 2区中央、西端で検出した。幅0.75~0.9m、東西方向に細長い長方形の掘形の土坑で、西端は調査区外に延び、東西1.8m分を検出した。東端から約0.5mは深さ0.3m、以西は深さが0.6mと大きく下る2段掘りの土坑である。掘形の南・北側辺にそれぞれ4箇所、0.5~0.6mの間隔で丸杭が打ち込まれた痕跡を確認した。ほぼ全面にわたり多量の完形の土師器皿が埋納される。埋納された土器群は、東部の底面が一段高い部分では検出面から0.1m程度で土器が検出され、厚さ0.15mに及ぶ。底部が一段下る西側部分で



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥(土器片多く含む)
- 3 10YR3/3 暗褐色砂泥(やや粘質、炭層多量に含む)
- 4 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥(φ2~9cm土器器片多数含む)
- 6 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 7 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥(やや粘質)
- 8 10YR3/1黒褐色砂泥(粘質、φ8cm~14cmの土器多数含む)
- 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥(粗砂混じり、φ3~9cm土器多数含む)
- 10 10YR3/4 暗褐色粘質土
- 11 10YR3/2 黒褐色砂泥

図17 土壙墓157実測図(1:20)



図18 土壙墓157土器検出状況（北から）

は、段掘りの傾斜面から底面に沿うように約0.2mの厚さで土器群が検出された。埋納当初は西側部分に棺が設置され空洞であったとみられ、棺の腐食に伴い土器群が落下したとみられる。また西側の土器群の上には長径0.1m程度の亜角礫が多く検出された。当初は低い墳丘が設けられ、礫群が敷設されたようである。土坑の底面では鉄製

短刀を東部の一段高い部分の南側で南北方向に置かれた1振、西側の低い部分の北側に東西方向に置かれた2振の計3振が出土した。埋納された土器類は夥しい数の土師器皿であるが、極く少数の須恵器・瓦器・青磁などがある。14世紀前半、鎌倉時代末期から室町時代前半に属する。

土壙墓227（図19、図版8-3） 2区北端西寄り、途中で攪乱などにより途切れるが、東西1.8m、南北0.5mの範囲に完形の土師器皿を主体とする土器群を検出した。北半を江戸時代の遺構（土坑49）、東西もそれぞれ現代攪乱に壊され残存状況は良くない。東西方向に長軸をもつ土壙墓の南辺の一部にあたると思われる。深さは0.3～0.4mである。14世紀前半、鎌倉時代末期から室町時代前半に属する。

土坑212（図版2） 2区中央東端で検出した。東を現代攪乱に切られて失う。南北0.7m、東西0.6m以上の楕円形の平面形であったと思われる。深さは0.15mである。土師器、瓦器、磁器、焼締陶器、瓦、製塩土器と思われるものなどが出土した。14世紀前半、室町時代前半に属する。

土坑48（図版2） 1区北部西寄りで検出した。掘形は直径1.7m前後の円形である。掘り下げ途中で、中央部に一辺0.6～0.7mの方形の落込みを検出し、これが井筒部分にあたると思われる。作業安全上の理由から検出面より2mまでの掘り下げで止めたため、井戸の底部には届かなかった

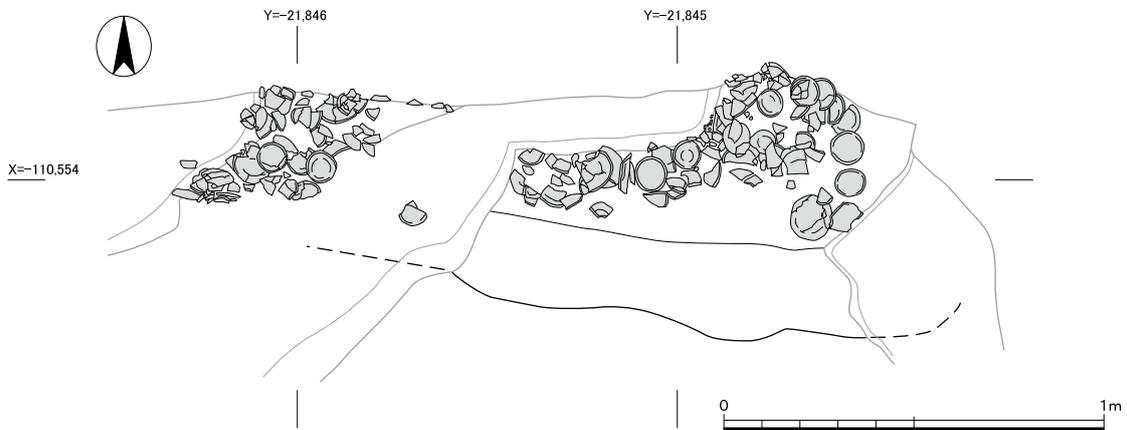


図19 土壙墓227平面図（1：20）

た。井筒側面の木枠などは残存しておらず、構造についても不明である。土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・磁器など土器類のほか、漆器破片などが出土した。14世紀中頃、室町時代前半に属する。

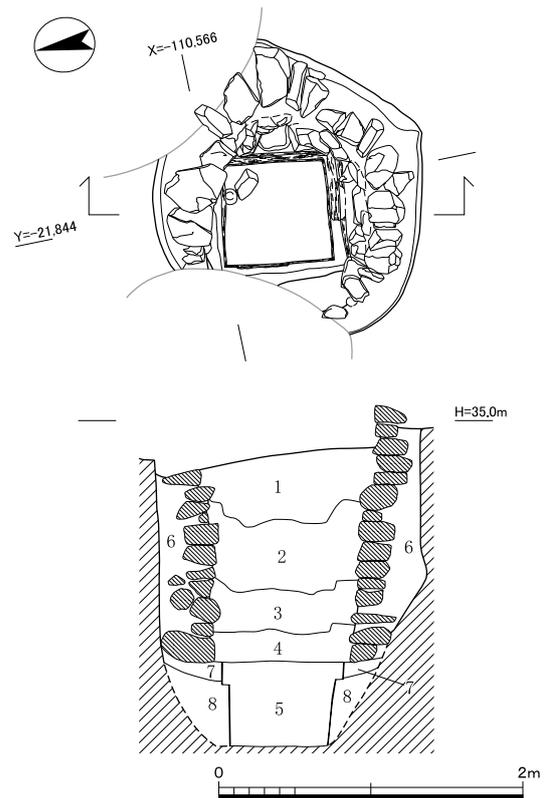
**土坑312・313** (図版2) 2区北半中央で検出した。いわゆる地山面に切り込む「うぐいす色」埋土の土坑である。土坑312は南北1.85m、東西1.3mの平面楕円形、深さは0.9～1.0m、実際の埋土は2.5Y4/3～4/4オリーブ褐色砂泥を中心とする。土坑313は南北0.7m、東西0.5mの平面楕円形、深さは0.6mである。埋土は2.5Y5/2暗灰黄色砂泥を中心とする。両遺構とも土師器を中心とする遺物が少量出土したが、いずれも小片であった。

### 5) 第2面の遺構 (図版3)

室町時代前期から後期にかけての遺構群を第2面の遺構とした。本調査では遺構とともに遺物の最も多い時期である。多数の土坑・柱穴、ほかに井戸、埋甕、敷地の区画のためとみられる布掘礎石柱穴列や溝などがある。

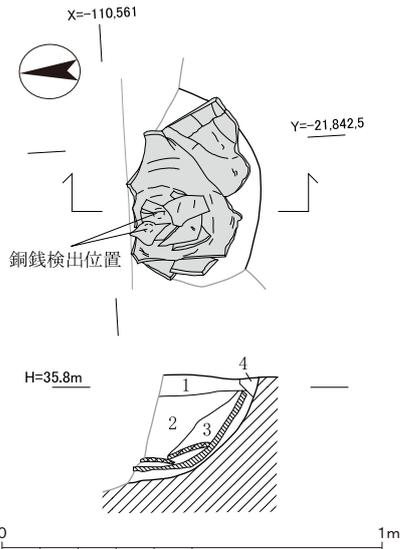
**井戸130A** (図20、図版9-3) 2区南部で検出した。円形石組みの井戸である。北西部を現代井戸に、北東掘形を第1面の井戸107に切り込まれる。掘形は直径1.9mの円形、底部は深さ2.2m、標高32.8mである。底部には残存状況が良くないが、方形の木枠を2段重ねる。方形木枠の下段は一辺が0.65～0.7m、高さ0.3m、上段は一辺0.75～0.85m、高さ0.1～0.15mである。この木枠の上に長径0.2～0.4mの河原石を小口積みで円形に積み上げる。石組みは最大で1.7m残存している。石組みの内法は直径1m前後であるが、上部東側が東へ張り出して、石積みには上下で不整合があることから、当該部分の石組みが崩れたため補修が行われた痕跡とみられる。土師器、須恵器、瓦器、磁器、焼締陶器、鉄製釘、有孔埴などが出土した。15世紀前半、室町時代中頃に属する。

**埋甕218** (図21・22、図版10-1) 2区中央で検出した。北半と西側を現代攪乱に切られる。掘形は直径0.6mに復元でき、深さは0.3mである。常滑産の大甕を据えるが、上部大半が失われ体部下半のみが残存する。据えられた甕の底部に銅銭2枚が錆びついて融着する。銅銭は錆びついて銭種は不明である。その上面に体部破片が落ち込んだ状態で検出された。また、据えら



- 1 10YR3/2 黒褐色砂泥(粘質、φ5～20cmの礫を中量含む)
- 2 10YR4/1 褐灰色砂泥(粘質、φ10～20cmの石や礫を多量に含む)
- 3 10YR2/3 黒褐色細砂～シルト(粘質、φ1～5cmの礫を少量含む)
- 4 10YR4/1 褐灰色シルト(φ15～20cmの礫を多量に含む)
- 5 10YR2/2 黒褐色砂泥(φ1～2cmの礫を少量含む)
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂泥(粘質、φ5～10cmの礫を含む)
- 7 10YR5/1 褐灰色泥砂
- 8 10YR5/4 にぶい黄褐色泥砂(粗砂多く含む)

図20 井戸130A実測図(1:50)



- 1 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥(細砂主体、φ2~5cm礫まばら)
- 2 2.5Y5/3黄褐色泥砂(細砂主体)
- 3 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥(微砂主体)
- 4 2.5Y6/4にぶい黄褐色細砂(粘質)

図21 埋甕218実測図(1:20)

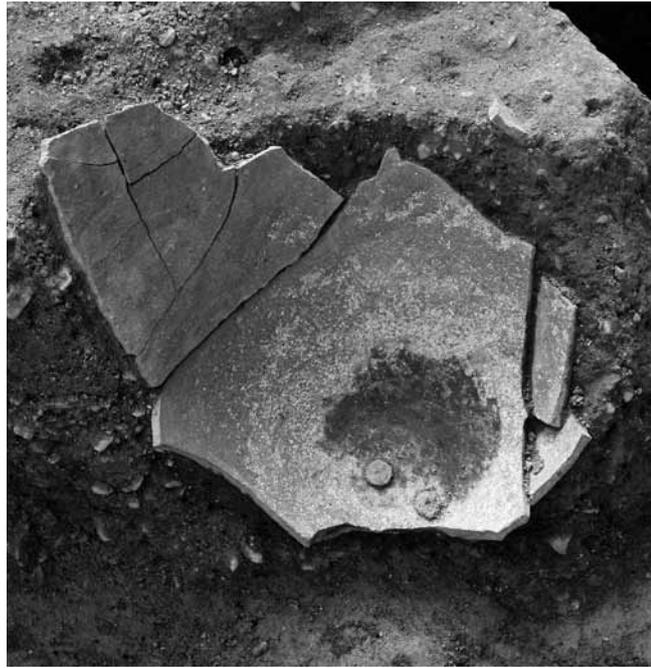
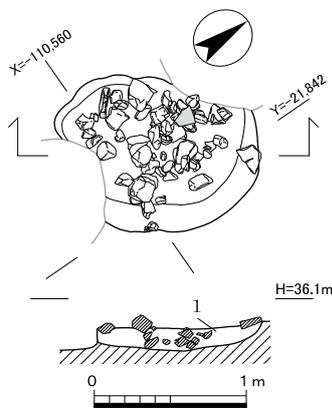


図22 埋甕218完掘状況(北から)

れた甕体部下半の上端の埋土上部では完形の土師器皿を複数枚検出した。埋甕が使用されなくなった後、甕上半を破壊して埋めた時に、土師器皿を埋納したと思われる。ほかに土師器、須恵器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器などが出土した。15世紀前半、室町時代中頃に属する。

**土坑17**(図版3・10-3) 1区中央で検出した。長軸が2.7m、短軸が1.9mの楕円形掘形で、深さは0.5mである。埋土上面の東西1.5m、南北2mの範囲に0.1m前後の礫を多く含む。礫の廃棄坑とみられる。土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、瓦、砥石、焼成を受けた壁土などが出土した。15世紀中頃から後半、室町時代中頃に属する。

**土坑190**(図23、図版10-2) 2区中央で検出した。南北1.35m、東西1.0mの平面楕円形、深さ0.2mの土坑である。長径0.2m未満の角礫・亜角礫が多く、これらに混じって土師器、瓦器、焼締陶器、瓦、有孔磚、砥石などが少量出土した。



- 1 2.5YR3/2 黒褐色砂泥(φ3~20cmの礫を中量、土器片まばらに含む)

図23 土坑190実測図(1:50)

**溝151**(図版3) 2区北半で検出した東西方向の溝である。幅は0.8~1.0m、深さは0.4m前後、断面形は逆台形を呈する。東は調査区外に延び、途中現代攪乱に切れ途切れるが、ほぼ真西へ延びて、西端は座標Y=-21.845.5付近で立ち上がり、約5.8m分を検出した。南北の敷地を区切る区画のための溝と考えられる。底面のレベルはほぼ平坦で、標高35.4m前後である。土師器・灰釉陶器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類、瓦・磚、硯、砥石、鉄釘のほか、凝灰岩破片や焼成された壁土片などが出土した。15世紀後半から16世紀、室町時代後半に属する。

**柱穴列189**(図24、図版11-1) 2区中央で検出した。東西部分と西端で逆「L」字状に北へほぼ直角に折れ曲がる南北部分から

なる溝状遺構（布掘基礎）である。東西部分  
は東部と西寄りの一部が現代攪乱に壊され失  
われているが、約4.5m分を検出した。南北部  
分は東西部分の北端から0.8mの長さであっ  
た。幅は0.3～0.4m、側壁はほぼ垂直に掘り  
込まれて、断面は「U」字状を呈する。深さ  
は、東西部分で0.7m、南北部分是一段浅く  
0.5mである。東西部分では底から約0.2m埋  
めて扁平な石を据え、柱を受ける礎石とす  
る。東西部分では東部で3石と西端に1石を  
確認した。東部の2石と西端の1石は長径0.2  
mほどの小振りの石であったが、東部東端の  
1石は長径0.4mとひと際大きく厚い石を用  
いている。南北部分では北端に1石、溝の底  
部に据えた長径0.2mの扁平な石を確認した。  
東西部分では柱間は0.65m前後で、攪乱など  
によって失われている部分に3石あったとみ  
られる。南北方向は柱間が0.8mである。土師  
器・須恵器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・磁  
器などの土器類のほか、鉄滓片などが出土し  
た。15世紀後半、室町時代後半に属する。

柱穴列281（図24、図版11-1） 2区中  
央、柱穴列189東西部分東半の約1.5m北に並  
行して検出した。東西両端とも攪乱により切  
られ、東西2m分のみ残存する。幅0.5m、側  
壁は垂直に掘り下げられ、深さ0.45mの断面  
「U」字状の溝状遺構（布掘基礎）である。柱  
を受けた礎石は3石検出した。両端の2石は  
底面から約0.1m埋めて石を据える。これに  
対し、中央の1石は底面に直径0.3m・深さ

0.25mの穴を掘り石を据えている。土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・磁器などの土器類のほか、  
鉄滓片や焼成を受けた壁土片などが出土した。15世紀中から後半、室町時代後半に属する。

これら柱穴列281と189は東西部分が並行することや溝の掘り方などが共通しており同一遺構の  
部分を構成すると考えているが、石の据え方や石の上面のレベルが区々であることなどさらに検  
討を要する点も多い。

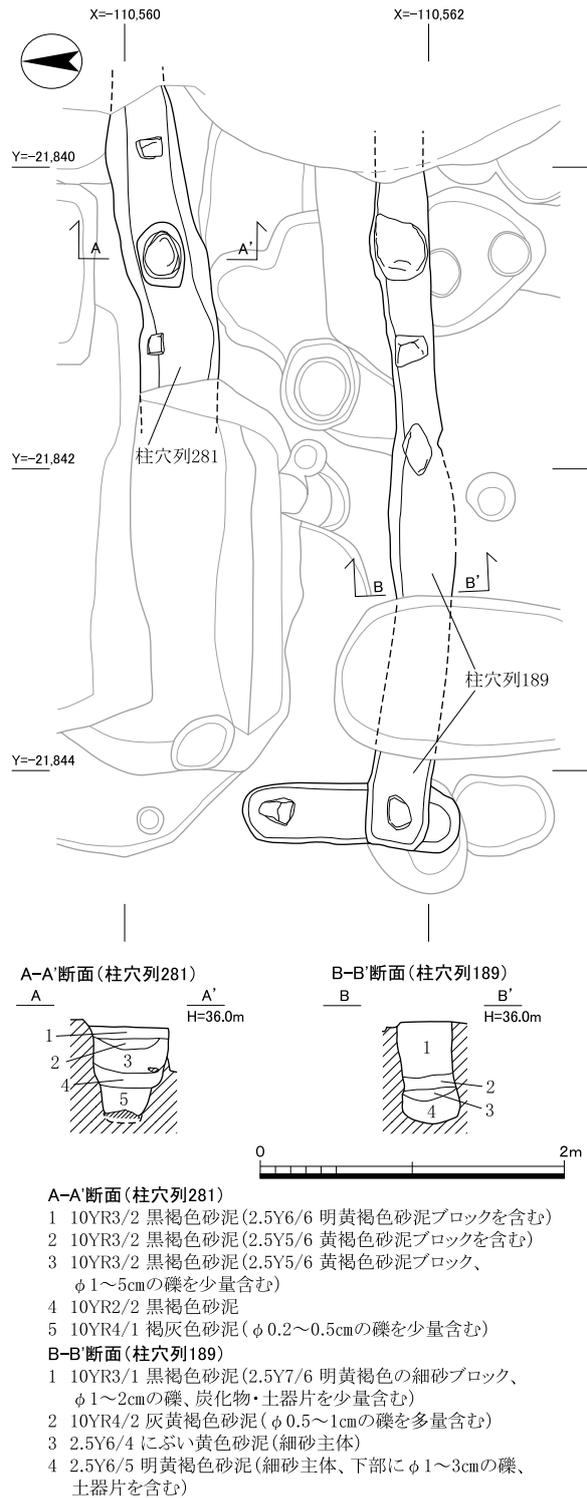


図24 柱穴列189・281実測図（1：50）

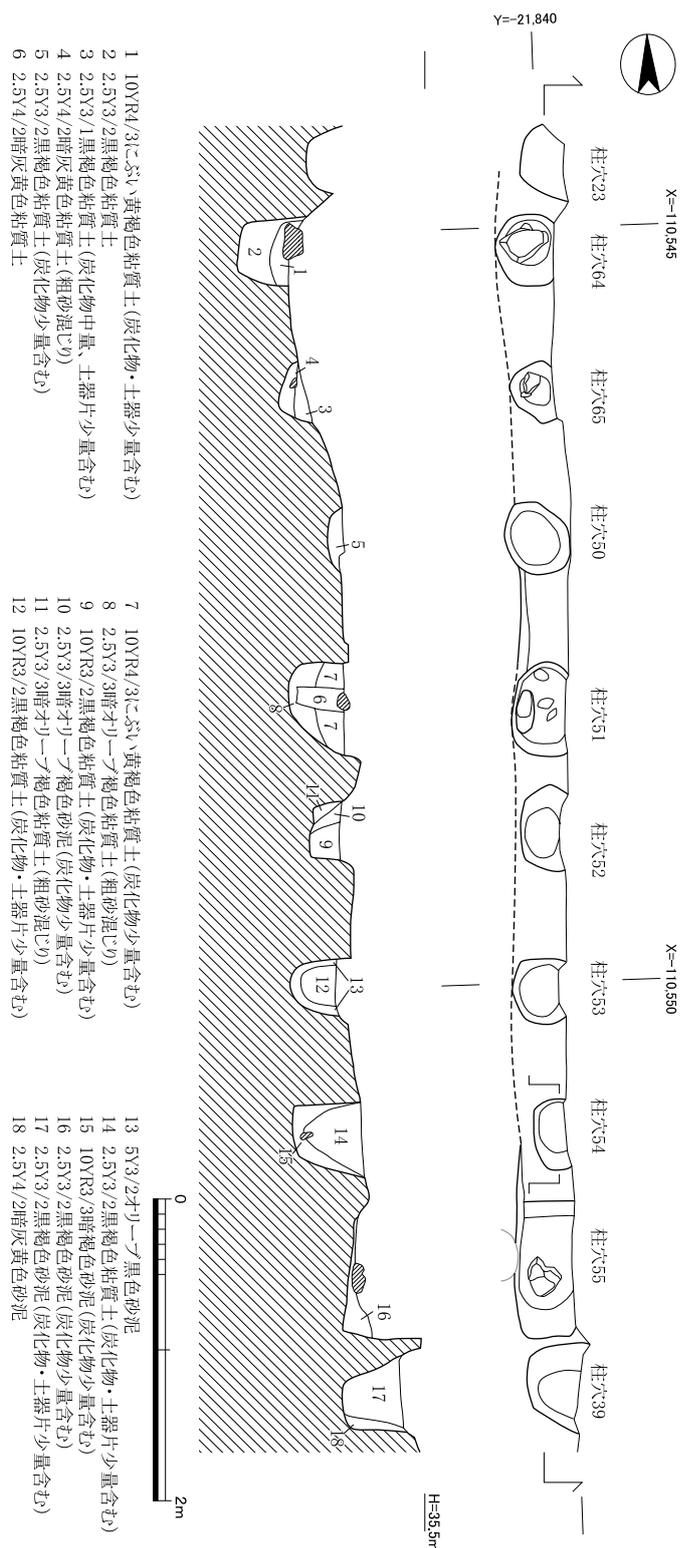


図25 柱穴列465実測図 (1:50)

が隅丸長方形を呈する。土坑49は1区南部、一部2区の北端にかかる南北4.7m、東西は西端が調査区外へ延び5.5m以上になる方形の土坑で、深さは1.7mある。いずれも炭化物を主体とする層や焼け灰を主体とする層が互層をなして堆積しており、遺物も量が多く多種多様のものが出土する。生活で排出された炭化物や焼け灰、不要物を捨てるゴミ穴と考えて良いであろう。最も新しい遺構

### 柱穴列465 (図25、図版11-2)

1区東壁際に検出した。南北に並ぶ、北から柱穴23・64・65・50・51・52・53・54・55・39の10基の柱穴列である。後世の遺構に壊されて、中央部では明確でなかったが、南北方向の溝状遺構の底部に掘り込まれている、いわゆる布掘り状の掘形を持つ。同一の柱穴列として扱ったが、柱穴23・65・51・53・55(a列)と柱穴64・50・52・54・39(b列)の2条の柱列が重複しているものとみた方が良いかも知れない。柱間は両者ともに1.7~2.0m、a列では柱穴65・51・55に、b列では柱穴64に礎石が据えられる。柱穴55の礎石には建物基壇などに使われたと思われる加工痕のある凝灰岩片が転用されていた。各柱穴からは土師器を中心とした土器類が少量出土した。15世紀後半、室町時代後半に属する。

### 6) 第1面の遺構 (図版4)

室町時代末期から桃山時代・江戸時代前期の遺構群を一括して第1面とした。土坑・柱穴が多く、溝、井戸、集石遺構、礎石柱穴列などがある。

土坑14・21・49(図版4) いずれも1区で検出した大型の土坑である。土坑14は1区北端で不整形な南辺の一部4.5m分を検出した。深さは1.4mである。土坑21は1区東で検出した東西2.4m、南北4.1m、深さ0.6m、平面形

群で16世紀末から17世紀初頭、桃山時代から江戸時代前半に属する。

土坑115（図26、図版12-1・12-2、表3） 2区南西部で検出した。検出当初は、径1.2～1.3mの不整形円の範囲に長径0.1m前後の垂角礫・円礫が密集した状態であった。これら礫群に混じって少量の銅銭が出土していたが、礫群を除去した下面の北寄りに多量の銅銭を散乱した状態で検出した。検出した銅銭の総数は283枚、埋土中に散乱した状態で埋納されていたため錆の表出が著しいものが多かったが、表3に示した通り、155枚については銭種が判明した。開元通寶から永樂通寶まで27種を確認した。大半が北宋銭で、最も多かったのが元豊通寶であった。土坑内からはほかに、土師器・須恵器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類小片、瓦・塼、鉄釘や銅板・線破片などが出土した。16世紀末から17世紀初頭、桃山時代から江戸時代前半に属する。

土坑351（図27、図版11-3）

3区南西部で検出した。平面は東西0.85m、南北0.7mの楕円形、深さ0.5mの土坑である。底面より0.2～0.3mの高さの埋土中で、完形の土師器皿十数枚を中心とした土器群と砥石2個を検出した。埋土中より、土師器のほかに瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類、塩壺、鉄釘、木炭片、焼成を受けた壁土などが出土した。16世紀後半、桃山時代に属する。

土坑353（図版4、図28） 3区中央で検出した。東西は0.8m、南北は南を後世の遺構に切り込まれ0.6m以上の隅丸方形、

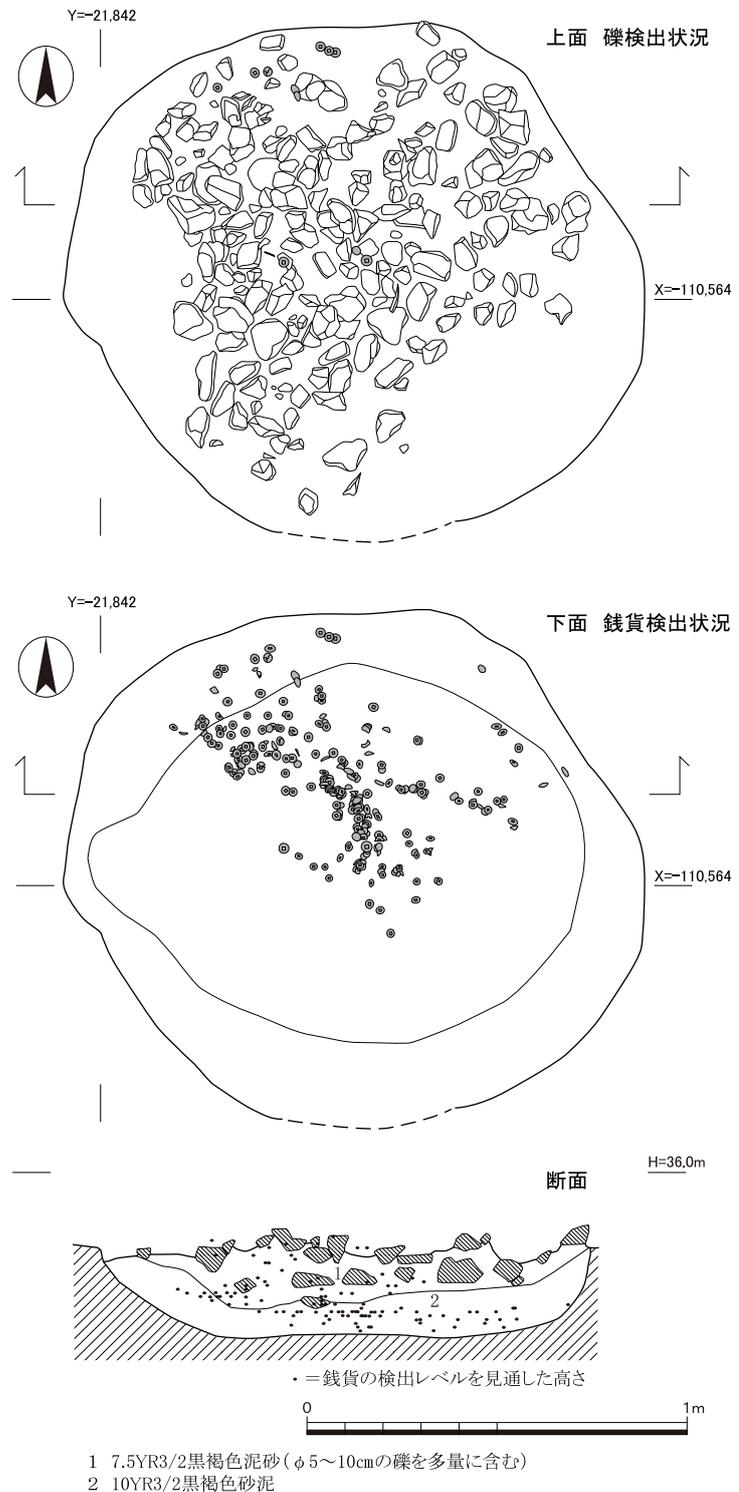


図26 土坑115実測図(1:20)

表3 土坑115出土銭貨一覧表

銭種	個数	内 訳					国	初鑄年
		真書	行書	草書	篆書	分楷		
開元通寶	6						唐	621
太平通寶	2						北宋	976
淳化元寶	3	2		1			北宋	990
至道元寶	2	2					北宋	995
咸平元寶	4						北宋	998
景德元寶	2						北宋	1004
祥符通寶	5		5				北宋	1009
祥符元寶	3		3				北宋	1009
天禧通寶	3						北宋	1017
天聖元寶	8	5			3		北宋	1023
皇宋通寶	19	16			3		北宋	1038
至和元寶	3	1			2		北宋	1054
嘉祐通寶	1	1					北宋	1056
治平元寶	2	1			1		北宋	1064
熙寧元寶	15	8			7		北宋	1068
元豐通寶	32		22		10		北宋	1078
元祐通寶	11		7		4		北宋	1086
紹熙元寶	1						南宋	1090
紹聖元寶	6		3		3		北宋	1094
元符通寶	4		3		1		北宋	1098
聖宋元寶	8		6		2		北宋	1101
大觀通寶	3						北宋	1107
政和通寶	7				1	6	北宋	1111
正隆元寶	1						金	1157
淳熙元寶	1				1		南宋	1174
洪武通寶	1						明	1368
永樂通寶	2						明	1408
不明	128							
計	283							

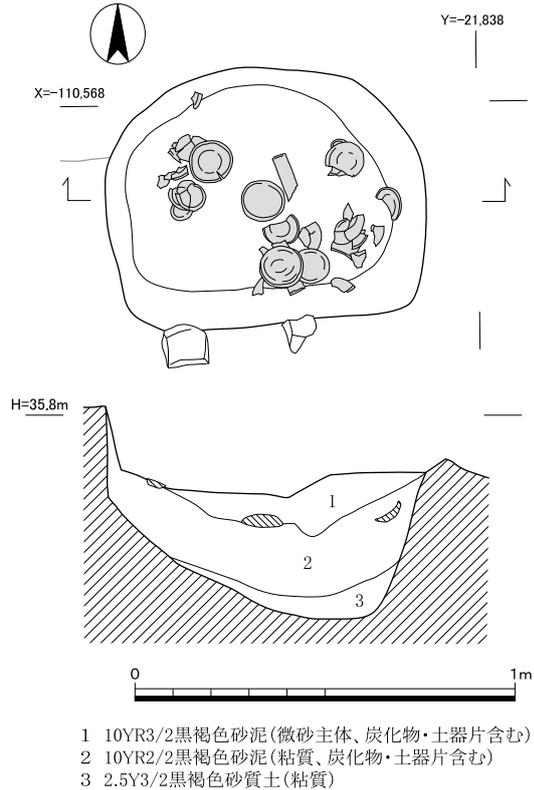


図27 土坑351実測図(1:20)

深さは0.4mの土坑である。埋土中に土師器皿を中心に須恵器・瓦器・焼締陶器・磁器などの土器片、鉄釘や砥石などが出土した。16世紀前半、室町時代末期に属する。

土坑378(図版4、図29) 3区北東部で検出した。直径0.8m前後の円形土坑である。深さ0.2

mの底面で、土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類小片が疎らに混じる、長径0.05m前後の小礫群を検出した。16世紀前半、室町時代末期に属する。

井戸107(図30、図版12-3) 2区南部東寄りで検出した。円形石組みの井戸である。掘形は直径1.7mの円形で、底部の深さは2m、標高33.55mである。底面には東西0.6m、南北0.7mの方形木枠を据え、その内側に有孔磚破片を主体に平瓦破片を平坦に敷き詰める。木枠の高さは0.1mで、さらに上段に一辺0.75m方形、高さ0.15mの木枠を重ねる。その上に長径0.2~0.4mの石を小口積みで円形に積み上げる。石組みは最大で高さ1.65m残存しており、内法で直径は下部で0.75m、上部で0.9mである。石組み石材は河原石であるが、最下部の石材には柱受けを削り出した礎石や円形の柱状の花崗岩が転用されていた。土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類、瓦類、漆器片、焼成を受けた壁土、鉄釘などが出土した。16世紀前半、室町時代末期に属する。

井戸379(図版4) 3区東端で検出、東半部は調査区外へ延びる。南端部には近・現代の井戸



図28 土坑353遺物検出状況（東から）



図29 土坑378遺物検出状況（西から）

に切れ、掘形は直径1.5m以上である。作業安全上、深さ1.5mまで掘り下げを終了したため、底部には届かず、構造も不明である。土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類、瓦類、鉄釘、銅片、焼成を受けた壁土などが出土した。16世紀末から17世紀初頭、桃山時代から江戸時代前半に属する。

柱穴列208（図版4） 2区中央西部で検出した。幅0.4m、深さ0.05mの東西方向の溝である。約2m分を検出、西は調査区外へ延びる。長径0.3mほどの扁平な石を東端と西へ1.5mの地点へ据え、柱礎石としていたとみられる。遺物量は少ないが、土師器・瓦器・焼締陶器などの土器類が出土した。16世紀末から17世紀初頭、桃山時代から江戸時代前半に属する。

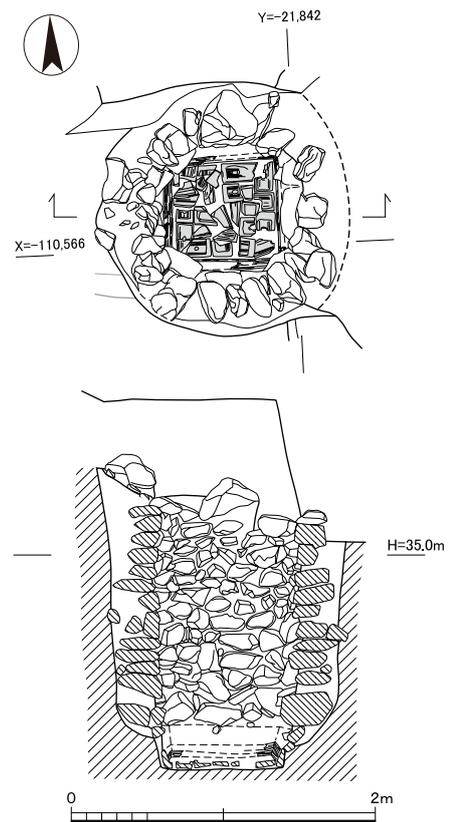


図30 井戸107実測図（1：50）

## 4. 遺 物

### (1) 遺物の概要 (表4)

遺物は、整理用コンテナに147箱出土した。土器・瓦類138箱、金属製品4箱、石製品3箱、木製品1箱、骨類1箱である。土器類が圧倒的に多く、瓦類がこれに次いでいる。出土遺物の時期は、縄文時代から古墳時代、平安時代、鎌倉時代から室町時代、桃山時代から江戸時代の各時期である。これらのうち、鎌倉時代から室町時代のものが多く、桃山時代から江戸時代のものがこれに次ぐ。整理作業および報告用に遺物を抽出したため、土器類12箱、瓦類2箱、金属製品・石製品・土製品1箱、計15箱調査終了時より増加し、総計162箱となっている。

弥生時代から古墳時代の遺物は極く少量であるが、後世の遺構や遺物包含層に混じって出土した。弥生時代の石鏃(サヌカイト製)・弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器などである。

平安時代の遺物は、中期の土坑317のほか、後世の遺構・遺物包含層から出土している。土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦類などがある。土器類は中期のものから後期、瓦類は前期のものも含む。

鎌倉時代から室町時代の遺物は第2～4面の当該期の遺構や遺物包含層などから出土した。土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器などの土器類、瓦類、金属製品、石製品などがある。

桃山時代から江戸時代の遺物は第1面の遺構などから出土した。土師器・瓦質土器・施釉陶器・焼締陶器・磁器・染付などの土器類、瓦類、銭貨、金属製品、漆製品、石製品などがある。

表4 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
弥生時代 ～古墳時代	弥生土器、土師器、須恵器、石鏃		石鏃2点		
平安時代	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦類		土師器17点、須恵器1点、緑釉陶器5点、灰釉陶器2点、陶磁器2点、軒丸瓦4点、軒平瓦7点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、須恵器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、磁器、瓦類、金属製品、土製品、石製品		土師器252点、須恵器2点、灰釉陶器1点、瓦器8点、陶磁器9点、焼締陶器3点、施釉陶器2点、埴埴1点、軒平瓦1点、鉄製品4点、鋳型1点、石製品1点、砥石2点		
桃山時代 ～江戸時代	土師器、瓦質土器、施釉陶器、焼締陶器、磁器、染付、瓦類、銭貨、金属製品、土製品、漆製品、石製品		土師器29点、瓦器2点、陶磁器1点、焼締陶器2点、施釉陶器2点、瓦質土器1点、染付1点、埴埴1点、軒丸瓦1点、軒平瓦1点、文字線刻瓦1点、有孔埴埴1点、銅銭39点、土製品2点、砥石2点、硯1点、石仏1点		
合 計		162箱	416点 (15箱)	0箱	147箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より15箱多くなっている。

## (2) 土器類 (図31～36、図版13～16、付表1)

土器類は各調査面の遺構・遺物包含層から出土した。比較的良好な出土状況と認識した遺構出土土器群を抽出して掲載した。掲載した各土器の詳細は個々に観察表(付表1)にまとめた。なお、土器類の時期については、平安京・京都I～XIV期を準用した<sup>1)</sup>。

**土坑317出土土器**(図31-1～14、図版13) 土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・陶磁器などが出土した。平安京Ⅲ期中段階を中心とする土器群である。土師器には皿(1～4)と高杯(5)がある。土師器皿はいわゆる「て」字状口縁の皿で、直径が11～12cmの器高の低いもの(1～3)と直径が15cmを越えるやや器高の高いもの(4)がある。1・4は井筒部分底部で検出したほぼ完形のものである。5は高杯の脚柱部で、側面の面取りは12面である。緑釉陶器には椀(6～11)がある。6は篠窯産のもので、口縁部は強いナデによってやや外反する。他は猿投窯産のもので残存状況が良くなく、大半が底部のみ(7～11)である。高台部が高く踏ん張ったものやいわゆる「蛇の目」高台のものなどがある。灰釉陶器には美濃窯産の椀の底部(12)、猿投窯産の広口瓶体部下半(13)がある。14は須恵器の風字硯の破片である。海と陸の中間にあたり、硯面陸部分には陰刻花文が施される。輸入陶磁器には越州窯系の青磁椀(10)がある。底部は削り出して低い「蛇の目」様の高台をつくる。

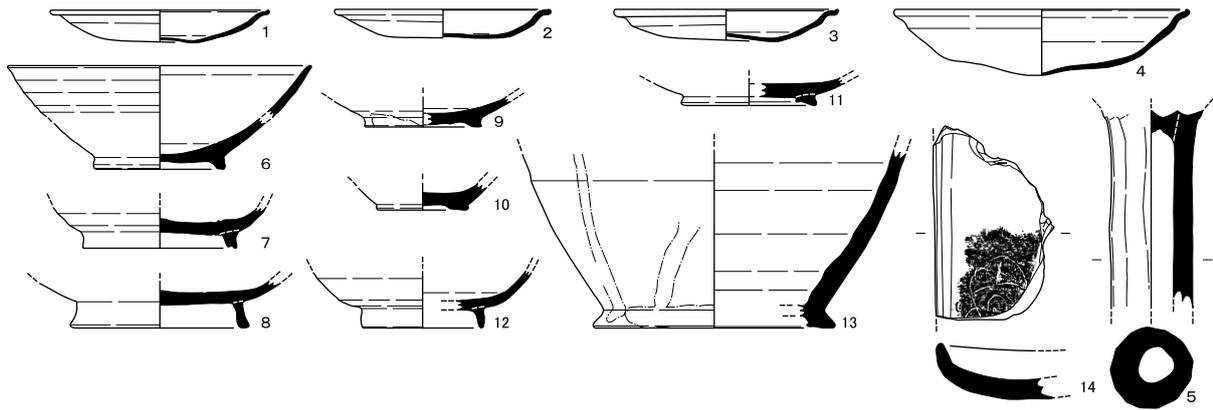
**土坑463出土土器**(図31-15～24、図版13) 土師器・須恵器・輸入白磁などが出土した。平安京V期に属する。大半が土師器皿で、完形に近いものが多い。土師器皿(15～22)は、口径が10cm未満の小型で器高が浅いもの(15・16)と、口径が14～15cm前後の器高が深いもの(17～22)がある。23は破片であるが、鉄鉢形の体部の平坦な底部外面に短い脚を付ける。脚は三方に付く。輸入陶磁器には白磁椀の底部(24)があり、削り出しによる角張った高台である。

**土坑438出土土器**(図31-25～27) 土師器・須恵器などが出土した。平安京V期に属する。土師器皿は口径が10cm未満のもの(25・26)と14cm前後のもの(27)とがある。

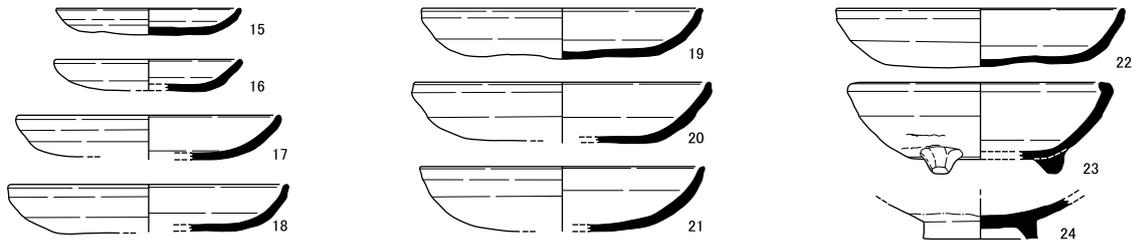
**土坑288出土土器**(図31-28～55、図版13) 土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、陶磁器などが出土した。平安京V期新段階に属する。大半が土師器皿である。28はコースター形の皿である。主体となる土師皿は口径9cm前後のもの(29～40)と13～14cmのもの(41～51)である。須恵器鉢(52)はいわゆる東播系のものである。瓦器羽釜(53)は底部が平らな扁平球形の体部で、上部に鏝を貼り付け巡らせる。底部外面には糊や藁の圧痕が残る。輸入陶磁器には同安窯系の青磁椀(54)・皿(55)がある。

**柱穴147出土土器**(図31-56～64、図版13) 完形に近い土師器皿が多く出土した。平安京V期新段階から京都VI期古段階に属する。土師器皿は口径8cm前後のもの(56～58)と12.2～12.4cm前後のもの(59～62)がある。63はロクロ製の土師器皿、口径が7.4cm、平らな底部から口縁部が外上方へ短く立ち上がる。底部外面には糸切り痕が残る。64は口径7.9cmの筒状のもので、口縁端部は平坦な端面を持ち、器厚は0.5cm前後と厚手である。外面には細い水平方向の沈線が施される。残存範囲で7条を確認した。

土坑317



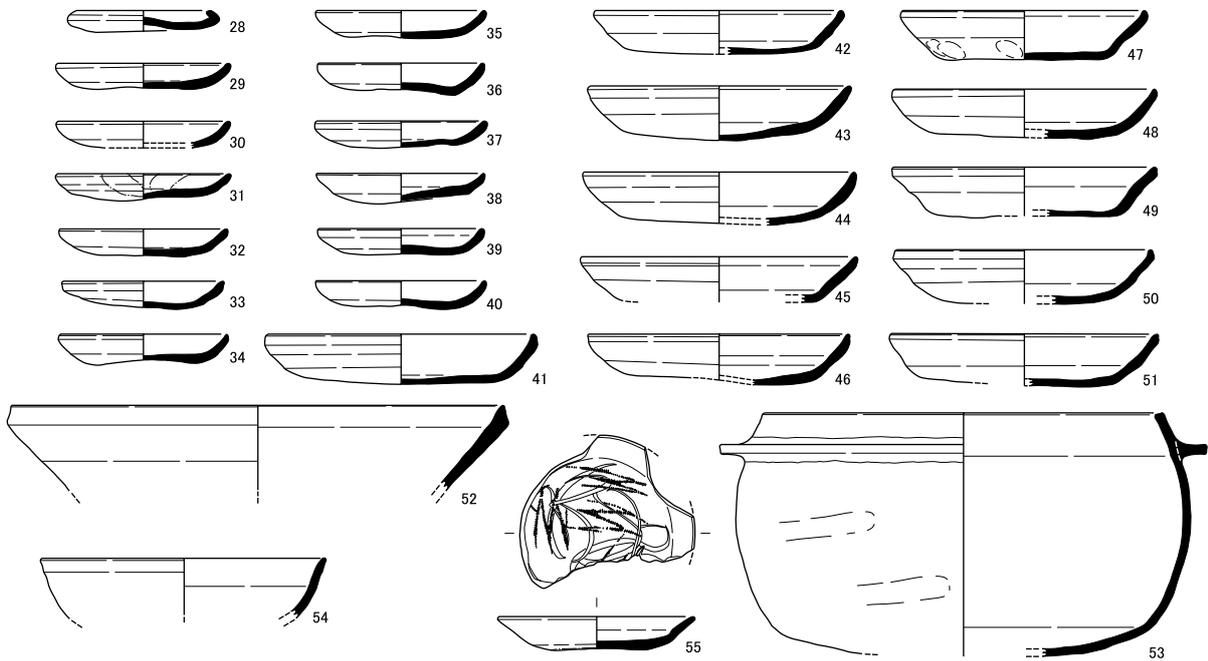
土坑463



土坑438



土坑288



柱穴147

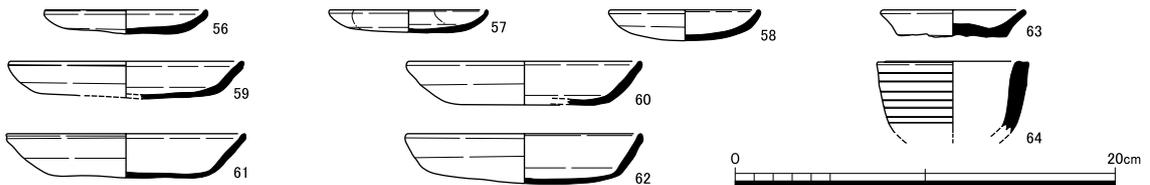


图31 土器实测图1 (1:4)

土墳墓227

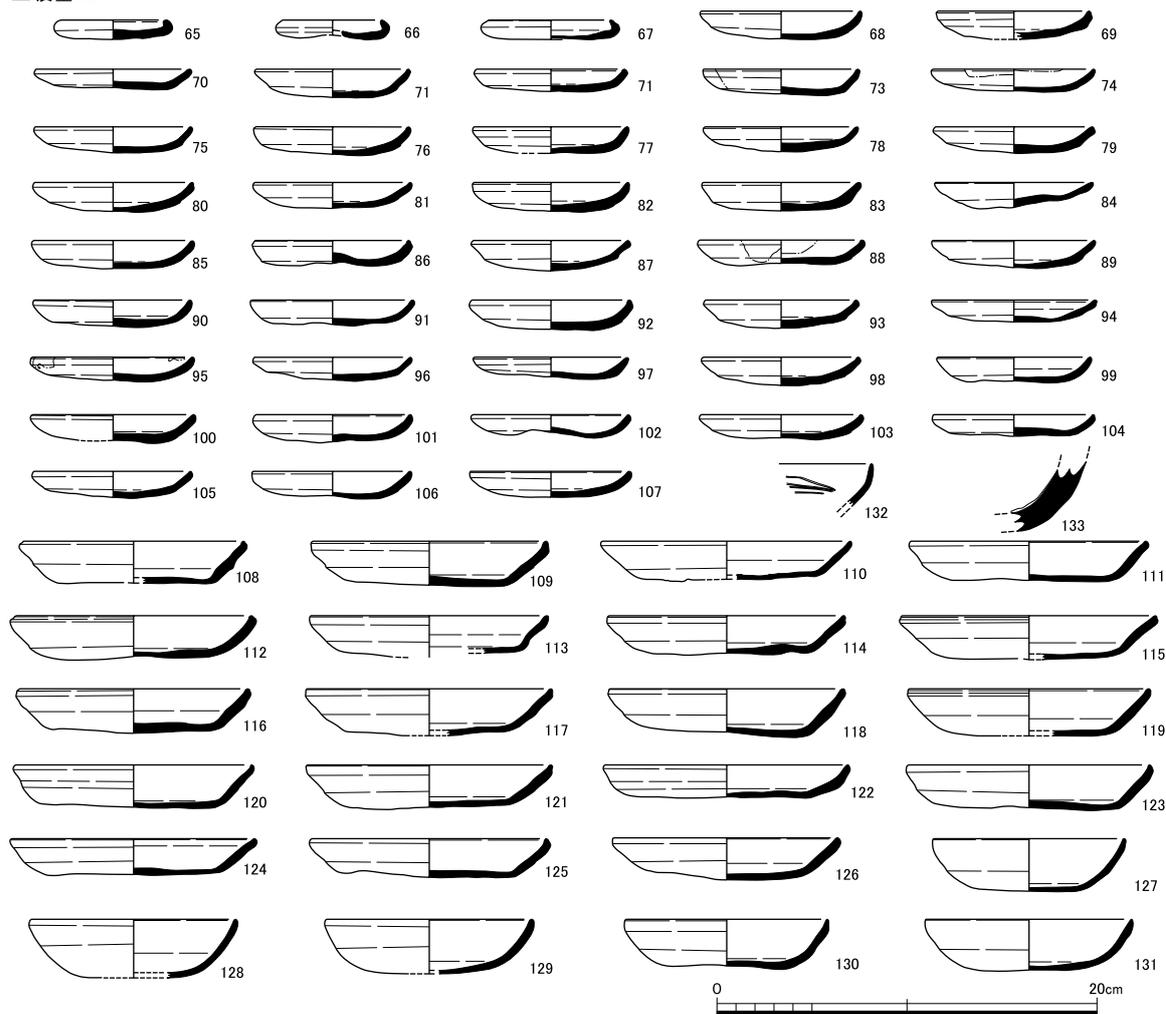


図32 土器実測図2 (1:4)

土墳墓227出土土器(図32-65~133、図版14) 副葬されたと考えられる大量の土師器皿を主体に、瓦器や埴塙片などが出土した。京都Ⅵ期新段階に属する。土師器皿はほとんどが完形で、コースター形のもの(65~67)、赤色系のものは口径8cm前後の小型のもの(68~107)、12~13cm前後の大型のもの(108~126)があり、白色系には10cm前後のやや器高が深いもの(127~131)などがある。瓦器碗の破片(132)は小片で、内外面に赤色塗彩が施される。ほかに、埴塙の破片(133)がある。

土墳墓157出土土器(図33-134~220、図版14) 副葬品として大量の完形の土師器皿が出土した。他に須恵器、瓦質土器、陶磁器などがごく少量ある。京都Ⅶ期古段階に属する。土師器皿(134~212)は、コースター形のもの(134)、白色系小型のへそ皿(135)が少量ある。赤色系の皿には、口径8cm前後の小型のもの(136~169)、口径10cmの中型のもの(170)、口径11~12cm前後の大型のもの(171~191)がある。白色系の皿には口径8cm未満の小型のもの(192~194)、口径10cm前後の中型のもの(195~199・203)、口径11~13cmの大型のもの(200~202、204~211)がある。赤色系の皿が主体的である。212は轆轤によって整形され、底部を糸切りするものである。須恵器(213)には東播系の鉢、瓦質土器には火鉢(219)がある。輸入陶磁器には白磁皿

土城墓157

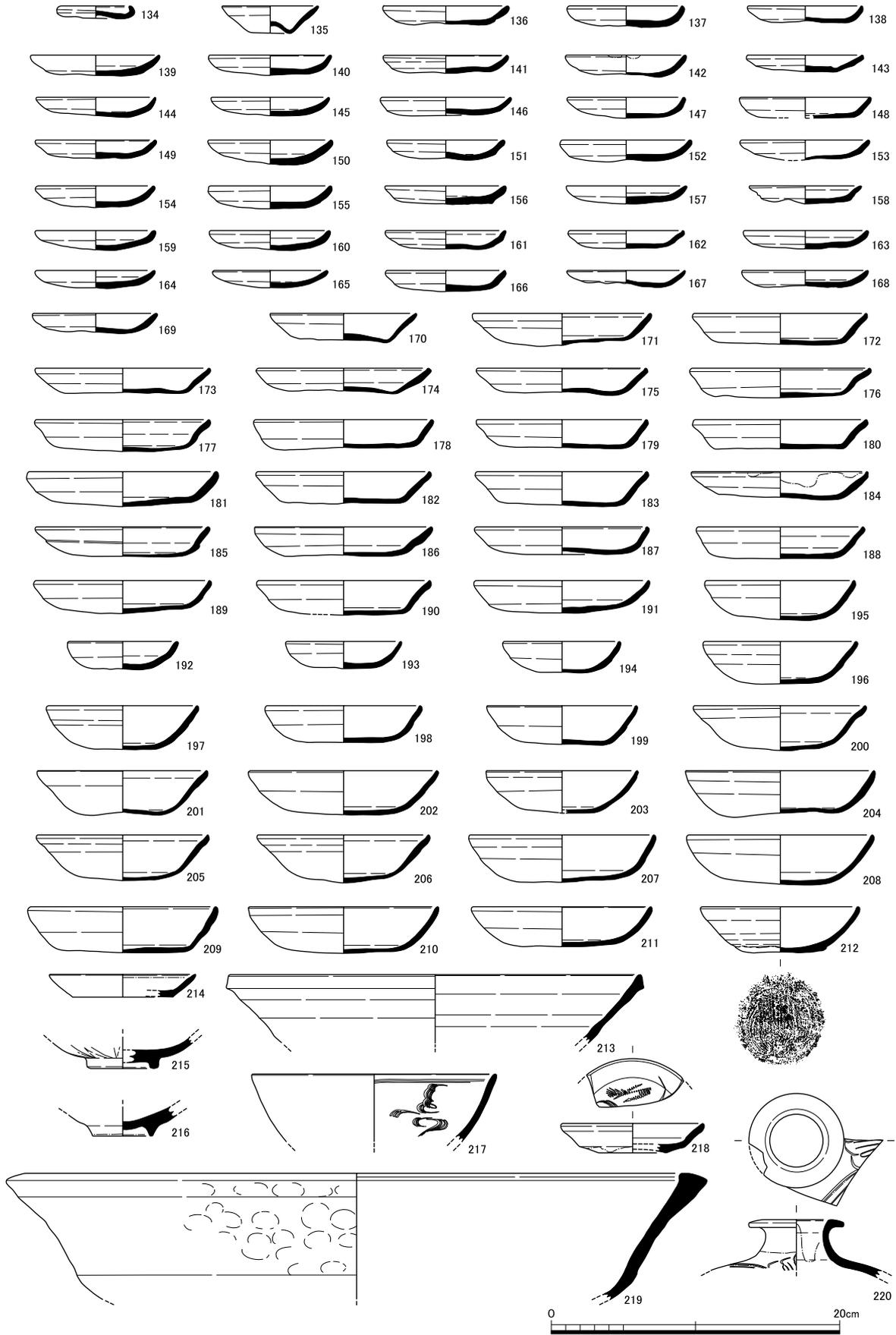


图33 土器实测图3 (1:4)

(214)、龍泉窯系の青磁椀(215～217)・皿(218)がある。壺220は白地黒掻き落としにより体部外面に陰刻花文を施し緑釉を掛ける。

**土坑464出土土器**(図34-221～226) 土師器、瓦器、焼締陶器などが出土した。京都Ⅶ期古段階に属する。土師器皿は白色系の口径6cm台のへそ皿(221～224)がある。瓦器には鍋(225・226)があり、いずれも口径21cmの受口口縁のものである。

**土坑212出土土器**(図34-227～241、図版15) 土師器、瓦器、焼締陶器、陶磁器、製塩土器と思われる土師質のものなどが出土した。京都Ⅶ期新段階に属する。土師器は皿が主体で、口径8cm前後の小型のもの(229～234)と9cmを越えるもの(235・236)があり、白色系のもは口径が7cm前後の小型のへそ皿(227・228)、口径が11cmを越える大型のもの(237～240)がある。241は土師質で製塩土器と考えられる体部が開く平底の底部である。

**井戸130B出土土器**(図34-242～249) 土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、陶磁器などが出土した。京都Ⅶ期新段階に属する。土師器皿には、白色系の口径7cm未満の小型のへそ皿(242～244)、口径8cm未満の小型のもの(245・246)、口径11cm前後の大型のもの(247～249)がある。

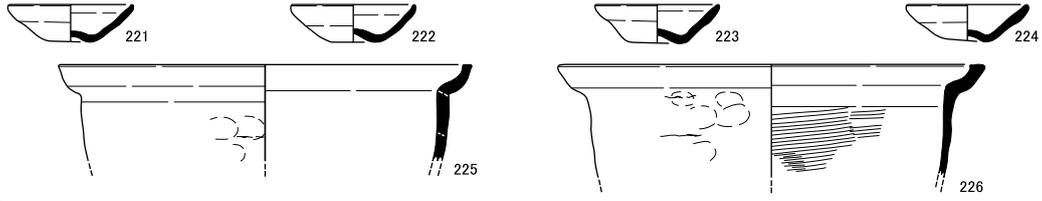
**土坑206出土土器**(図34-250～270、図版15) 土師器、須恵器、瓦器、灰釉陶器、焼締陶器、陶磁器などが出土した。京都Ⅷ期新段階に属する。土師器皿は、白色系の口径6～7cmの小型皿・へそ皿(250～257)、口径11cm台の中型のもの(261～263)、口径13～14cm前後の大型のもの(264・265)、赤色系には口径7cm台の小型のもの(258)、口径10cm前後の大型のもの(259・260)がある。灰釉陶器には直線的に口縁が開く椀(266)がある。瓦器には椀と羽釜がある。椀(267)は口縁端部内面に沈線が巡る、いわゆる大和型のものである。羽釜(268)は口縁部が内傾するもので、体部は失われているが、球形あるいは半球形に近い形状のものと思われる。施釉陶器には瀬戸産の卸目皿(269)がある。底部外面には糸切り痕が残る。焼締陶器には常滑産の大型甕(270)がある。

**井戸130A出土土器**(図34-271～281) 土師器、須恵器、瓦器、施釉陶器、陶磁器、焼締陶器、染付などが出土した。京都Ⅸ期古段階に属する。土師器皿は白色系の小型のへそ皿には口径が5～6cmのもの(271～273)と口径7cm台のもの(274・275)があり、大型の皿は口径が11～13cmのもの(280・281)がある。赤色系のもは口径が10cm前後のもの(276～270)がある。

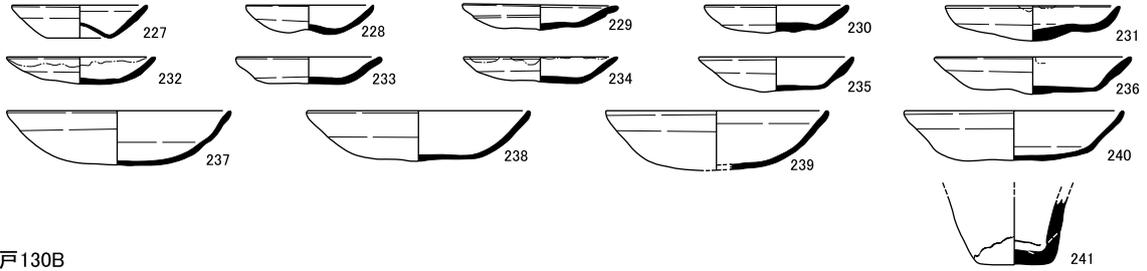
**溝151出土土器**(図34-282～295、図版15) 土師器、灰釉陶器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、陶磁器などが出土した。京都Ⅸ期中段階に属する。土器類の他に焼成を受けた壁土片や凝灰岩の破片などが出土している。土師器皿は白色系の小型のへそ皿(282～285)、口径9cmの中型のもの(292)があり、赤色系の口径8～9cmのもの(286～291・293・294)がある。瓦器羽釜(295)はやや中央が突出する底部から直線的に立ち上がる体部の上部に断面三角形の凸帯を巡らせる。口縁端部は端面に沈線が施される。

**井戸379出土土器**(図35-396～299、図版16) 土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、焼締陶器などが出土した。京都Ⅸ期古段階に属する。土師器皿は口径10cm未満で、内面に圈線の巡るもの(396・397)である。瓦器には口径26cmの大型の鉢(398)がある。外面下半は縦方向の刷毛目、上

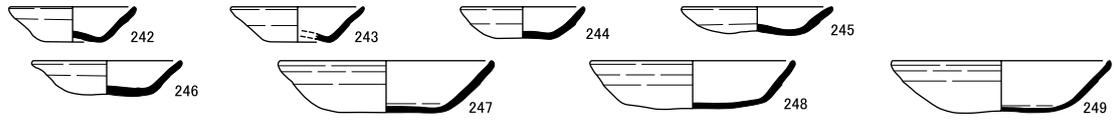
土坑464



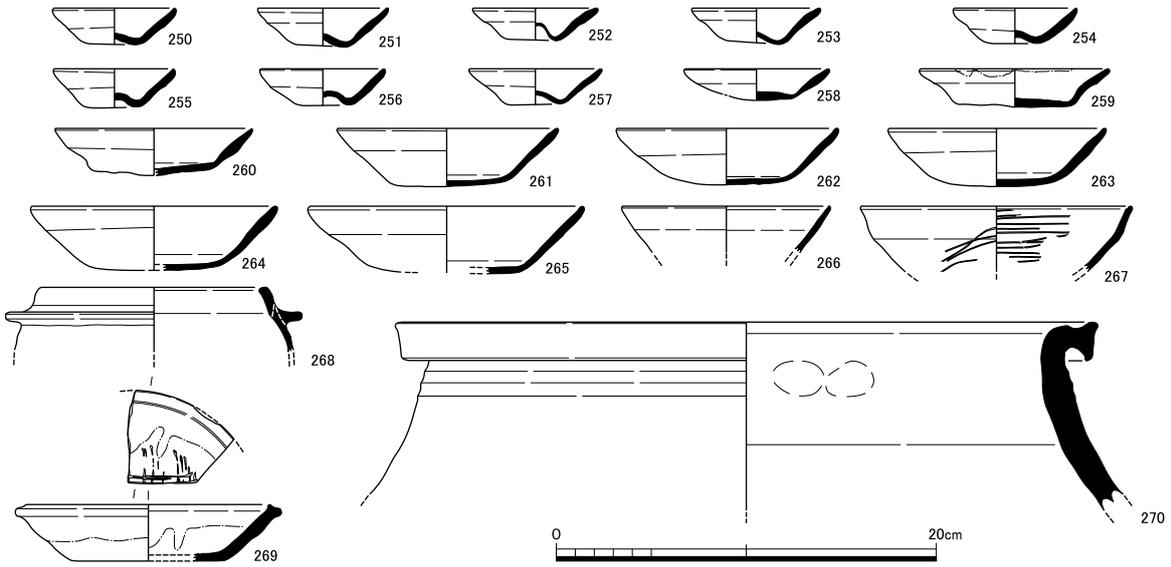
土坑212



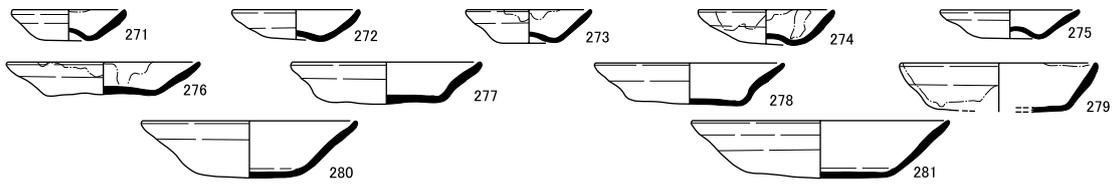
井戸130B



土坑206



井戸130A



溝151

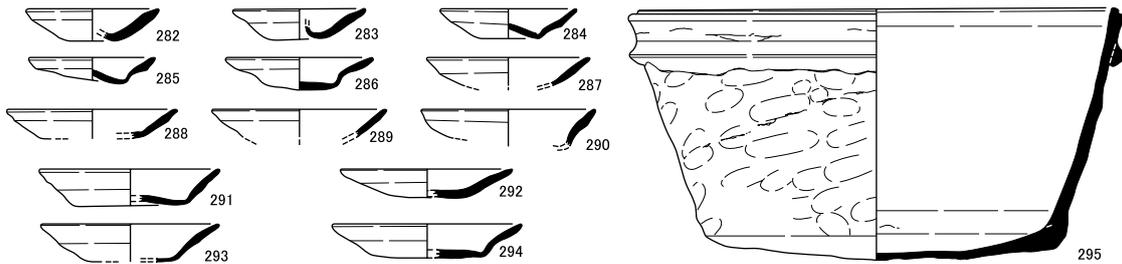


图34 土器实测图4 (1:4)

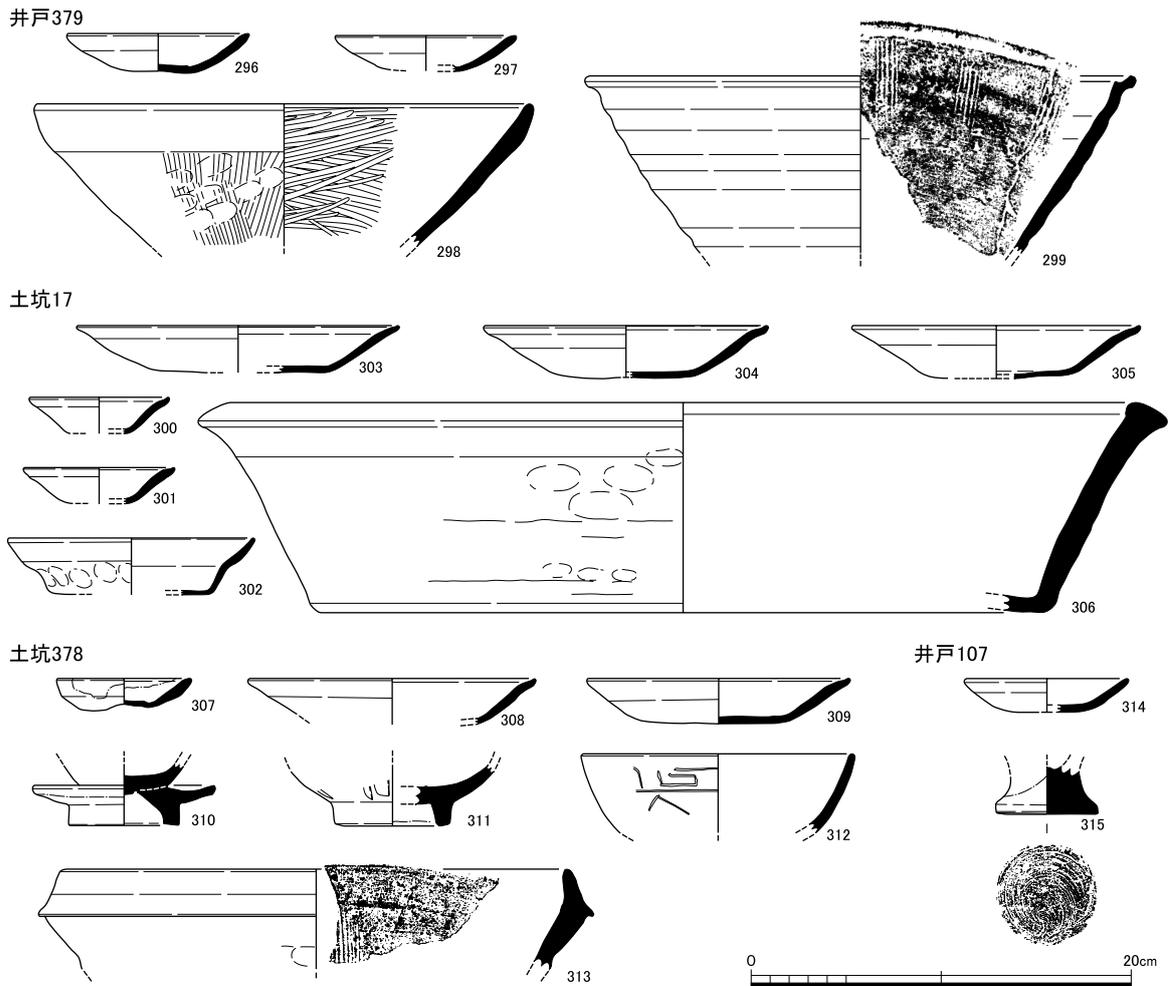


図35 土器実測図5 (1:4)

半口縁部はヨコナデ、内面は横方向のヘラミガキが施される。焼締陶器には信楽産の播鉢 (399) がある。内面の摺り目は5本単位の放射状で、下半は使用により磨滅する。

土坑17出土土器 (図35-300~306) 土師器、須恵器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、陶磁器、染付などが出土した。京都IX期新段階に属する。土師器皿には、白色系小型のへそ皿 (300)、口径8cmの小型皿 (301)、口径13cmの赤色系の大型皿 (302)、口径15cmを越える大型皿 (303~305) などがある。306は口縁端部の端面が外傾する大型の瓦器火鉢である。

土坑378出土土器 (図35-307~313、図版16) 土師器、瓦器、陶磁器、焼締陶器、施釉陶器などが出土した。京都X期古段階に属する。土師器皿は口径7cmの小型のもの (307)、口径13~15cmの大型のもの (308・309) がある。陶磁器には青磁碗 (311・312)、施釉陶器には天目の受け皿付き碗 (310)、焼締陶器には備前産の播鉢 (313) がある。

井戸107出土土器 (図35-314~315) 土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器などが出土した。京都IX期に属する。土師器皿は小型で、赤色系のもの (319) と白色系のもの (320) がある。施釉陶器には花瓶の脚部 (321) があり、底部には糸切り痕が残る。

土坑14出土土器 (図36-316~345、図版16) 土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、施釉陶器、焼締陶器、染付、塩壺、埴塙などが出土した。京都XI期新段階に属する。土師器皿には口径6cm未満

土坑14

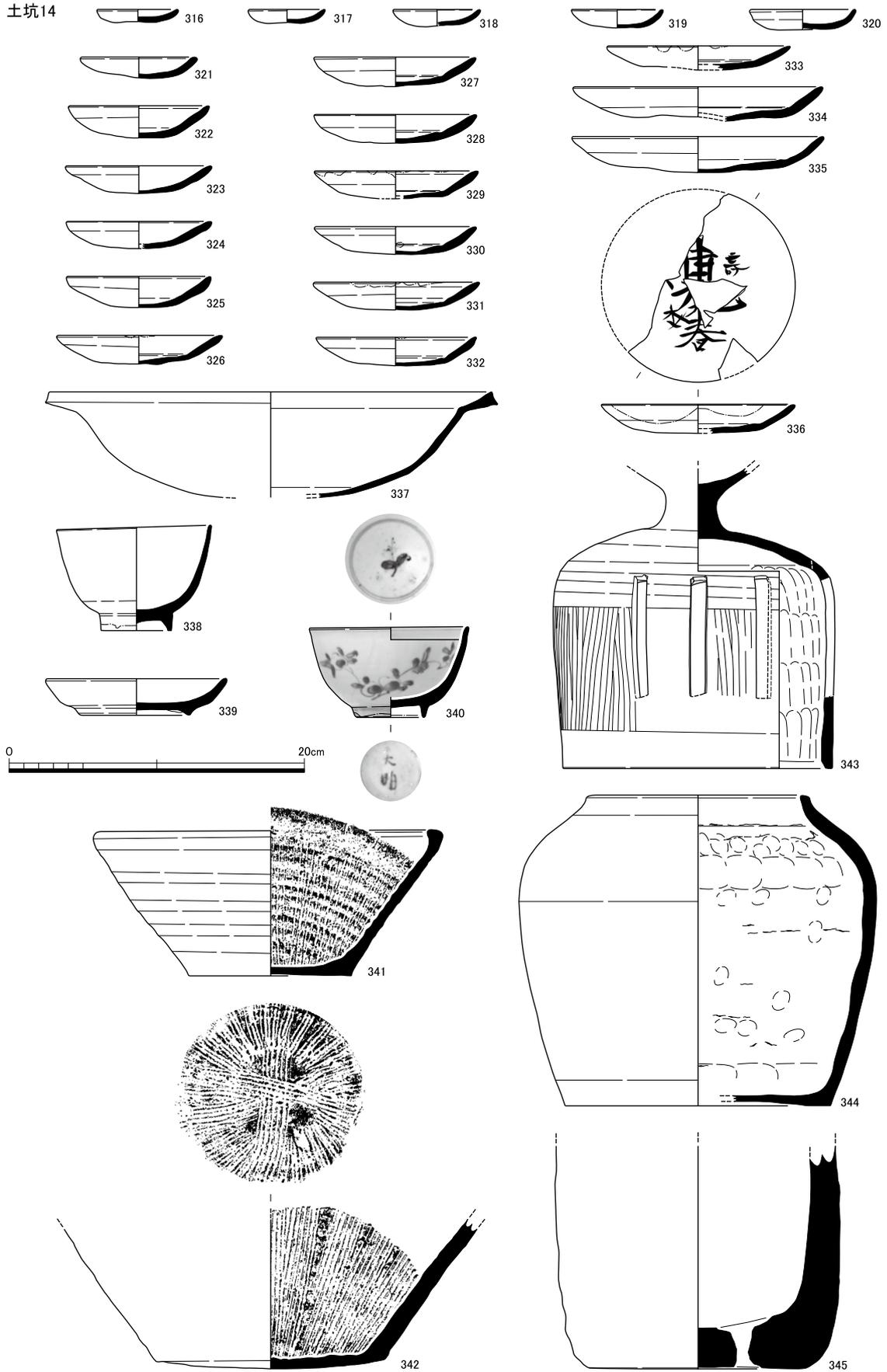


图36 土器实测图6 (1:4)

(316～319) と 7cm台 (320・321) の小型のもの、9～11cm (322～332) と 12cm台 (333・336) の中型のもの、17cm前後の大型のもの (334・335) がある。中型のものは内面に圏線のないもの (322～325) とあるもの (326～332・336) がある。336は内面見込みに墨書がなされる。右端に「寿」の文字が見え、吉字が並べられているようである。337は土師質の鍋である。瓦器には瓦灯蓋 (343)、火消壺 (344) がある。瓦灯蓋343は釣鐘形の体部に細長い長方形のスリットを3条入れ、反対側の上部に通気坑が設けられる。火消壺344は底が平底で足の付かないものである。陶磁器には青磁椀 (338)、施釉陶器には丸皿 (339)、染付には椀 (340) がある。焼締陶器には播鉢 (341・342) があり、341は丹波産、342は信楽産である。埴塙 (345) は、焼成後底部に穿孔されている。

### (3) 瓦類 (図37～39、図版17)

瓦類には、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などがあり、丸瓦・平瓦が大半を占め、軒瓦は少ない。また、有孔埴が出土している。

**軒丸瓦** (図37 - 346～350、図版17) 軒丸瓦には複弁蓮華文 (346～349)、三巴文 (350) がある。346～348は土坑317、349は土坑411、350は土坑14から出土した。

346は複弁蓮華文軒丸瓦。中房は平坦、蓮弁は幅広く、子葉は盛り上がり返りが強い。間弁は「Y」字形で蓮弁外郭線に接する。外区は珠文が密に巡る。周縁は素文である。範はA型、裏面上部に浅い溝を付けて、丸瓦を当て粘土を付加して接合する。瓦当部側面下位は横ナデ、裏面にはナデを施す。胎土は砂粒を含み灰色、硬質、表面は黒灰色を呈する。平安時代前期。『平安京古瓦図録<sup>2)</sup>』掲載の21、あるいは23と同文。

347は複弁蓮華文軒丸瓦。凸中房で、蓮弁は細長く、子葉は盛り上がる。間弁は「T」字形である。瓦当部成形は不明。裏面はナデを施す。胎土は砂粒を多く含み灰白色、やや軟質である。平安時代前期か。

348は複弁蓮華文軒丸瓦。中房は平坦、蓮弁は短く、子葉が付く。間弁は棒状である。蓮弁・間弁は凸線で表す。外区は珠文が巡る。周縁は楕円形で素文である。裏面上部に溝を付け、丸瓦挿入し、粘土を付加して接合する。瓦当部側面下位は横ナデ、裏面は押えである。胎土は砂粒を含み黄灰色、やや軟質である。表面は黒灰色である。平安時代後期。山城産。『平安京古瓦図録』掲載の218、栗栖野窯出土のものに同文がある。

349は複弁蓮華文軒丸瓦。中房は平坦、蓮弁は剣頭状で、子葉あり。間弁はバチ形である。周縁は素文である。瓦当部成形は不明。瓦当部側面下位は押えの後横ナデ、裏面は押さえ後ナデを施す。胎土は砂粒を少量含み白灰色、やや軟質である。表面は黒灰色である。平安時代後期。山城産。『平安京古瓦図録』掲載の220と同文。

350は巴文軒丸瓦。右巻き3巴文を配する。頭部は離れ、尾部は長く互いに接する。文様上部は盛り上がる。外区は珠文が密に巡る。周縁は素文である。瓦当部成形は、裏面上端に溝を付け、丸瓦を挿入して、粘土を付加して接合する。瓦当部側面はヨコナデ、裏面ナデを施す。丸瓦凸面縦ナデ後縦ミガキ、凹面布目、側面タテケズリ後縦ナデ。玉縁部凸面横ナデ、凹面布目、端面ケズリ後

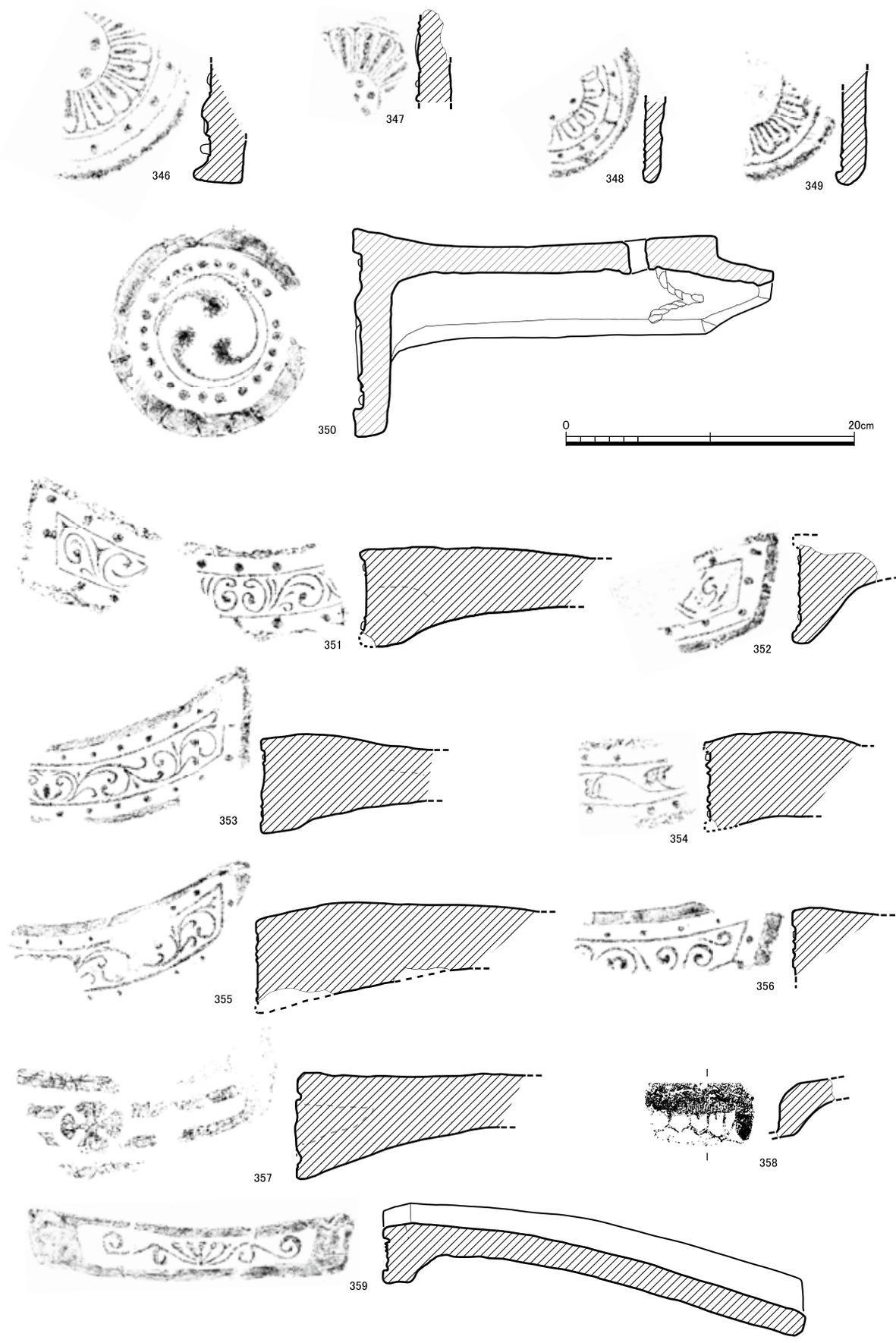


图37 軒瓦拓影·实测图 (1 : 4)

ナデ。丸瓦凹面に吊り紐が残る。胎土は細砂を含み灰色、硬質である。表面は黒灰色である。

軒平瓦（図37 - 351～359、図版17） 軒平瓦には唐草文（351～356・359）、重郭文（357）、剣頭文（358）がある。351～356は土坑317、357は土坑267、358は土坑17、359は土坑14からそれぞれ出土した。

351は唐草文軒平瓦。中心飾りは対向C字文で、唐草文は両側に3反転する。唐草文は各单位が離れ、主葉は強く巻き込む。外区は珠文が巡る。外区に横向き「西」名を配す。周縁は素文である。顎部は曲線顎、瓦当部成形は不明である。瓦当部上縁は横ケズリ、顎部下面はヨコナデ、平瓦凹面は布目、凸面は縦ナデ、側面縦ケズリ後縦ナデを施す。胎土は砂粒を含み灰白色、やや軟質である。表面は黒灰色を呈する。平安時代前期。大山崎窯産。『平安京古瓦図録』掲載の305、および『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第31集<sup>3)</sup>掲載の第13図の18と同範である。

352は唐草文軒平瓦。唐草文は両側に反転し、唐草文主葉は強く巻き込む。外区は珠文が密に巡る。周縁は素文である。顎部は段顎、瓦当部成形は不明である。顎部下面はヨコナデ、裏面はオサエ後ナデ、瓦当部側面縦ケズリ後縦ナデを施す。胎土は砂粒を含み灰色で、やや軟質である。表面は黒灰色を呈する。平安時代前期、あるいは中期か。

353は唐草文軒平瓦。中心飾りは上向きC字形で中に三葉形、上に対葉花文を配する。唐草文は両側に3反転し、唐草文主葉は連続して大きく反転、支葉は強く巻き込む。外区は珠文が密に巡る。周縁は素文である。顎部は曲線顎、瓦当部成形は不明である。瓦当部上縁は横ケズリ、顎部下面は横ケズリ後ヨコナデ、平瓦凹面は布目、凸面は一部縄タタキが残り後縦ケズリ、側面縦ケズリを施す。胎土は砂粒をやや多く含み黄灰色、やや軟質である。表面は黒灰色を呈する。平安時代前期。『平安京古瓦図録』掲載の316、『西賀茂瓦窯跡』<sup>4)</sup>掲載のN S 202 A、『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第31集<sup>5)</sup>掲載の第13図の13、『木村捷三郎収集瓦図録』掲載の285と同範である。

354は唐草文（宝相華文）軒平瓦。唐草文は左向きに反転する。唐草は連続し、主葉はゆるやかに巻き込む。外区は密に珠文が巡る。周縁は素文である。瓦当部成形は不明。瓦当部上縁は横ケズリ、平瓦凹面は布目、凸面縦ケズリ、側面縦ケズリを施す。胎土は砂粒を含み灰色、硬質である。平安時代か。

355は唐草文軒平瓦。353と同文である。顎部は曲線顎、瓦当部成形は不明。瓦当部上縁は横ケズリ、平瓦凹面は布目、凸面は縦ケズリ、側面縦ケズリを施す。胎土は砂粒をやや多く含み明茶灰色、やや硬質である。『平安京古瓦図録』掲載の316、『西賀茂瓦窯跡』掲載のN S 202 A、『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』31集<sup>5)</sup>掲載の第13図の13、『木村捷三郎収集瓦図録』掲載の285と同範である。

356は唐草文軒平瓦。唐草文は両側に反転する。唐草は各单位が離れ、主葉は強く巻き込む。外区は粗く珠文が巡る。周縁は素文である。瓦当部成形は不明。瓦当部上縁は横ケズリ、平瓦凹面は布目、側面縦ケズリを施す。胎土は砂粒を少量含み灰白色、硬質である。平安時代か。

357は重郭文軒平瓦。中心に4弁花文を配し、両側に重郭文を配する。文様面は平坦である。周縁は素文である。顎部は直線顎、瓦当部成形は不明である。瓦当部上縁は横ナデ、平瓦凹面は布目、

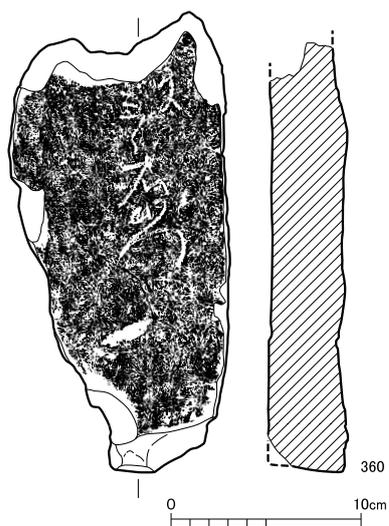


図38 文字線刻瓦拓影・実測図（1：4）

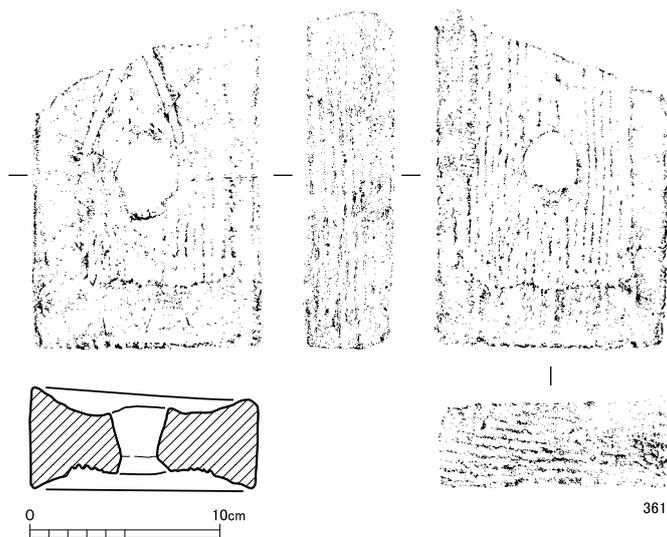


図39 有孔罽拓影・実測図（1：4）

凸面は斜方向縄タタキ、側面縦ナデを施す。胎土は砂粒を多く含み灰色、やや硬質である。平安時代後期。阿波産。平安宮・阿波国分寺の出土瓦に同範、『平安京古瓦図録』558と同文。

358は剣頭文軒平瓦。短い剣頭文を配する。顎部は曲線顎、瓦当部成形は折曲げ技法による。瓦当部上縁から平瓦凹面は布目、側面は縦ケズリ、顎部凸面は横ケズリ、裏面はヨコナデを施す。胎土は砂粒をやや多く含み灰白色、やや軟質である。山城産。

359は唐草文軒平瓦。中心飾りは横花文で、唐草文は両側に2回反転する。主葉は連続して緩やかに反転し、支葉は強く巻き込む。周縁は素文で、側縁が幅広い。顎部は段顎、瓦当部成形は不明である。瓦当部上縁は横ナデ、顎部下面・裏面は横ナデを施す。平瓦凹面はヨコナデ、凸面はナデ、側面は縦ケズリを施す。胎土は砂粒を多く含み灰色、硬質である。表面は燻して黒灰色を呈する。江戸時代前期。

**文字線刻瓦**（図38－360、図版17） 全体の形は不明であるが、凸面にヘラ描きの縦書きの文字が焼成前に刻まれる。文字は上部が欠損するものの少なくとも2行あり、1行目は不明であるが、2行目は「三郎右衛文」と人名が記される。土坑21から出土した。

**有孔罽**（図39－361、図版17） 有孔罽は各遺構から出土したが、特に井戸107では井戸底面木枠内に敷き詰められた状態で検出した。しかしいずれも完形のものではなく、破片ばかりであるが、おおよそ短辺が12cm、長辺が30cm、厚さが4～5cmで、2箇所穿孔がなされる。穴の直径は3cm前後である。型を使用して制作され、中央部は圧せられて凹む。各端面に縄目が付けられる。

#### （4）その他の遺物

##### 1）金属製品（図40・41、図版18・19）

金属製品は、各時期ともに鉄製の釘と考えられるものが多くあるが、土坑115で検出した銭貨のうち銭種の判明したものの各種の拓影と土壙墓157で出土した鉄製短刀3振および刀子1振の実測図を掲載する。

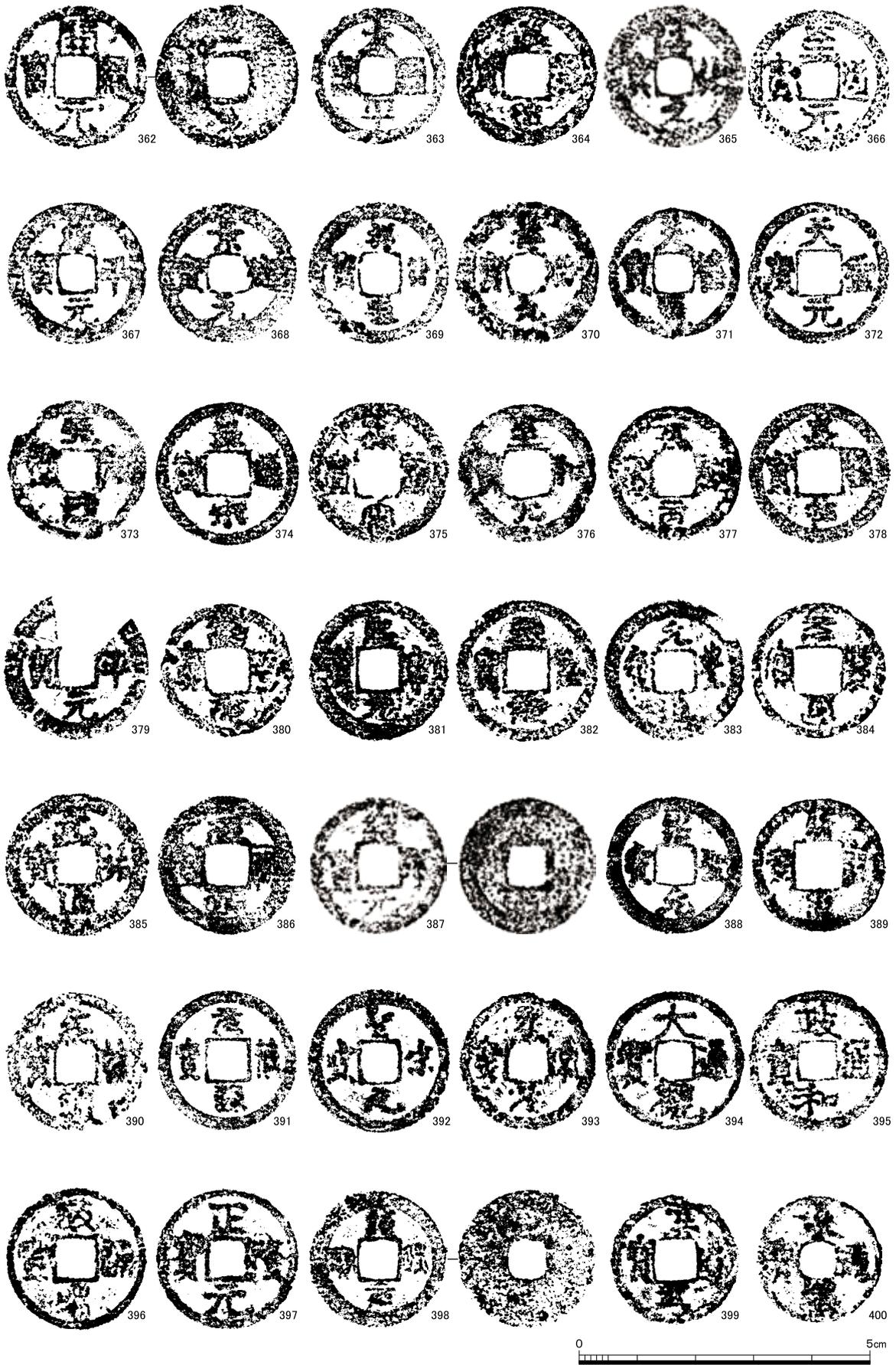


图40 土坑115出土钱货拓影（1：1）

土坑115出土銭貨（図40、図版18、表3、付表2） 2区第1面で検出した土坑115では、遺構の項にも記述した通り、検出時は長径0.05m前後の小礫群が現れ、その下層で銭貨群を検出した。検出した銭貨は283枚あった。いずれも埋土中に直接埋納された状態で検出しており、遺存状況は良くなかった。そのうちの155枚について銭種が判明した。銭種は表3に示した通り27種、北宋銭が大半を占めるが、唐、南宋、金、明などのものがある。それぞれ書体の別があるものもあり、主なものを39枚を掲載した（図40）。初鑄年の最も古いのは唐の開元通寶の621年であり、最も新しいのは明の永樂通寶の1408年とかなりの時間幅がある。判読できた銭種では北宋の元豊通寶や皇宋通寶などが多い。

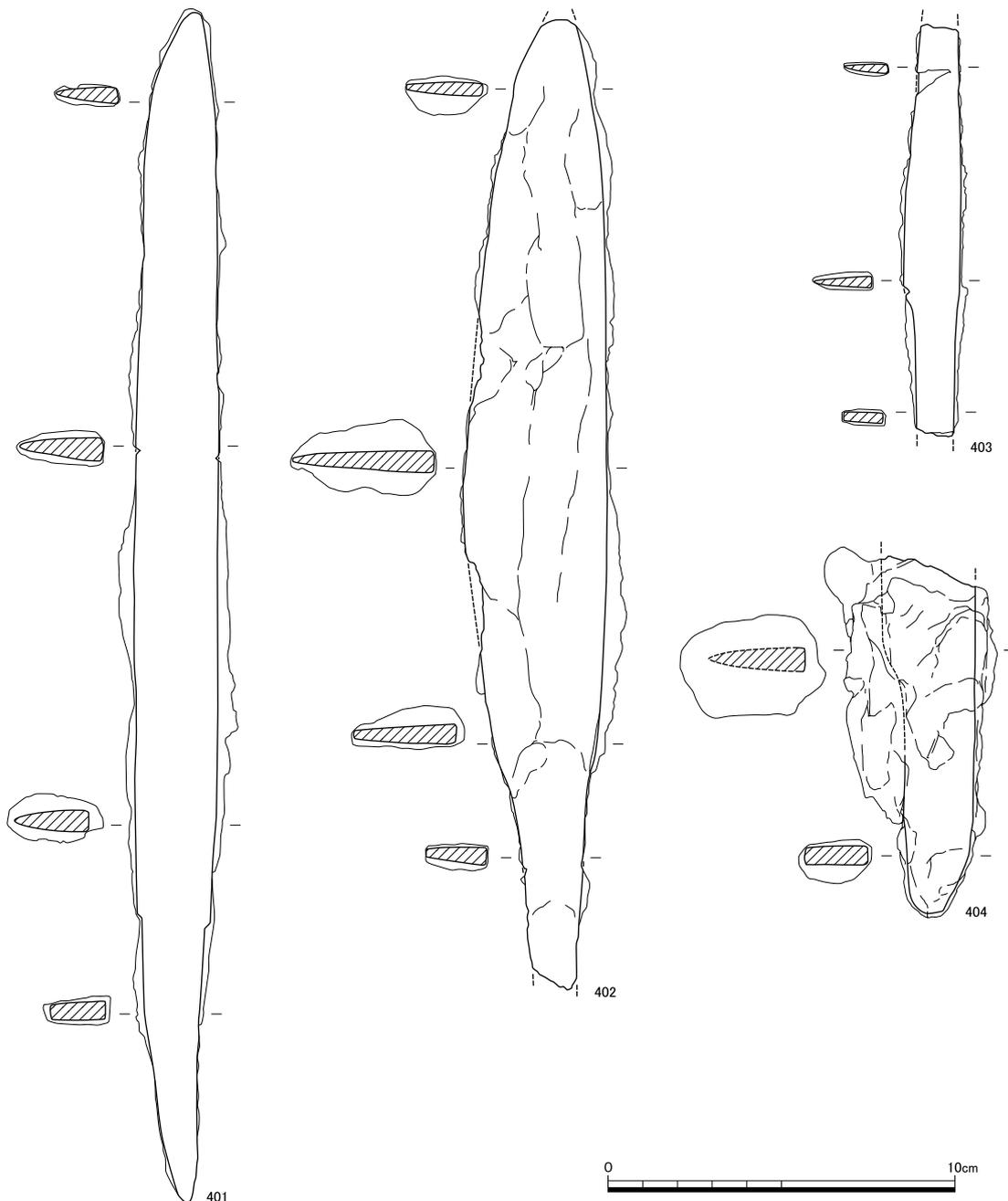


図41 土墳墓157出土鉄製刀類実測図（1：2）

土壙墓157出土金属製品（図41、図版19） 多量の完形の土師器皿が埋納された土壙墓157からは鉄製の短刀3振（401・402・404）と刀子1振（403）が出土した。短刀3振はいずれも土坑の底面に接して検出した。401・403は土坑西側の一段低い部分の北側に切先を西へ向けて東西方向に置かれ、402は土坑東側の一段高い部分の南側に切先を北へ向けて南北方向に置かれた状態で出土した（図17）。いずれも錆の表出が著しく、原形は明らかでない。401は全長が34.5cm、刃部の長さは26.5cm、最大幅は2.4cmと細身である。402は切先および茎先が欠損する。残存長は28.0cm、刃部の最大幅は4.2cmである。404は刃部の大半が欠損している。残存長は10.3cm、刃部の最大幅は2.7cmである。刀子と考えられる403は切先と茎先を欠損する。残存長は11.8cm、刃部の最大幅は1.5cmである。

## 2) 土製品（図42、図版19）

土製品は全体の出土量からすればかなり少ない。円盤状土製品2点と鋳型1点を報告する。円盤状土製品は2点（405・406）とも瓦片の側面を研磨して円形にしたもので、片方の面に穿孔がなされる。405は直径がおおよそ5cm、厚さは1.6cm、片面の中央に直径0.2cmの小さく浅い穿孔がなされる。第1面の土坑21から出土した。406は直径3.2cm、厚さ1.5cm、片面の中央に直径0.5cmの穿孔が施される。第1面の土坑14から出土した。銅製品の鋳型とみられるものは数点出土しているが、いずれも破片で残存状況が良くない。407も縦5.4cm、横2.9cmの破片で、破損が著しく、原形はわからない。第3面の土壙墓227から出土した。土壙墓227からは埴塙と思われるものの破片（図32-133）があり、周辺で銅製品の鋳造が行われていたとみられる。

## 3) 石製品（図43、図版19）

石製品には、弥生時代の石鏃のほか、砥石、碁石、石仏などがある。石鏃は2点、いずれもサヌカイト製で、形態的・技法的特徴から弥生時代のものと考えられる。408は凸基有茎鏃、409は凹基無茎鏃である。後世の遺構に混入して出土した。410は碁石と考えられる黒色円形の石、直径2.5cm、厚さ0.85cmである。第4面土坑288から出土した。411は長方形の硯の陸部の破片である。第2面溝151から出土した。砥石も各遺構から比較的多く出土している。玉砥石とみられるもの2点（412・413）と手持ちで用いる刃物用の砥石（414・415）がある。412は幅4.2cm、厚さ0.7cmの破片で、片面のやや右寄りに幅0.6cmの溝状の研磨痕が残る。第4面土坑288から出土した。413は三方が欠損して一辺のみが残存する、厚さは1.0cm、一面は面的に、もう一面には幅0.7mの溝状の研磨痕が残る。第4面柱穴147から出土した。414・415は第1面土坑351から出土した。414は長さ15.3cm、幅3.9cm、厚さ1.3cmの長方形の板状のもので、左側面には記号状の線刻、右側面には「天」、○の内側に「六」、「ろ」が線刻される。また裏面左上には○に「大」が線刻される。右側面の文字は上面側が

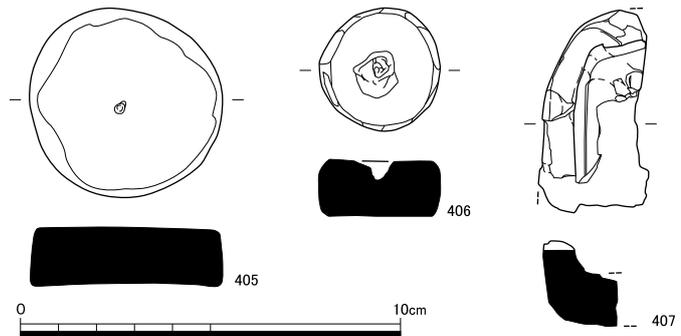


図42 土製品実測図（1：2）

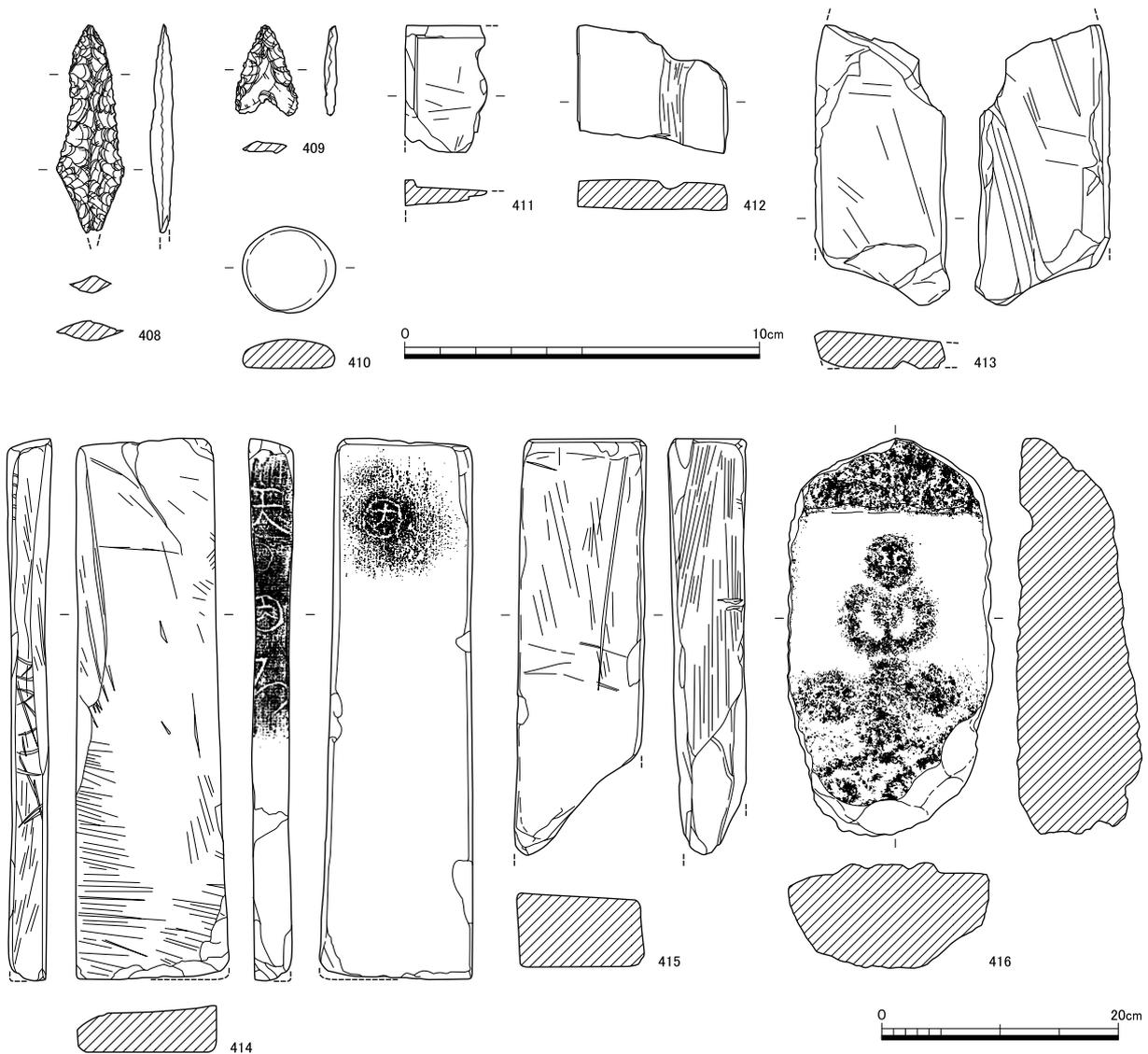


図43 石製品実測図（1：2、416のみ1：6）

削れてしまっていることから、上面は良く使い込まれて減っていることがわかる。415は下端が欠損する。残存する長さは11.8cm、幅3.6cm、厚さ2.1cmの柱状のものである。416は花崗岩製の石仏である。縦33.5cm、横17.5cm、厚さ10cm。第1面土坑324から出土した。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年11月。
- 2) 平安博物館編『平安京古瓦図録』、雄山閣、1977年。
- 3) 『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第31集（大山崎町第56次遺跡確認調査（7YYMS'EG-6地区）概要）、大山崎町教育委員会、2005年8月
- 4) 『西賀茂瓦窯跡』（平安京跡研究調査報告 第4集）、財団法人古代学協会、1978年3月。
- 5) 『木村捷三郎収集瓦図録』、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1996年3月。

## 5. まとめ

本調査地は平安京左京五条三坊十六町の北東部にあたり、調査区は北側の四条大路、東側の東洞院大路から離れて町のやや内側に入った位置に設定した。また、調査に先立って行った試掘調査の3トレンチは東洞院大路の西築地推定ラインを含めて東西方向に設定した。

まず、当地の調査において地形上特筆されるのは、通常の左京域の調査よりも浅い標高で平安京以前の堆積層である、いわゆる地山層が検出されたことであろう。いわゆる地山層は周辺で検出されるものと同様に、鴨川の氾濫による北東から南西方向への砂礫・粗砂・細砂・シルトなどからなる古い流れ堆積である。当地では周辺地域より約1m高く検出されたことから、自然堤防状の地形であったと考えられる。通常、このように自然堤防状に高まった箇所には、平安京下層の集落遺跡である烏丸綾小路遺跡に関連する遺構が断片的であれ検出される場合が多いが、本調査では全く検出できなかった。後世の遺構などに混入して出土した当該期の遺物はごく少量であったことから、元来空地であったとみてよいであろう。

**平安時代** 文献史料によれば、当十六町は中期には関白・藤原忠平の「西五条第」、後期には尾張守・藤原顕盛の邸宅や斎院禧子内親王の卜定所であったなどと伝える。本調査では平安時代の遺構は中期の井戸1基、末期の土坑2基を検出したにとどまる。平安時代中期の土坑317（井戸）は、構造は不明であるが掘形の規模は大きく、10世紀に作られて11世紀には埋められたとみられる。上述した関白・藤原忠平の「西五条第」に関連する遺構である可能性が高いと考える。

**鎌倉時代から室町時代** 試掘調査3トレンチでは、東端で鎌倉時代初頭と室町時代2時期の東洞院大路の路面整地層および西側溝をそれぞれ検出している。中世以降には本調査区は北側の四条大路、東側の東洞院大路にそれぞれ面して軒を並べる町屋の奥空間にあたる。

本調査において最も遺構・遺物ともに多くなる室町時代には、区画に関する遺構が顕著となる。1区では南北方向の柱穴列465、2区では東西方向の溝151がある。柱穴列189や281は東西方向の布掘りの礎石列であり、建物の一部である可能性も考えられよう。柱穴列465は四条大路に面する、溝151や柱穴列189・281は東洞院大路に面する町屋の敷地境界などに関する遺構であろう。また、多くの土坑や柱穴が穿たれ、井戸や墓と考えられる多量の土器を埋納した土坑があるなど、町屋奥の雑多な様子が見て取れる。

**江戸時代** 中世と同様、町屋の裏空間である状況は変わらず、炭や灰など不用物の大型の廃棄土坑（土坑14・21・49）、井戸などのほか、多数の土坑・柱穴が作られる。土坑115は円形の掘形の北半に多数の銅銭を入れ、その上を直径10cm前後の礫で覆う特殊な遺構である。何らかの祭祀に関わる可能性がある。

当地は、現在の地名が下京区長刀鉾町と元悪王子町に跨がっている。「長刀鉾町」は中世以降、現在も当地が祇園会を支える鉾町であったことを示している。また、「元悪王子町」は天延二年（974）に東洞院四条下る西側に建立されたと伝わる「悪王子社」があったことを示している。悪王子社はスサノオノミコトの荒御魂を祀るために建てられた八坂神社の摂社であったが、桃山時代に豊臣

秀吉の命によって烏丸五条へ移転されてしまったため、「元」悪王子町となっている。本調査ではこれら当地の地名に関連するような明確な遺構・遺物は検出できなかったが、祭祀的な要素が強い土坑115は地鎮めに係わる遺構と考えられること、年代的に符合することなどを考え合わせると悪王子社の移転に関連する遺構である可能性が指摘できる。

付表1 掲載土器観察表

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色 調	胎 土	備考
1	2区 4面	土坑317	土師器 皿	11.4	1.7		90	2.5Y8/2灰白色	密 φ6mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
2			土師器 皿	11.2	1.5		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下のチャート・雲母・赤色粒含む	
3			土師器 皿	11.7	1.6		90	2.5Y7/4浅黄色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
4			土師器 皿	15.4	3.5		65	10YR8/4浅黄橙色	密 φ2.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
5			土師器 高杯		(10.6)		脚部 60	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ4mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	脚部 12面か
6			緑釉陶器 椀	7.9	(5.5)	6.7	35	胎土 N7/0灰白色 釉 10Y6/2オリーブ灰色	密 φ0.5mm以下の長石含む	篠窯
7			緑釉陶器 椀		(2.2)	8.0	底部 50	胎土 10YR7/4にぶい黄橙色 釉 7.5Y5/3灰オリーブ色	密 φ1mm以下の長石含む	底部 糸切り
8			緑釉陶器 椀		(2.5)	9.3	底部 50	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 10Y7/2灰白色	密 φ1mm以下の長石含む	猿投窯
9			緑釉陶器 椀		(1.6)	6.0	底部 35	胎土 N6/0灰色 釉 7.5Y5/2灰オリーブ色	密 φ1mm以下の長石含む	
10			輸入青磁 椀		(1.5)	4.6	底部 50	胎土 5Y7/1灰白色 釉 5Y6/3オリーブ黄色	密	越州窯系
11			緑釉陶器 皿		(1.5)	7.0	35	胎土 N7/0灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	密	猿投窯
12			灰釉陶器 椀		(3.1)	6.2	20	2.5Y8/1灰白色	密 φ1mm以下の長石含む	美濃窯
13			灰釉陶器 壺		(9.5)	12.5	35	5Y7/1灰白色	密 φ1mm以下の長石含む	猿投窯
14			須恵器 風字硯					2.5Y8/1灰白色	密	猿投窯
15	3区 4面	土坑463	土師器 皿	9.7	1.5		60	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・黒色粒含む	
16			土師器 皿	9.7	1.7		40	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒・黒色粒含む	
17			土師器 皿	13.8	2.3		35	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
18			土師器 皿	14.6	2.7		25	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
19			土師器 皿	14.7	2.7		100	2.5Y8/2灰白色	密 φ6mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
20			土師器 皿	15.5	3.3		25	10YR8/2灰白色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
21			土師器 皿	14.8	3.5		20	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・黒色粒含む	
22			土師器 皿	15.1	2.7		75	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
23			土師器 鉢	12.7	4.9		25	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	脚が三方に付く
24			輸入白磁 椀		(2.1)	6.0	底部 100	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	密	
25	3区 4面	土坑438	土師器 皿	9.8	1.5		90	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
26			土師器 皿	9.6	1.6		15	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・黒色粒含む	
27			土師器 皿	14.0	(2.5)		10	2.5Y8/3灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
28	2区 4面	土坑288	土師器 皿	7.0	1.1		50	2.5Y8/1灰白色	密 φ0.5mm以下の石英・雲母・赤色粒含む	
29			土師器 皿	9.0	1.3		35	2.5Y7/3浅黄色	密 φ2.5mm以下の長石・チャート・雲母含む	

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存(%)	色調	胎土	備考
30	2区 4面	土坑288	土師器皿	9.0	1.4		35	7.5YR7/6橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
31			土師器皿	9.0	1.4		85	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	油煙付着
32			土師器皿	8.8	1.5		90	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
33			土師器皿	8.4	1.4		35	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の石英・チャート・雲母含む	
34			土師器皿	8.8	1.7		40	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
35			土師器皿	8.8	1.5		60	10YR6/3にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母含む	
36			土師器皿	8.6	1.4		50	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の石英・雲母含む	
37			土師器皿	8.8	1.4		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
38			土師器皿	8.8	1.6		80	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・雲母含む	
39			土師器皿	8.6	1.4		35	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の雲母含む	
40			土師器皿	8.9	1.5		80	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
41			土師器皿	13.9	2.7		50	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
42			土師器皿	12.9	2.3		35	7.5YR7/6橙色	密 φ1.5mm以下の長石・雲母含む	
43			土師器皿	13.6	2.9		100	7.5YR7/6橙色	密 φ1mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
44			土師器皿	14.2	2.8		35	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
45			土師器皿	14.4	(2.4)		15	10YR7/6明黄褐色	密 φ1mm以下の雲母・赤色粒含む	
46			土師器皿	13.7	2.5		60	10YR6/4にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
47			土師器皿	12.7	2.6		35	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・雲母含む	
48			土師器皿	13.6	2.7		50	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・雲母含む	
49			土師器皿	13.8	2.6		20	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
50			土師器皿	13.3	2.9		25	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
51			土師器皿	14.0	2.7		95	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ4mm以下の石英・雲母含む	
52				須恵器鉢	(25.8)	(4.6)		15	2.5Y5/1黄灰色	密 φ2mm以下の長石含む
53		瓦器羽釜	20.8	12.9		40	N4/0灰色	密 φ1mm以下の長石・石英含む		
54		青磁椀	15.0	(3.0)		5	胎土 7.5Y7/1灰白色 釉 7.5Y6/1灰色	密		
55		輸入青磁皿	10.2	1.7		50	胎土 5Y7/2灰白色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	密		
56	2区 4面	柱穴147	土師器皿	8.4	1.3		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ4mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒子含む	
57			土師器皿	8.2	1.2		100	2.5Y7/3浅黄色	密 φ2.5mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	油煙付着
58			土師器皿	7.8	1.7		50	5YR6/6橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存(%)	色調	胎土	備考
59	2区 4面	柱穴147	土師器 皿	12.2	2.0		65	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
60			土師器 皿	12.2	2.3		40	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・雲母・赤色粒含む	
61			土師器 皿	12.4	2.3		50	2.5Y6/3にぶい黄色	密 φ1.5mm以下の雲母・赤色粒含む	
62			土師器 皿	12.3	2.6		60	10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
63			土師器 皿	7.4	1.4		65	2.5Y8/3淡黄色	密 φ3mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
64			土師器 ?	7.9	(3.8)		15	2.5Y8/2灰白色	密 φ3.5mm以下の石英・チャート・雲母含む	
65			2区 3面	土壇墓 227	土師器 皿	5.9	1.1		100	2.5Y8/2灰白色
66	土師器 皿	5.2			1.1		25	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート含む	底部に穿孔有
67	土師器 皿	6.4			1.1		90	10YR8/2灰白色	密 φ0.5mm以下の石英・チャート・雲母含む	
68	土師器 皿	8.4			1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
69	土師器 皿	8.0			1.5		50	7.5YR6/2灰褐色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	
70	土師器 皿	8.1			1.6		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
71	土師器 皿	8.0			1.5		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
72	土師器 皿	7.8			1.2		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・雲母含む	
73	土師器 皿	8.1			1.3		100	2.5Y7/3浅黄色	密 φ2.5mm以下の石英・チャート・雲母含む	
74	土師器 皿	8.5			1.2		100	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	口縁油煙付着
75	土師器 皿	8.2			1.4		75	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
76	土師器 皿	8.1			1.5		100	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	
77	土師器 皿	8.1			1.4		50	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
78	土師器 皿	8.0			1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	
79	土師器 皿	8.2			1.4		80	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
80	土師器 皿	8.3			1.6		75	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
81	土師器 皿	8.2			1.4		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
82	土師器 皿	8.1			1.6		75	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ4mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
83	土師器 皿	8.2			1.5		65	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
84	土師器 皿	8.2			1.4		65	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2.5mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
85	土師器 皿	8.3	1.5		50	2.5Y7/4浅黄色	密 φ9mmのチャート、φ2mm以下の長石・石英・雲母含む			
86	土師器 皿	8.0	1.3		60	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			
87	土師器 皿	8.2	1.6		85	10YR6/4にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母・赤色粒含む			

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色 調	胎 土	備考
88	2区 3面	土壇墓 227	土師器 皿	8.5	1.4		100	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	口縁油煙 附着
89			土師器 皿	8.4	1.5		85	7.5YR7/4にぶい橙色	やや密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
90			土師器 皿	8.2	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
91			土師器 皿	8.4	1.3		60	10YR8/3浅黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
92			土師器 皿	8.2	1.6		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
93			土師器 皿	8.0	1.5		50	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
94			土師器 皿	8.6	1.2		65	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
95			土師器 皿	8.4	1.2		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・雲母・赤色粒含む	口縁油煙 附着
96			土師器 皿	8.2	1.3		65	10YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
97			土師器 皿	8.0	1.1		90	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
98			土師器 皿	8.1	1.5		90	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
99			土師器 皿	8.0	1.5		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	
100			土師器 皿	8.4	1.5		75	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
101			土師器 皿	8.2	1.5		65	2.5Y7/2灰黄色	やや密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	油煙附着
102			土師器 皿	8.2	9.5		85	2.5Y7/2灰黄色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
103			土師器 皿	8.4	1.3		60	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
104			土師器 皿	8.3	1.2		60	10YR8/2灰白色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート含む	
105			土師器 皿	8.2	1.5		100	10YR7/6明黄褐色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
106			土師器 皿	8.3	1.6		100	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	
107			土師器 皿	8.4	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・チャート・雲母含む	
108	土師器 皿	11.6	2.2		40	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			
109	土師器 皿	12.3	2.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む			
110	土師器 皿	13.0	2.2		25	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			
111	土師器 皿	12.5	2.0		60	7.5YR7/6橙色	密 φ2.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む			
112	土師器 皿	12.3	2.4		60	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む			
113	土師器 皿	12.4	(2.2)		35	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・雲母・赤色粒含む			
114	土師器 皿	12.4	2.0		85	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ4mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む			
115	土師器 皿	13.3	2.3		35	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母・赤色粒含む			
116	土師器 皿	12.0	2.4		60	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色 調	胎 土	備考
117	2区 3面	土壇墓 227	土師器 皿	12.8	2.5		40	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
118			土師器 皿	12.2	2.2		85	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
119			土師器 皿	12.6	2.5		20	10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗 φ5mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
120			土師器 皿	12.4	2.3		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
121			土師器 皿	12.8	2.3		50	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
122			土師器 皿	12.8	1.7		40	7.5YR7/6橙色	やや密 φ4mm以下の石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
123			土師器 皿	12.6	2.5		80	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
124			土師器 皿	12.8	1.9		85	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の雲母含む	
125			土師器 皿	12.3	2.1		50	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
126			土師器 皿	11.8	2.2		50	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
127			土師器 皿	10.0	2.8		60	2.5Y8/1灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	
128			土師器 皿	10.8	(3.1)		25	2.5Y8/2灰白色	密 φ2mm以下のチャート含む	
129			土師器 皿	10.8	2.9		35	2.5Y8/2灰白色	密 φ4.5mm以下の石英・チャート含む	
130			土師器 皿	10.6	2.5		90	10YR8/2灰白色	密 φ4mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
131			土師器 皿	10.8	2.7		25	10YR8/2灰白色	密 φ5mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
132			瓦器 椀		(2.3)		破片	10YR4/1褐灰色	密 φ0.5mm以下の長石・石英含む	赤色塗料 内外面塗
133			埴埴		(2.2)		破片	外面 10YR8/3浅黄橙色 内面 N2/0黒色	やや粗 φ4mm以下の長石・石英・チャート含む	
134	2区 3面	土壇墓 157	土師器 皿	4.8	0.9		100	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の石英・雲母含む	
135			土師器 皿	6.6	1.9		100	10YR8/2灰白色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
136			土師器 皿	8.5	1.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ3.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
137			土師器 皿	7.8	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ4mm以下の長石・チャート・雲母含む	
138			土師器 皿	7.8	1.2		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
139			土師器 皿	8.8	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
140			土師器 皿	8.4	1.4		100	2.5Y7/3浅黄色	密 φ1.5mm以下のチャート・雲母含む	
141			土師器 皿	8.5	1.3		90	2.5Y7/2灰黄色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
142			土師器 皿	8.2	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	口縁油煙 付着
143			土師器 皿	8.0	1.2		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
144			土師器 皿	8.2	1.3		100	2.5Y8/3淡黄色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
145			土師器 皿	8.2	1.3		100	2.5Y8/3淡黄色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母含む	

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存(%)	色調	胎土	備考
146	2区 3面	土壇墓 157	土師器 皿	8.9	1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
147			土師器 皿	8.0	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・チャート・雲母含む	
148			土師器 皿	9.0	1.5		80	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・雲母含む	
149			土師器 皿	8.2	1.3		100	7.5YR7/6橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
150			土師器 皿	8.4	1.8		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
151			土師器 皿	7.9	1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	やや密 φ8mm以下のチャート、φ3mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
152			土師器 皿	8.9	1.4		100	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
153			土師器 皿	8.8	1.4		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	歪み激しい
154			土師器 皿	8.0	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
155			土師器 皿	8.4	1.6		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
156			土師器 皿	8.2	1.3		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
157			土師器 皿	8.2	1.3		100	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
158			土師器 皿	7.7	1.3		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母・赤色粒含む	
159			土師器 皿	8.2	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・雲母含む	
160			土師器 皿	8.2	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
161			土師器 皿	8.2	1.3		100	2.5Y8/3淡黄色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	
162			土師器 皿	7.8	1.3		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
163			土師器 皿	8.5	1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
164			土師器 皿	8.2	1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
165			土師器 皿	7.8	1.2		100	10YR8/4浅黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
166			土師器 皿	8.2	1.5		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
167			土師器 皿	8.1	0.9		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下のチャート・雲母・赤色粒含む	
168			土師器 皿	8.7	1.2		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
169			土師器 皿	8.5	1.4		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・雲母・赤色粒含む	
170	土師器 皿	10.0	2.1		80	7.5YR7/6橙色	密 φ2.5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む			
171	土師器 皿	12.2	2.2		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2.5mm以下の長石・赤色粒含む			
172	土師器 皿	12.0	2.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			
173	土師器 皿	12.0	1.7		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む			
174	土師器 皿	11.8	1.6		100	2.5Y7/3浅黄色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母含む			

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存(%)	色調	胎土	備考
175	2区 3面	土墳墓 157	土師器 皿	11.6	1.7		100	10YR7/4にぶい黄橙色	やや密 φ1.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
176			土師器 皿	12.3	2.1		90	10YR7/4にぶい黄橙色	やや密 φ4mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
177			土師器 皿	12.0	2.2		100	10YR7/4にぶい黄橙色	やや密 φ2mm以下の長石・雲母・赤色粒含む	
178			土師器 皿	12.2	2.1		100	7.5YR7/6橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
179			土師器 皿	11.7	2.1		100	10YR8/4浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
180			土師器 皿	11.9	2.1		80	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
181			土師器 皿	13.0	2.5		100	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
182			土師器 皿	11.9	2.3		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
183			土師器 皿	11.8	2.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	
184			土師器 皿	12.1	2.0		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	口縁油煙 附着
185			土師器 皿	11.8	2.1		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
186			土師器 皿	12.2	2.0		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ2.5mm以下の長石・雲母・赤色粒含む	
187			土師器 皿	11.8	1.9		100	10YR7/4にぶい黄橙色	やや密 φ3.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
188			土師器 皿	11.3	2.2		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
189			土師器 皿	12.0	2.3		100	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・雲母含む	
190			土師器 皿	12.9	2.4		90	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
191			土師器 皿	12.0	2.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
192			土師器 皿	7.5	2.0		100	2.5Y8/2灰白色	密 φ2.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
193			土師器 皿	7.9	1.9		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ3.5mm以下の長石・チャート含む	
194			土師器 皿	8.0	2.2		65	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
195			土師器 皿	10.3	2.8		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	
196			土師器 皿	10.5	3.0		100	10YR8/2灰白色	密 φ3mm以下の長石・石英・雲母含む	
197			土師器 皿	10.3	3.1		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
198	土師器 皿	10.6	2.6		100	10YR8/2灰白色	密 φ2mm以下の長石・石英含む			
199	土師器 皿	10.3	2.8		80	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む			
200	土師器 皿	11.9	3.2		90	10YR8/3浅黄橙色	密 φ3mm以下の長石・チャート含む			
201	土師器 皿	11.7	3.2		90	10YR8/3浅黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート含む			
202	土師器 皿	12.9	3.1		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			
203	土師器 皿	10.4	3.0		85	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む			

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存(%)	色調	胎土	備考
204	2区 3面	土墳墓 157	土師器 皿	13.0	3.0		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ8mm以下のチャート、φ3mm以下の長石含む	
205			土師器 皿	11.8	3.2		75	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・チャート含む	
206			土師器 皿	11.8	3.4		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・チャート含む	
207			土師器 皿	12.7	3.3		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
208			土師器 皿	12.8	3.5		100	2.5Y8/2灰白色	密 φ2mm以下の長石・チャート含む	
209			土師器 皿	12.9	3.2		100	2.5Y8/3淡黄色	密 φ4mm以下の長石含む	
210			土師器 皿	13.0	3.3		100	2.5Y8/3淡黄色	密 φ6mm以下の長石、φ3mm以下のチャート含む	
211			土師器 皿	12.3	2.8		100	10YR8/4浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・チャート含む	
212			土師器 皿	10.7	3.2		100	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	轆轤成形 底部糸切
213			須恵器 鉢	28.4	(4.8)		25	N6/0灰色	密 φ3mm以下の長石・石英含む	東播系
214			輸入白磁 皿	10.1	1.6	7.0	15	胎土 N8/0灰白色 釉 5GY7/1明オリーブ灰色	密	
215			輸入青磁 輪花椀		(2.3)	4.4	底部 25	胎土 N8/0灰白色 釉 7.5GY6/1緑灰色	密	龍泉窯系
216			輸入青磁 椀		(2.1)	4.1	底部 60	胎土 N8/0灰白色 釉 5GY7/1明オリーブ灰色	密	龍泉窯系
217			輸入青磁 椀	16.8	(4.8)		15	胎土 5Y7/1灰白色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	精良	龍泉窯系
218	輸入青磁 皿	9.7	2.1	4.7	20	胎土 2.5Y7/2黄灰色 釉 10Y7/1灰白色	精良	龍泉窯系		
219	瓦器 火鉢	46.0	(8.9)		25	2.5Y6/2灰黄色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む			
220	輸入陶器 壺	4.8	(4.1)		口縁 100	胎土 N5/0灰色 釉 10Y5/2オリーブ灰色	密	緑釉		
221	2区 3面	土坑464	土師器 皿	6.4	2.0		100	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
222			土師器 皿	6.4	2.0		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ3mm以下の長石・石英含む	
223			土師器 皿	6.4	2.1		90	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
224			土師器 皿	6.2	1.9		75	10YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート含む	
225			瓦器 鍋	21.6	(5.2)		15	N6/0灰色	やや粗 φ1mm以下の長石・石英・雲母・黒色粒含む	
226			瓦器 鍋	21.6	(6.0)		15	N4/0灰色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	
227			2区 3面	土坑212	土師器 皿	7.1	1.8		100	10YR8/2灰白色
228	土師器 皿	6.7			1.6		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母含む	
229	土師器 皿	8.0			1.4		60	2.5Y7/2灰黄色	密 φ2mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒子含む	
230	土師器 皿	7.6			1.5		60	7.5YR7/3にぶい橙色	密 φ2mm以下のチャート・雲母・赤色粒含む	
231	土師器 皿	7.8			1.5		80	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	口縁油煙 付着
232	土師器 皿	7.5			1.5		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2.5mm以下の石英・チャート・雲母・赤色粒含む	

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存(%)	色調	胎土	備考
233	2区 3面	土坑212	土師器 皿	8.1	1.4		80	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	口縁油煙 付着
234			土師器 皿	8.1	1.9		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
235			土師器 皿	9.1	1.9		25	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
236			土師器 皿	10.2	2.0		25	10YT7/2にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	口縁油煙 付着
237			土師器 皿	11.8	2.9		80	10YR8/2灰白色	密 φ1.5mm以下のチャート・雲母含む	
238			土師器 皿	11.6	2.7		60	10YR8/2灰白色	密 φ2mm以下の石英・チャート・赤色粒含む	
239			土師器 皿	11.7	3.2		80	10YR8/2灰白色	密 φ2mm以下の長石・チャート・雲母含む	
240			土師器 皿	11.5	2.7		90	2.5Y8/1灰白色	密 φ3mm以下のチャート・雲母含む	
241			土師器 鉢		(3.6)	3.8	底部 100	7.5YR6/4にぶい橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
242			2区 3面	井戸 130B	土師器 皿	6.5	1.9		60	10YR8/2灰白色
243	土師器 皿	6.9			1.9		80	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	
244	土師器 皿	6.4			1.7		75	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母含む	
245	土師器 皿	7.9			1.5		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
246	土師器 皿	7.8			1.9		80	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
247	土師器 皿	11.1			2.8		85	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	
248	土師器 皿	10.6			2.6		25	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
249	土師器 皿	11.4			2.8		75	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む	
250	2区 2面	土坑206			土師器 皿	6.4	2.0		60	7.5YR8/3浅黄橙色
251			土師器 皿	6.9	2.1		80	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
252			土師器 皿	6.4	1.8		60	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・赤色粒含む	
253			土師器 皿	6.8	1.9		40	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・チャート含む	
254			土師器 皿	6.5	1.9		100	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の石英・赤色粒含む	
255			土師器 皿	6.4	2.1		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート含む	
256			土師器 皿	6.5	2.0		100	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	
257			土師器 皿	7.0	1.9		25	10YR8/1灰白色	密 φ0.5mm以下のチャート・雲母含む	
258			土師器 皿	7.4	1.7		80	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下のチャート・雲母含む	
259			土師器 皿	9.9	2.1		90	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	口縁油煙 付着
260			土師器 皿	10.4	2.5		35	5YR6/6橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	
261			土師器 皿	11.6	3.1		90	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・赤色粒含む	

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色 調	胎 土	備考		
262	2区 2面	土坑206	土師器 皿	11.6	3.0		100	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ4mm以下の長石・チャート・赤色粒含む			
263			土師器 皿	11.3	3.1		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ0.5mm以下のチャート・赤色粒含む			
264			土師器 皿	12.9	3.8		40	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下の石英・チャート・赤色粒含む			
265			土師器 皿	14.3	3.6		50	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英含む			
266			灰釉陶器 椀	10.9	(2.5)		15	10YR8/2灰白色	密 微細粒含む	山茶椀		
267			瓦器 椀	14.2	(3.5)		15	N2/0黒色	やや粗 φ5mmの長石、φ1mm以下の長石・石英・黒色粒含む			
268			瓦器 羽釜	11.9	(3.4)		15	N7/0灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・黒色粒含む			
269			施釉陶器 卸皿	12.8	3.1	8.1	15	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y7/2灰白色	密 微細粒含む	瀬戸灰釉 底部糸切		
270			焼締陶器 甕	(36.0)	(10.0)		15	5YR5/4にぶい赤褐色	密 φ5mm以下の長石・石英・チャート・小礫含む	常滑		
271			2区 2面	井戸 130A	土師器 皿	5.9	1.7		100	10YR8/2灰白色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	
272	土師器 皿	6.6			2.2		90	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む			
273	土師器 皿	6.5			1.8		100	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート含む	口縁油煙 付着		
274	土師器 皿	7.1			1.9		100	10YR8/2灰白色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	油煙付着		
275	土師器 皿	7.3			1.6		35	5Y8/1灰白色	密 φ0.5mm以下の黒色粒含む			
276	土師器 皿	10.0			1.8		60	10YR8/4浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒含む	油煙付着		
277	土師器 皿	9.9			2.3		75	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	油煙付着		
278	土師器 皿	4.9			2.3		60	10YR8/4浅黄橙色	密 φ5mm大の長石、φ1mm以下の長石・石英・赤色粒含む			
279	土師器 皿	10.2			2.6		25	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒含む	油煙付着		
280	土師器 皿	11.2			3.1		35	10YR8/2灰白色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲母含む	油煙付着		
281	土師器 皿	13.5			3.1		60	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英含む			
282	2区 2面	溝151			土師器 皿	6.8	1.7		25	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・雲母含む	
283					土師器 皿	6.8	(1.7)		15	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
284			土師器 皿	7.1	1.6		60	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の石英・雲母含む			
285			土師器 皿	6.4	1.4		80	7.5YR6/4にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の長石・石英・雲母含む			
286			土師器 皿	7.6	1.8		60	7.5YR5/4にぶい褐色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・赤色粒含む			
287			土師器 皿	8.3	(1.5)		35	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ0.5mm以下の石英・雲母・赤色粒含む			
288			土師器 皿	8.8	(1.6)		25	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の雲母・赤色粒含む			
289			土師器 皿	9.1	(1.3)		25	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・チャート・赤色粒含む			
290			土師器 皿	9.1	(2.0)		40	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母・赤色粒含む			

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色 調	胎 土	備考
291	2区 2面	溝151	土師器 皿	9.4	2.0		25	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の雲母・赤色粒 含む	
292			土師器 皿	9.0	1.6		60	2.5Y8/2灰白色	密 φ1mm以下の石英・雲母含 む	
293			土師器 皿	9.2	(2.0)		20	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母 含む	
294			土師器 皿	9.8	1.9		25	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・石英・ チャート・雲母含む	
295			土師器 鍋	24.5	13.3	18.9	65	10YR6/4にぶい黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・雲 母・赤色粒含む	
296	3区 1面	井戸379	土師器 皿	9.5	2.1		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英含 む	
297			土師器 皿	9.5	1.9		25	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英含 む	
298			瓦器 鉢	26.0	(7.6)		15	5Y5/1灰色	やや粗 φ1mm以下の長石・石 英・黒色粒含む	
299			焼締陶器 挿鉢	28.4	(9.4)		20	2.5YR6/8橙色	密 φ5mm以下の石英多く含む、 長石・赤色粒含む	信楽
300	1区 2面	土坑17	土師器 皿	7.2	(1.9)		25	10YR8/4浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・チ ャート含む	
301			土師器 皿	7.8	(1.9)		25	2.5Y8/2灰白色	密 φ0.5mm以下の長石・チャ ート含む	
302			土師器 皿	12.9	(3.0)		15	7.5YR7/4にぶい橙色	やや密 φ5mm以下の長石・雲 母含む	
303			土師器 皿	16.8	(2.5)		20	10YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・石英・チ ャート・雲母・赤色粒含む	
304			土師器 皿	14.8	2.8		40	7.5YR8/6浅黄橙色	密 φ9mmのチャート、φ3mm以下 の長石・チャート・雲母・赤色粒含む	
305			土師器 皿	15.1	2.8		40	10YR8/3浅黄橙色	密 φ5mm以下の長石・チャ ート・雲母含む	
306			瓦器 火鉢	47.7	11.1	38.0	35	2.5Y4/1黄灰色	密 φ5mm以下の長石・石英・チ ャート・雲母含む	
307	3区 1面	土坑378	土師器 皿	7.0	1.7		75	7.5YR7/3にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲 母・赤色粒含む	口縁油煙 付着
308			土師器 皿	15.0	(2.4)		25	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤 色粒含む	
309			土師器 皿	13.7	2.4		90	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・赤 色粒含む	
310			施釉陶器 受皿付椀		(3.4)	5.7	高台 100	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5YR2/1黒褐色	やや粗 φ1mm以下の長石・赤 色粒含む	天目
311			青磁 椀		(3.3)	5.0	底部 25	胎土 N8/0灰白色 釉 10Y6/2オリーブ灰色	密	
312			青磁 椀	14.2	(4.2)		15	胎土 N8/0灰白色 釉 10Y6/2オリーブ灰色	密	
313			焼締陶器 挿鉢	26.2	(5.3)		10	10YR6/2灰黄褐色	密 φ3mm以下の長石・石英・黒 色粒含む	備前
314	2区 1面	井戸107	土師器 皿	7.8	1.8		50	7.5YR7/6橙色	やや密 φ2.5mm以下の長石・雲 母・赤色粒含む	
315			施釉陶器 壺		(2.6)	5.2	底部 100	胎土 2.5Y8/4淡黄色 釉 10YR3/1黒褐色	密 φ0.5mm以下の長石含む	古瀬戸 底部糸切
316	1区 1面	土坑14	土師器 皿	5.4	8.5		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲 母含む	
317			土師器 皿	5.1	0.9		75	10YR7/2にぶい黄橙色	密 φ5mm以下の長石・石英・雲 母・赤色粒含む	
318			土師器 皿	5.7	1.1		100	10YR7/4にぶい黄橙色	密 φ1mm以下の長石・雲母含 む	
319			土師器 皿	6.1	2.3		100	7.5YR6/4にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含 む	

No.	調査区・面	遺構名	器種・器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色 調	胎 土	備考
320	1区 1面	土坑14	土師器 皿	7.1	1.4		100	2.5YR7/2灰黄色	密 φ2mm以下の長石・チャート・雲母含む	
321			土師器 皿	7.6	1.4		50	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・雲母含む	
322			土師器 皿	9.3	2.2		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
323			土師器 皿	9.5	2.0		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1mm以下の長石・雲母含む	
324			土師器 皿	9.6	1.9		75	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の長石・石英・雲母含む	
325			土師器 皿	9.7	2.2		75	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ1.5mm以下の石英・雲母含む	内面墨書
326			土師器 皿	10.9	2.0		100	2.5Y8/2灰白～7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2.5mm以下の長石・チャート含む	口縁油煙付着
327			土師器 皿	10.6	2.0		65	7.5YR8/3浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・雲母含む	
328			土師器 皿	10.8	2.0		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・雲母含む	
329			土師器 皿	10.9	1.9		75	10YR7/3にぶい黄橙色	密 φ3mm以下の長石・チャート含む	口縁油煙付着
330			土師器 皿	10.7	1.9		100	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	内面油煙付着
331			土師器 皿	11.0	1.9		90	7.5YR8/4浅黄橙色	密 φ1.5mm以下の長石・チャート・赤色粒含む	口縁油煙付着
332			土師器 皿	10.7	2.0		90	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・チャート・赤色粒含む	口縁油煙付着
333			土師器 皿	12.2	1.7		75	7.5YR7/3にぶい橙色	密 φ0.5mm以下の長石・チャート含む	口縁油煙付着
334			土師器 皿	16.7	2.0		50	7.5YR7/4にぶい橙色	密 φ2mm以下の長石・石英含む	
335			土師器 皿	17.0	2.4		100	10YR8/3浅黄橙色	密 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	
336			土師器 皿	12.8	2.0		65	10YR6/3にぶい黄橙色	密 φ0.5mm以下の長石・雲母含む	口縁油煙付着
337			土師器 焙烙	30.0	(7.2)		50	10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗 φ1mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒含む	口縁部まで型作り
338			青磁 椀	10.4	7.2	4.8	60	胎土 N8/0灰白色 釉 5GY7/1明オリーブ灰色	密	伊万里
339			施釉陶器 皿	12.2	2.5	7.5	60	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y7/2灰白色	密 微細粒含む	伊万里
340			染付 椀	10.7	6.2	4.5	100	胎土 白色 釉 10GY8/1明緑灰色	密	伊万里
341	焼締陶器 播鉢	22.3	10.0	11.0	80	7.5YR4/3褐色	密 φ4mm以下の長石・石英含む	丹波		
342	焼締陶器 播鉢		(10.2)	15.4	60	2.5YR6/8橙色	密 φ3mm以下の長石・石英・チャート含む	丹波		
343	瓦質土器 瓦灯蓋		(20.5)	18.2	90	N3/0暗灰色	密 φ1mm以下の長石・石英・黒色粒含む			
344	瓦器 壺	14.0	21.2	18.0	25	N3/0暗灰色	やや粗 φ1mm以下の長石・石英・黒色粒含む			
345	埴塙		(15.2)	14.8	底部 100	N2/0黒色	密 φ7mm以下の長石・石英含む			

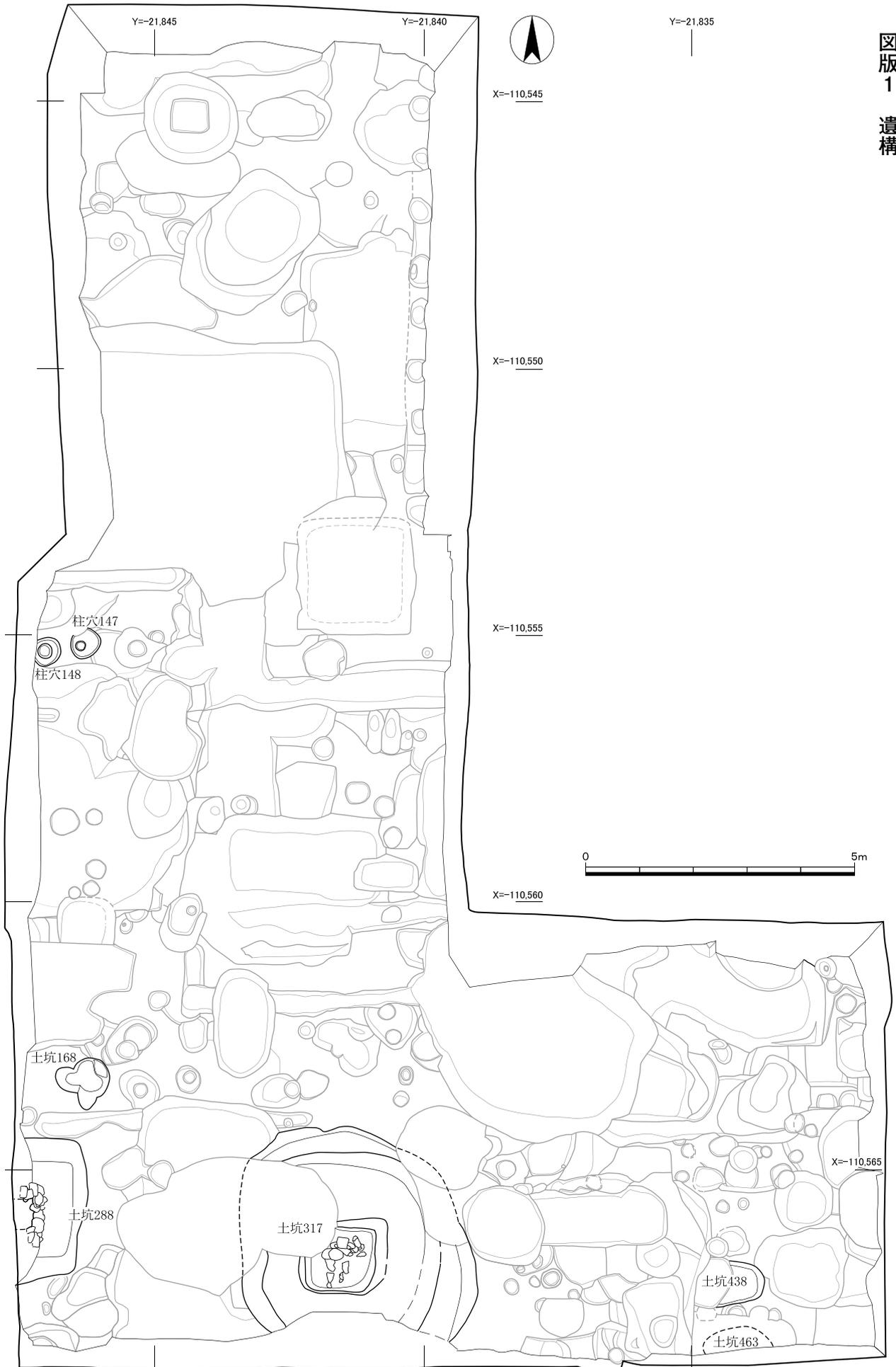
付表2 掲載銭貨一覧表

番号	銭貨名	書体	径(cm)	重さ(g)	国	初鑄年	備考
362	開元通寶		2.545	3.203	唐	621	背上月
363	太平通寶		2.40	2,846	北宋	976	
364	淳化元寶	真書	2.45	2.782	北宋	990	
365	淳化元寶	草書	2.465	3.134	北宋	990	
366	至道元寶	真書	2.51	3.216	北宋	995	
367	咸平元寶		2.48	3.330	北宋	998	
368	景德元寶		2.46	3.160	北宋	1004	
369	祥符通寶	行書	2.50	2.874	北宋	1009	
370	祥符元寶	行書	2.54	3,161	北宋	1009	
371	天禧通寶		2.34	2.683	北宋	1017	
372	天聖元寶	真書	2.49	3.177	北宋	1023	
373	天聖元寶	篆書	2.46	3.319	北宋	1023	
374	皇宋通寶	真書	2.54	3.503	北宋	1038	
375	皇宋通寶	篆書	2.475	2.709	北宋	1038	
376	至和元寶	真書	2.435	2.457	北宋	1054	
377	至和元寶	篆書	2.35	3.305	北宋	1054	
378	嘉祐通寶	真書	2.475	2.488	北宋	1056	
379	治平元寶	真書	2.56	2.705	北宋	1064	
380	治平元寶	篆書	2.36	2.292	北宋	1064	
381	熙寧元寶	真書	2.46	4.277	北宋	1068	
382	熙寧元寶	篆書	2.52	3.129	北宋	1068	
383	元豐通寶	行書	2.48	2.846	北宋	1078	
384	元豐通寶	篆書	2.38	2.154	北宋	1078	
385	元祐通寶	行書	2.515	3.287	北宋	1086	
386	元祐通寶	篆書	2.445	2.831	北宋	1086	
387	紹熙元寶		2.39	2.885	南宋	1190	背五
388	紹聖元寶	行書	2.405	3.056	北宋	1094	
389	紹聖元寶	篆書	2.35	1.952	北宋	1094	
390	元符通寶	行書	2.45	4.212	北宋	1098	
391	元符通寶	篆書	2.465	3.135	北宋	1098	
392	聖宋元寶	行書	2.53	2.537	北宋	1101	
393	聖宋元寶	篆書	2.44	3.161	北宋	1101	
394	大觀通寶		2.46	4.011	北宋	1107	
395	政和通寶	分楷	2.48	3.311	北宋	1111	
396	政和通寶	篆書	2.47	3.327	北宋	1111	
397	正隆元寶		2.51	3.226	金	1157	
398	淳熙元寶	篆書	2.40	3.003	南宋	1174	背月星
399	洪武通寶		2.26	1.652	明	1368	単点通か
400	永樂通寶		2.23	1.819	明	1408	



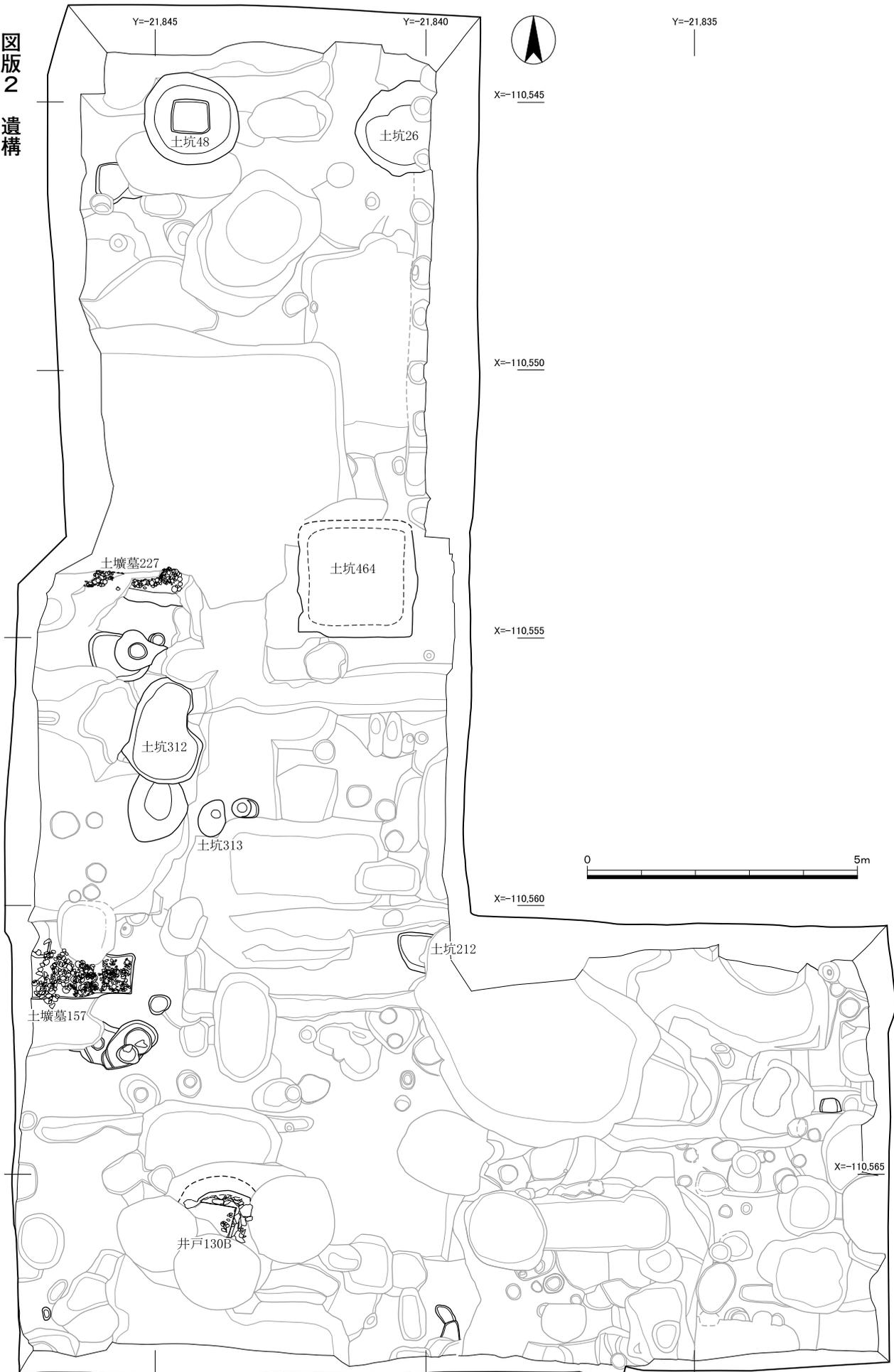
# 圖 版



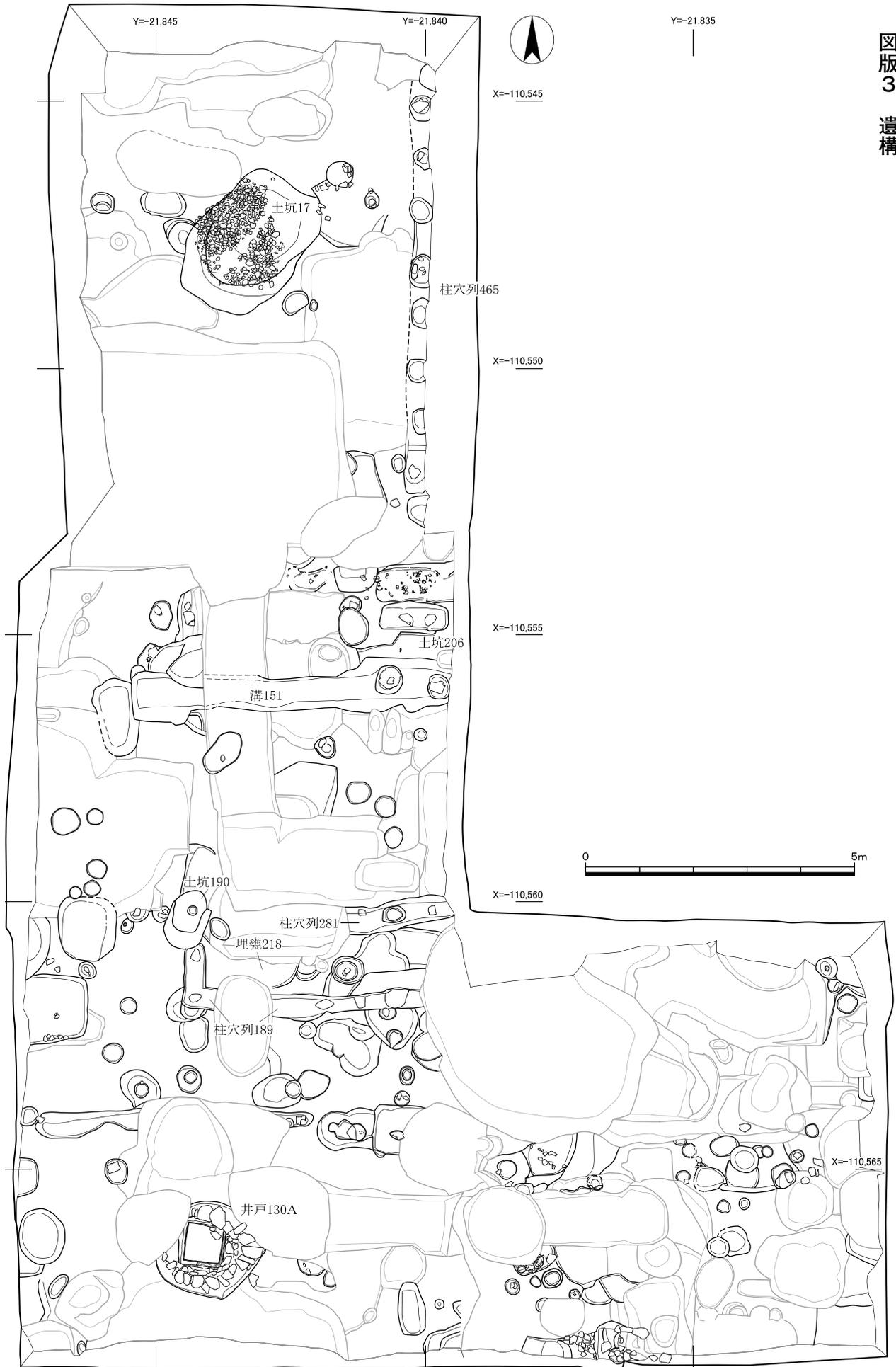


第4面遺構平面図 (1 : 100)

図版2  
遺構

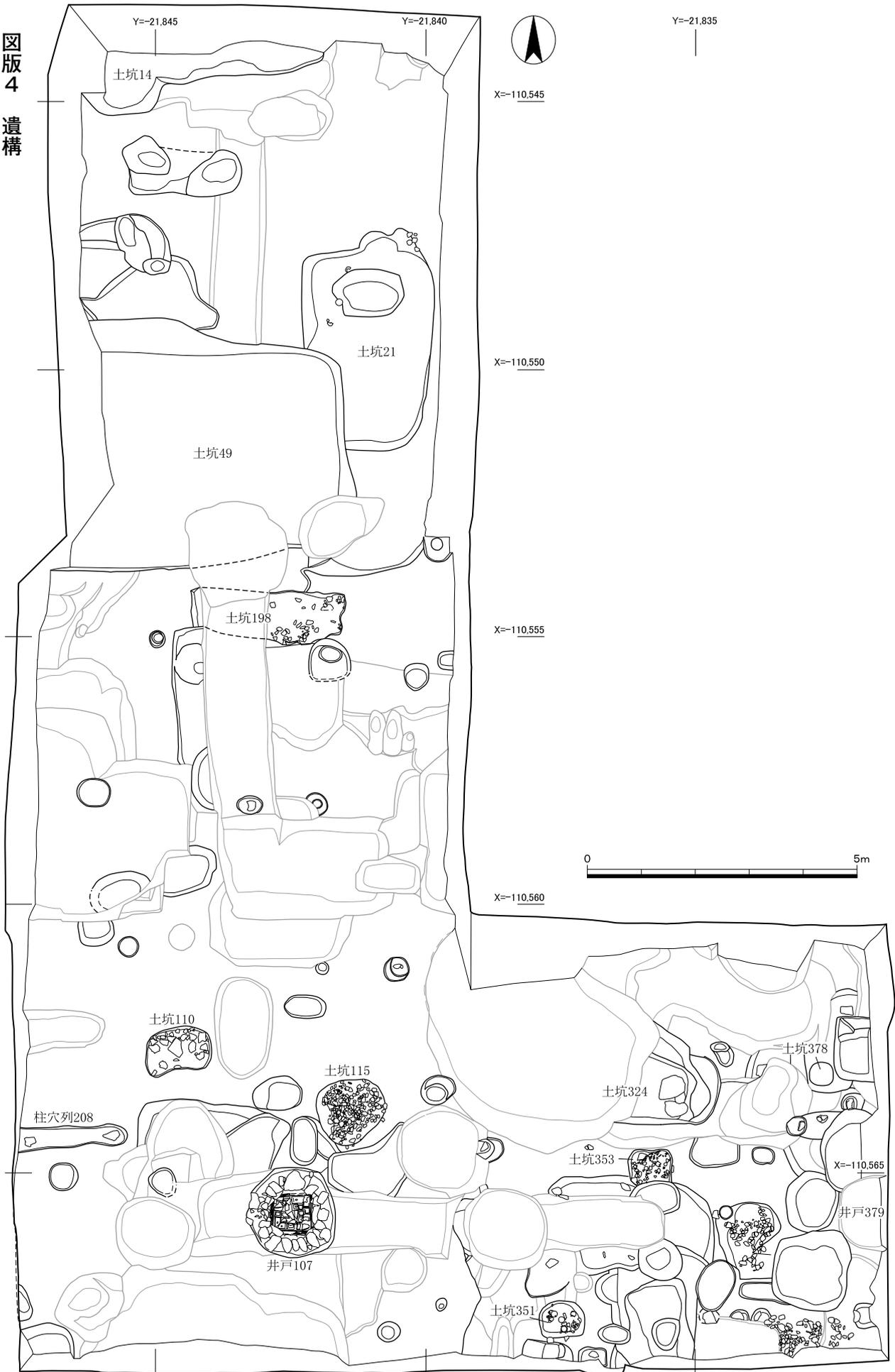


第3面遺構平面図 (1 : 100)



第2面遺構平面図 (1 : 100)

図版4  
遺構



第1面遺構平面図 (1 : 100)



1 1区全景（北から）



2 2区第3・4面全景（北から）



1 2区第2面全景（北から）



2 2区第1面全景（北から）



1 3区第2・3面全景（北西から）



2 3区第1面全景（北西から）



1 2区第4面 土坑317北半掘り下げおよび東西断面（北西から）



2 2区第3面 井戸130B掘り下げ状況（南から）



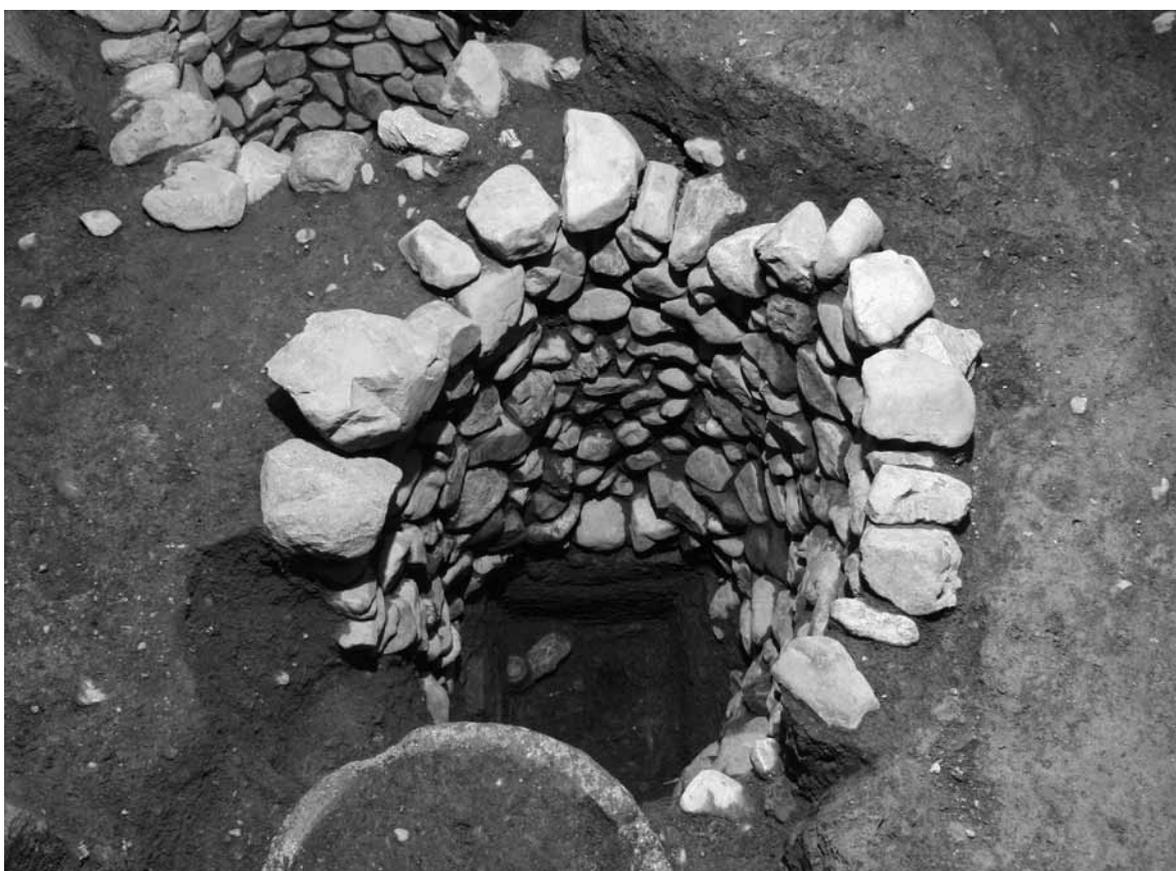
3 2区第3面 土壙墓227埋納土器検出状況（東から）



1 2区第3面 土壙墓157埋納土器検出状況  
(西から)



2 同左 完掘状況 (西から)



3 2区第2面 井戸130A掘り下げ状況 (西から)



1 2区第2面 埋甕218上面埋納土器検出状況  
(西から)



2 2区第2面 土坑190検出状況(北西から)



3 2区第2面 土坑17礫群検出状況(北東から)



1 2区第2面 柱穴列189・281礎石検出状況（東から）



2 2区第2面 柱穴列465検出状況（北から）



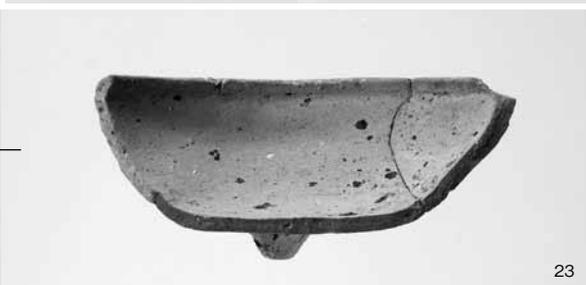
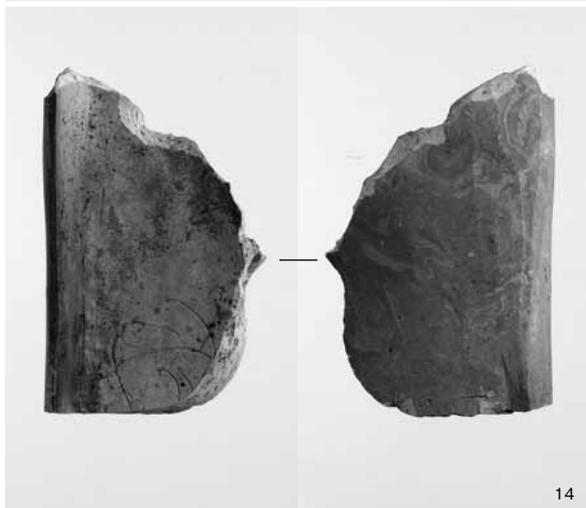
3 3区第1面 土坑351土器検出状況（西から）



1 2区第1面 土坑115上面礫群検出状況（北から） 2 同左 下層銅銭検出状況（東から）



3 2区第1面 井戸107掘り下げ状況（北から）



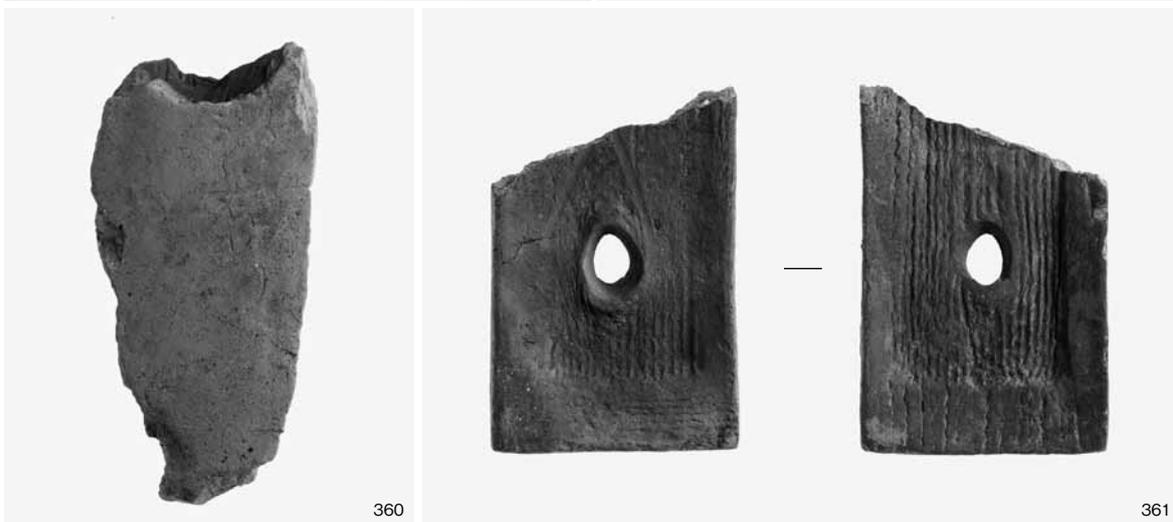
出土土器 1



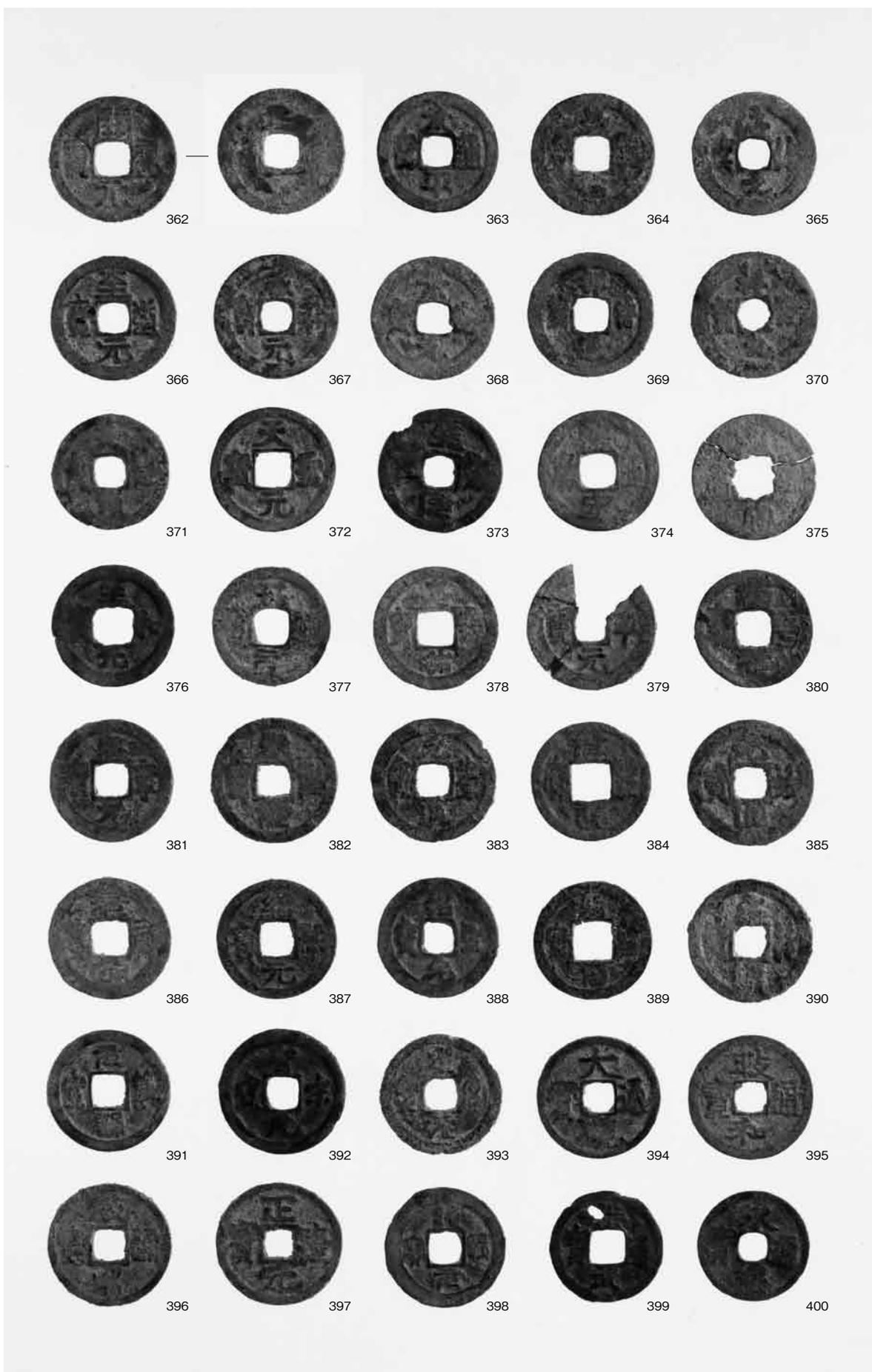




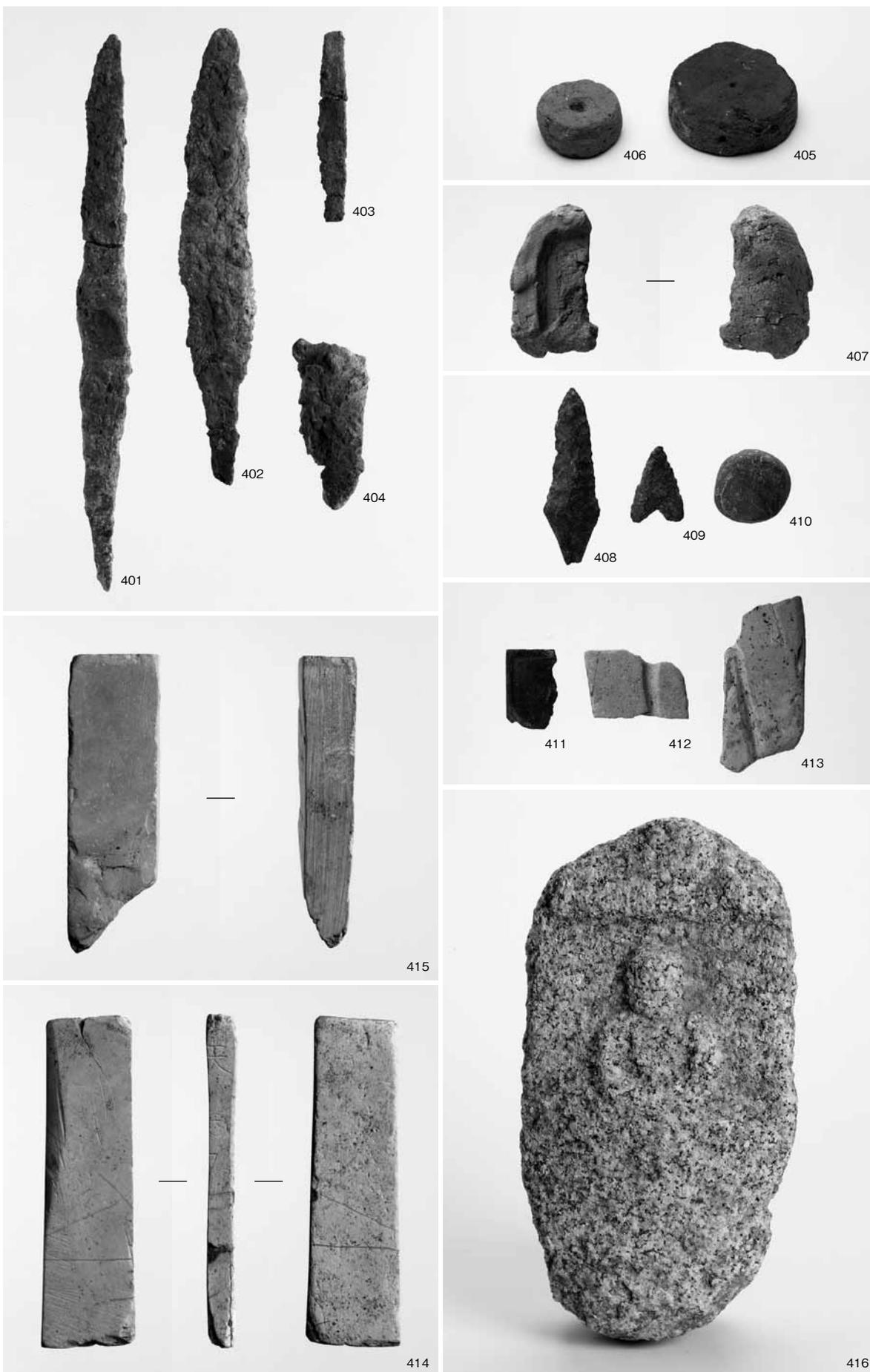
出土土器 4



出土瓦類



土坑115出土錢貨



金属製品・土製品・石製品

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうごじょうさんぼうじゅうろくちょうあと・からすまあやのこうじいせき							
書名	平安京左京五条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2012-21							
編著者名	高橋 潔							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2013年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 からすまあやのこうじいせき 烏丸綾小路遺跡	きょうとししもぎょうくしじょう 京都市下京区四条 どおりからすまびがしいるなぎなたぼこ 通烏丸東入長刀鉾 ちょう 町7番、30番、 ひがしのとういんどおりしじょうさがる 東洞院通四条下る もとあくおうじちょう 元悪王子町40番、 44番、45番ほか	26100	1  712	35度 00分 12秒	135度 45分 39秒	2012年10月 1日～2012 年12月25日	280㎡	建物建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	弥生時代 ～古墳時代		弥生土器、土師器、須 恵器、石鏃				
烏丸綾小路遺跡	集落跡	平安時代中期 ～後期	井戸	土師器、須恵器、緑釉 陶器、灰釉陶器、黒色 土器、瓦類				
		平安時代末期 ～鎌倉時代前半	柱穴、土坑					
		鎌倉時代末期 ～室町時代初期	井戸、土坑、土壙 墓、柱穴	土師器、須恵器、瓦器、 施釉陶器、焼締陶器、 磁器、瓦類、金属製品、 土製品、石製品				
		室町時代前期 ～後期	井戸、土坑、柱穴、 埋甕、礎石柱列、 溝					
		室町時代末期 ～江戸時代前期	井戸、土坑、柱穴、 礎石柱列、溝	土師器、瓦質土器、施 釉陶器、焼締陶器、磁 器、染付、瓦類、銭貨、 金属製品、土製品、漆 製品、石製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-21

平安京左京五条三坊十六町跡・  
烏丸綾小路遺跡

発行日 2013年5月31日

編集行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961